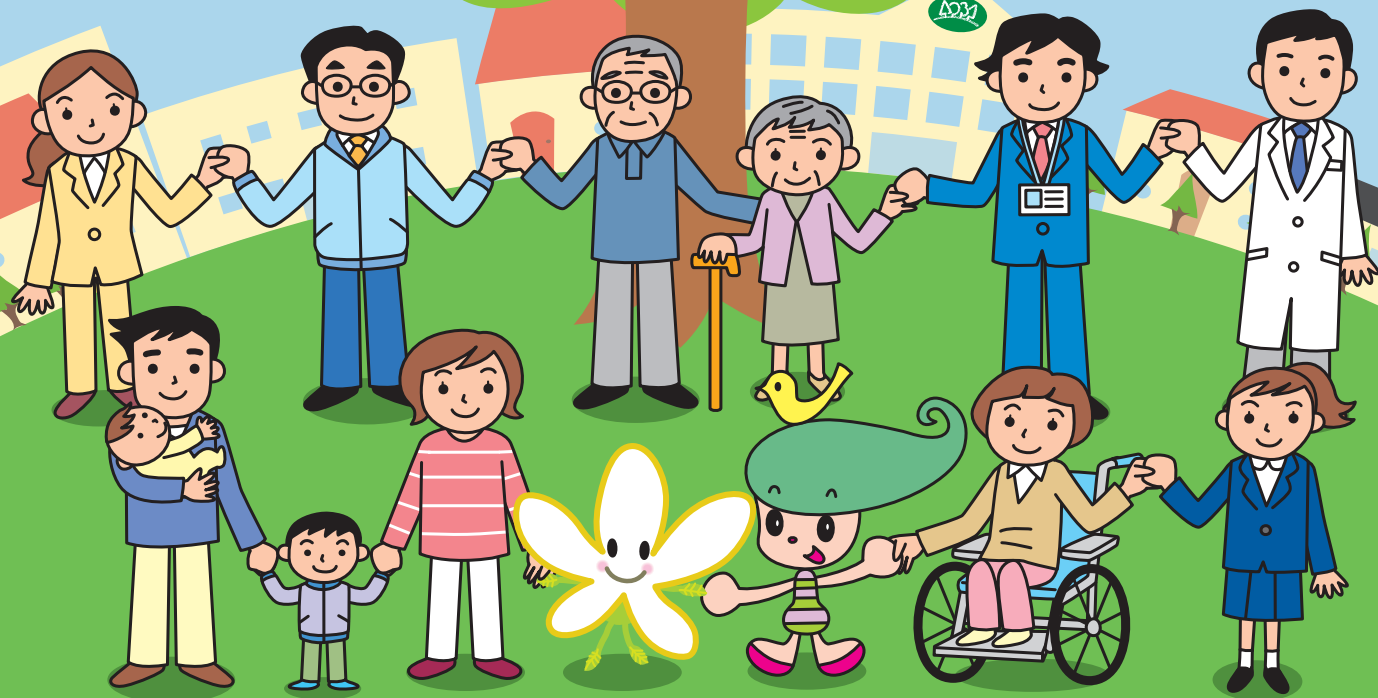


第3期青葉区地域福祉保健計画

青葉かがやく 生さ生きプラン

区民・事業者・行政の協働による福祉保健のまちづくり
～みんなの力で！もっと素敵に青葉区ライフ～

計画期間：平成28年度～32年度



平成28年3月

横浜市青葉区役所

社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

青葉区内地域ケアプラザ

第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会

第3期青葉区地域福祉保健計画の策定にあたって

青葉区長あいさつ



この度、第3期青葉区地域福祉保健計画「青葉かがやく生き生きプラン」を策定いたしました。策定にあたり、計画策定委員の方々をはじめ、多くの区民の皆さまのご協力、ご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

地域福祉保健計画は、住民、事業者、公的機関が身近な地域の支えあいの仕組みをつくり、協働して地域の課題解決に取り組んでいくことを目的としています。

そのため、計画の策定にあたっては、地域の皆さまをはじめ、地域で活動するさまざまな団体の方々の声を反映することが大変重要となります。

第3期青葉区地域福祉保健計画においては、多くの皆さまが策定に関わっていただいた結果、地域のニーズや課題を捉えた青葉区らしい計画とすることができました。計画策定委員会をはじめとするさまざまな検討会議、意見募集やアンケートにおいても、大変貴重なご意見をいただきました。

また、地区別計画では、各地域で開催される地区別計画推進会議や意見交換会において積極的な検討が行われ、地域の皆さまの手によって、各地区の特性に合わせた計画が策定されました。

結びに、計画はその推進が重要です。区役所としましても、青葉区社会福祉協議会、地域ケアプラザやその他の関係機関や活動団体の方々と連携しながら、広く区民の皆さまに計画をお知らせするとともに、その推進に取り組み、誰もが安心して健やかに暮らせるまちを実現し、「住みつけたいまち『青葉』」を目指してまいります。

引き続き、区民の皆さまのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

横浜市青葉区長 小池 恭一

青葉区社会福祉協議会会長あいさつ



青葉区社会福祉協議会は、基本理念である“誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす”ため、平成8年にスタートした「青葉やまぶきプラン」から現在の「第2期青葉区地域福祉保健計画」までを礎として、様々な地域福祉活動を実践してまいりました。

今回策定された平成28年4月からスタートする「第3期青葉区地域福祉保健計画～青葉かがやく生き生きプラン～」も、多くの区民の皆さま、福祉関係の団体や施設の方々と、これまで積み上げてきた成果や反省、そしてこれからの課題を共に考え、作り上げたものです。

この計画づくりの中では、たくさんの方から身近な地域の中でのつながりづくりが大切だというお声をいただいています。そのためには、区民の皆さま一人ひとりがこの計画を自分たちのものと捉え、行動していただくことが「誰もが安心して健やかに暮らせるまち」を作りあげる第一歩だと感じました。

青葉区社会福祉協議会は青葉区役所や地域ケアプラザと連携し、住民の皆さまの第一歩をお手伝いさせていただき、いつまでも住み続けたいと思える青葉区づくりを共に歩ませていただきたいと存じます。

横浜市青葉区社会福祉協議会
会長 中西 武夫

第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会委員長あいさつ



平成26年から検討を始めた、第3期青葉区地域福祉保健計画「青葉かがやく生き生きプラン」が皆さまのご協力により、このほどまとまりました。

今回の計画を策定するにあたっては、第2期計画の振り返りや地域の方々の意見を大切にするという方針を基に策定作業を進めてまいりました。

計画策定委員会での検討をはじめ、区民意識調査、地区別意見交換会のほか、障がい当事者団体やPTAの方々、そして将来を担う若者である中学生へグループインタビューを実施するなど、区民の皆さまのニーズを反映することを目指して、27年7月に策定した素案を基に、意見募集や団体アンケートの結果を取り入れながら検討を重ねてまいりました。

あわせて、地区別計画の策定においては各地区の皆さまが地区別計画推進会議や意見交換会で議論を重ね、それぞれの地区の特性に合った「5年後にめざしたいまちの姿」を描き、具体的な目標を掲げております。

この目標に合わせた取組をとおして、「地域のつながりづくり」を進めていただき、描いたまちの姿へと近づいていくことを期待しております。

最後になりますが、本計画策定にご協力いただいた区民の皆さま、各団体の皆さま、策定委員の皆さまに深く感謝申し上げますとともに、この計画をより多くの区民や団体に知っていただき、地域福祉保健の推進に参加してくださることを期待し、青葉区が「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」となることを心より願っております。

第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会
委員長 山川 英子

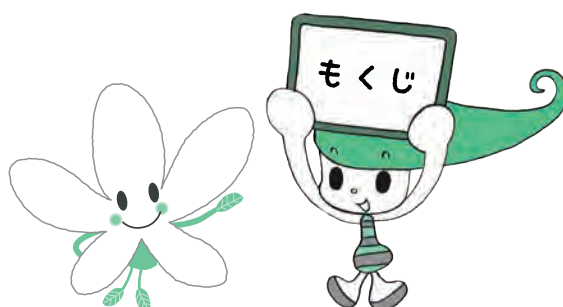
青葉かがやく生き生きプラン（第3期青葉区地域福祉保健計画）とは・・・

お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまちづくりを、
地域の皆さんとともに進める計画です。

目次

第1章	地域福祉保健計画について	1
第1節	地域福祉保健計画とは	2
第2節	青葉区地域福祉保健計画の位置づけ	3
第2章	青葉区の状況について	5
第1節	統計データからみた青葉区の特徴	6
第2節	青葉区区民意識調査からみた青葉区の特徴	15
第3章	計画策定の経過	19
第1節	計画策定の流れ	20
第2節	第2期計画の振り返り・区民の皆さんからの意見	22
第3節	振り返り・意見から見えてきた共通テーマ	26
第4章	第3期計画の内容	27
第1節	計画の考え方	28
第2節	区計画	30
	推進の視点①（地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成・活用）	32
	・身近な地域での見守りの輪を広げよう！	33
	・将来を担う人材育成や福祉の啓発活動をしています！	33
	推進の視点②（活動の土台となる情報・機会・ネットワークの充実）	34
	・知りたい！伝えたい！地域の情報を届けるために	35
	・地域ケアプラザが地域のつながりづくりをお手伝いしています！	35
	推進の視点③（高齢者・障がい者等の暮らしの支援）	36
	・これからも住み慣れた地域で元気に暮らしていくために！	37
	・ともに生きる福祉社会づくりをめざして！	37
	推進の視点④（子ども・青少年の健全育成）	38
	・「子育てに寄りそうまち」をめざしましょう！	39
	推進の視点⑤（健康長寿のまちづくりの推進）	40
	・人と人との「つながり」をいかした健康づくり！	41
	推進の視点⑥（災害時でも安心のまちづくりの推進）	42
	・いざという時に備えて「自助」「共助」に取り組もう！	43

第3節	地区別計画	44
	中里地区.....	46
	中里北部地区.....	48
	市ヶ尾地区.....	50
	上谷本地区.....	52
	谷本地区.....	54
	恩田地区.....	56
	青葉台地区.....	58
	奈良地区.....	60
	奈良北地区.....	62
	山内地区.....	64
	荏田地区.....	66
	荏田西地区.....	68
	新荏田地区.....	70
	すすき野地区.....	72
	美しが丘地区.....	74
第4節	計画の推進体制	76
第5章	資料編	81
●	団体別グループインタビュー・アンケート	82
●	各種団体・委嘱委員等の紹介	88
●	第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会 名簿	90
●	関係機関一覧	91





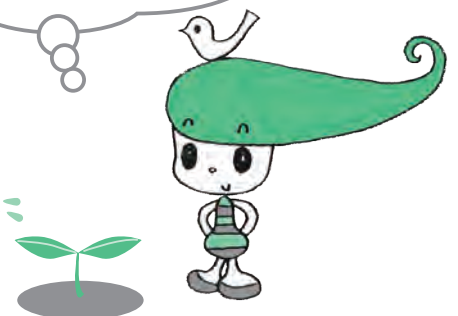
第1章

地域福祉保健計画について

地域福祉保健計画？



青葉区マスコットキャラクター
「なしかちゃん」



青葉区社会福祉協議会
マスコットキャラクター
「あおばちゃん」

第1節 地域福祉保健計画とは

(1) 地域福祉保健計画は“地域”が主人公

平成12年に社会福祉法が改正され、総合的な地域福祉の推進が大きな柱として打ち出されました。この中で、「地域福祉計画」は地域住民や事業者等福祉保健活動を行うあらゆる人・団体を主人公に、意見を反映させながら策定し、推進することとされています。

横浜市では、福祉と保健の取組を一体的に推進していくために、計画を「地域福祉保健計画」としました。青葉区では平成17年に第1期計画、平成22年に第2期計画を策定し、今日までさまざまな計画の取組を地域の皆さんとともに進めてきました。

(地域福祉の推進)

地域福祉の推進主体は「地域住民、社会福祉を目的とする事業を営業者及び社会福祉に関する活動を行う者」

(社会福祉法第4条 抜粋)

(市町村地域福祉計画)

市町村は「地域福祉の推進に関する事項として(中略)計画を策定し」、「住民、社会福祉を目的とする事業を営業者その他社会福祉に関する活動を行う者の意見を反映させるために必要な措置を講ずるよう努める」

(社会福祉法第107条 抜粋)

(2) めざしているのは“身近な地域での支えあい・助けあい”

近年、地域を取り巻く状況は大きく変化しています。少子高齢化、核家族化による家族形態の変化、人々の価値観や生活スタイルの多様化等により、住民同士のつながりが希薄になっていると感じる人も多くなってきています。また、「団塊の世代*1」が75歳以上となる平成37年(2025年)には、青葉区においても、約4人に1人が高齢者であると予想されており、支援を必要とする人が増えていくと考えられます。

これからも、住み慣れた地域で安心して暮らし続けていくためには、声かけや見守り、ちょっとしたお手伝いなどができる、地域のつながりや支えあいの意識を強めていく必要があります。

青葉区地域福祉保健計画(青葉かがやく生き生きプラン)とは、誰もが安心して自分らしく健やかに暮らせる地域づくりをめざし、区民、事業者、公的機関(行政・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等)が地域の課題解決に協働して取り組み、「頼み、頼まれる」身近な支えあいの仕組みづくりを進めることを目的として、策定・推進するものです。

★地域の皆さんがつながると…

介護、子育て、健康づくり、災害時などいろいろな場面で力を発揮し、地域の課題を皆さんで解決していくことができます!

★地域福祉保健計画は…

地域の皆さんが、「自分の住んでいる地域がこうなるといいな」と思うことを、みんなで一緒に考え、進めていく計画です!

*1 昭和22年(1947年)～24年(1949年)生まれの世代

第2節

青葉区地域福祉保健計画の位置づけ

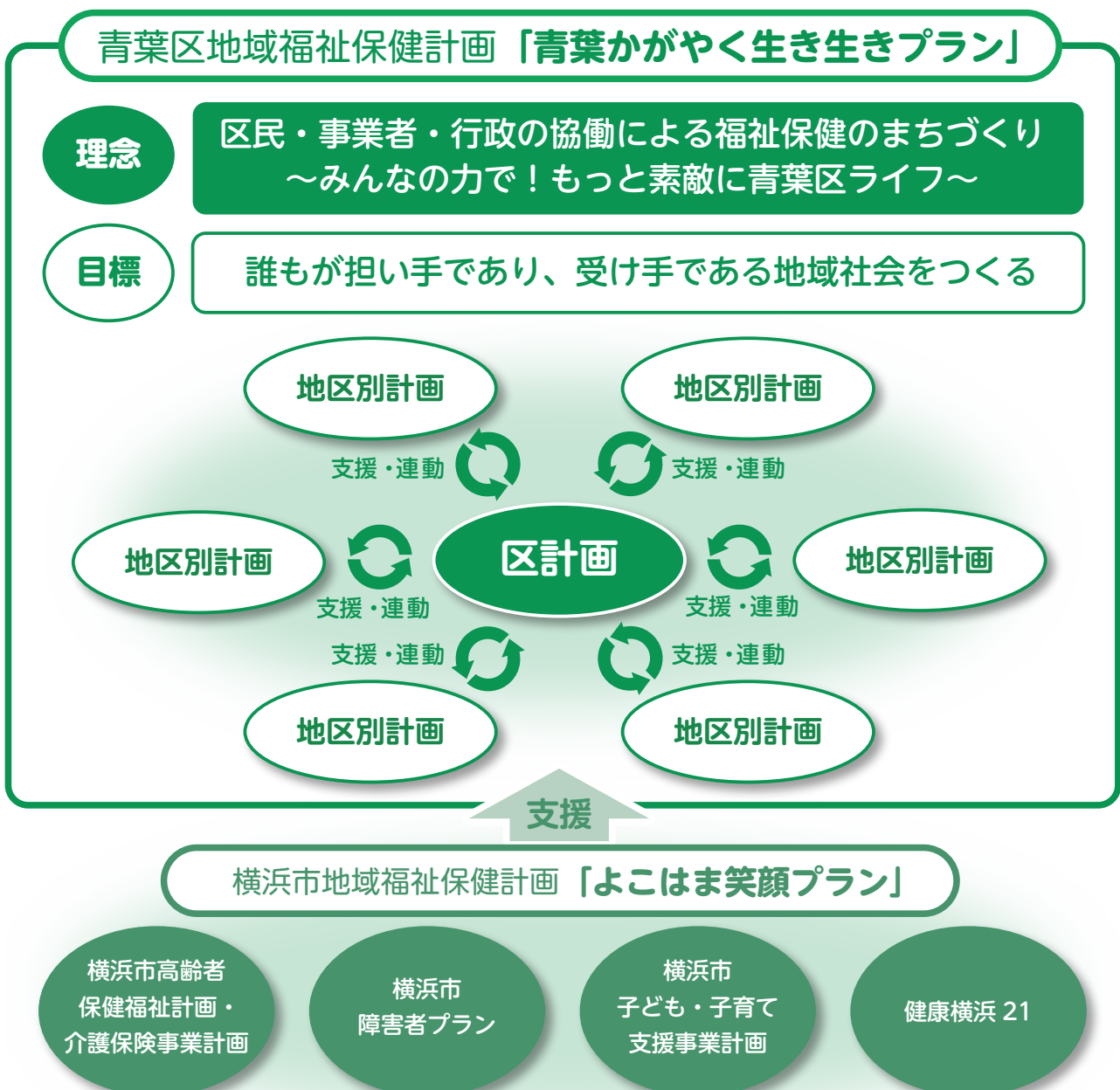
(1) “地域”の視点で仕組みづくり

社会福祉法の下、横浜市では区ごとの特性に応じた18区の区地域福祉保健計画と、それを支援する市計画「よこはま笑顔プラン」を策定し、推進しています。

また、横浜市には、高齢・障害・子ども・健康づくり等の分野別計画がありますが、地域福祉保健計画は、それぞれの分野別計画を“地域”の視点でつなぎ、横断的に展開していく仕組みづくりの役割を果たします。

青葉区では、市計画を踏まえ、区の特徴やニーズに基づいて、「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」の実現をめざし、青葉区地域福祉保健計画を策定し、推進しています。

青葉区地域福祉保健計画は、「理念・目標」の下、「区計画」及び「地区別計画」から構成されています。「区計画」は、地区別計画の支援と、区域全体での課題・ニーズに応じた取組を合わせて推進しています。「地区別計画」は、より身近な地域の特性に応じた課題に対応するため、15の連合自治会町内会エリアごとに計画を策定し、推進しています。



(2) 地域福祉活動計画との一体化について

社会福祉協議会は、1980年台後半から地域福祉活動を推進するために地域住民の皆さんや福祉施設・団体の人々と協働して「地域福祉活動計画」を作成し、この計画に基づいて地域福祉活動を進めてきました。

青葉区社会福祉協議会（区社協）も、平成6年の分区と同時に設立された当初から「青葉区地域福祉活動計画（青葉やまぶきプラン）」を掲げ活動してきました。

区役所の「青葉区地域福祉保健計画」と区社協の「青葉区地域福祉活動計画」は、いずれも地域福祉保健を推進するための計画であり、相互に補完し連携・役割分担し総合的に推進するため、第2期計画から一体的に策定・推進を行っています。

コラム

つながりづくりこそ地域福祉がめざすもの

地域福祉の活動は「今までここで暮らしてきて良かった」と感じる地域の魅力や強みを維持・向上させ、「これからもずっとここで暮らし続けていきたい」という思いを実現させるため、必要なことに力を合わせて取り組むことです。

そのためには、まず、私たちが暮らしている地域の実状について目を向け、私たちが理想とする地域生活を考え、実現のために力を合わせて行動する機会をつくることが第一歩となります。

この力を合わせた行動は、一般に**連携・協働**や**ネットワークづくり**と呼ばれ、理想とする目標や目的を共有し、それを実現させるための方法を考え、互いの力をいかし合える「**頼み、頼まれる**」（情報共有）関係づくりです。

具体的には、行政、地区別計画推進会議、地域ケアプラザ、自治会町内会、社会福祉協議会、民生委員児童委員、社会福祉事業者、老人クラブ、福祉保健活動団体、ボランティア、医療・保健機関、学校関係機関、商店街、コンビニエンスストア、そして近隣住民など、地域を構成するさまざまな方々が連携・協働する仕組みづくりとなります。

青葉区では、この連携・協働の仕組みづくりを推進し、地域での支えあいやつながりづくりをめざすための共通の理念・目標・計画として、「青葉かがやく生き生きプラン（青葉区地域福祉保健計画）」を策定しました。

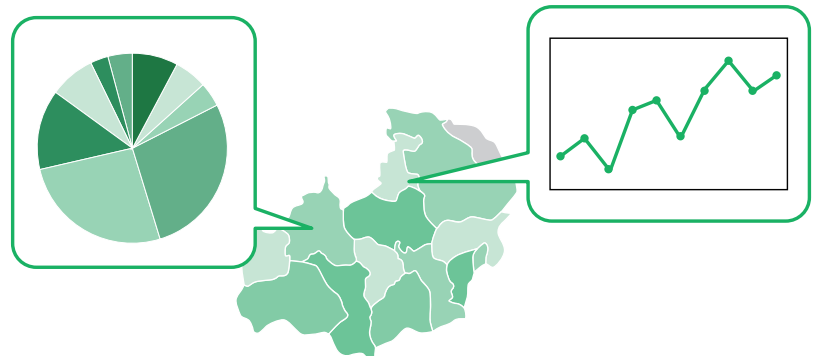
私たちがいつまでも安心して住み続けられる地域づくりのために「青葉かがやく生き生きプラン」推進へのご協力を心からお願い申し上げます。

田園調布学園大学 人間福祉学部 教授
(第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会委員)
村井 祐一

※ 青葉区社会福祉協議会についてはP.77（コラム）をご覧ください。

第2章

青葉区の状況について



※ この章で紹介している統計データ及び青葉区区民意識調査結果は横浜市及び青葉区が公表している資料の一部です。
各資料の詳細は出典元をご覧ください。横浜市統計ポータルサイトや青葉区ホームページ等をご覧ください。

第1節 統計データからみた青葉区の特徴

(1) 青葉区の人口と人口割合の推移【各年3月末時点】

(単位：人)

		青葉区						横浜市
		平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年	平成 27 年	平成 27 年
総人口		301,736	303,172	304,702	305,271	306,205	307,338	3,722,428
年少人口 (15歳未満)	総数	47,033	46,630	46,032	45,287	44,417	43,854	480,233
	比率	15.6%	15.4%	15.1%	14.8%	14.5%	14.3%	12.9%
生産年齢人口 (15歳～64歳)	総数	209,063	209,428	209,235	207,274	206,036	204,789	2,392,030
	比率	69.3%	69.1%	68.7%	67.9%	67.3%	66.6%	64.3%
高齢者人口 (65歳以上)	総数	45,640	47,114	49,435	52,710	55,752	58,695	850,165
	比率	15.1%	15.5%	16.2%	17.3%	18.2%	19.1%	22.8%
うち 75歳以上 人口	総数	18,746	20,194	21,462	22,769	23,945	25,310	390,582
	比率	6.2%	6.7%	7.0%	7.5%	7.8%	8.2%	10.5%

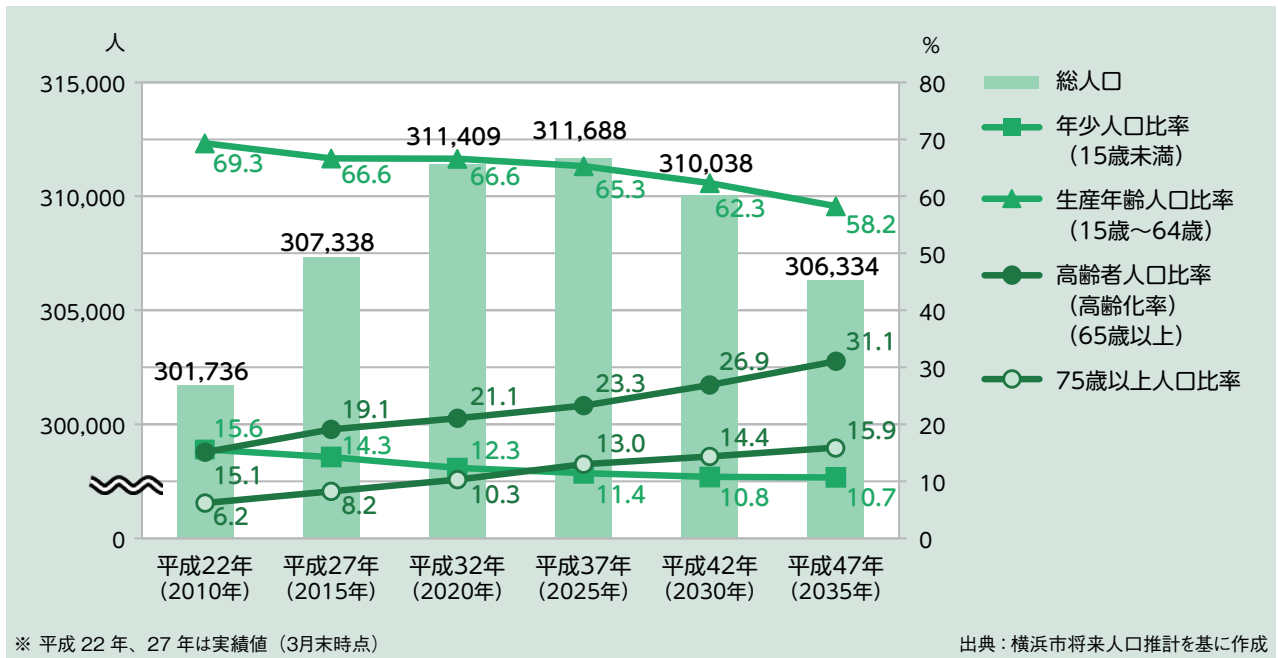
出典：横浜市統計ポータルサイト

青葉区の人口は平成 27 年 3 月末時点で約 31 万人となっています。

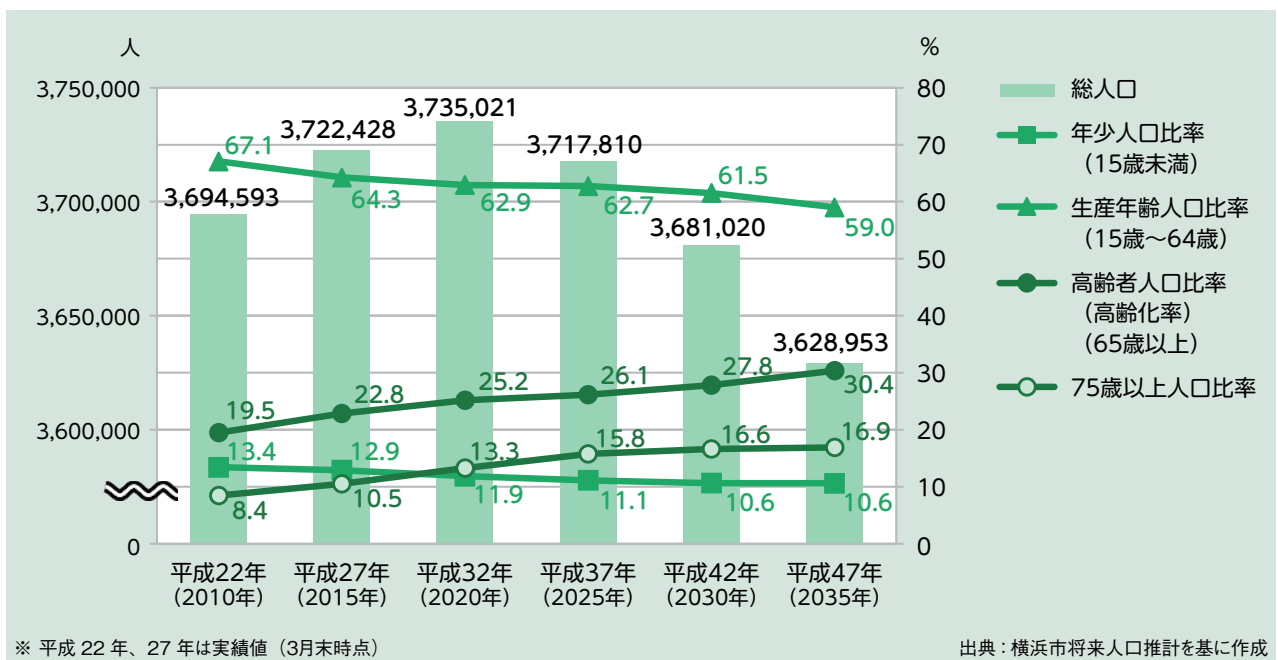
横浜市全体と比較して、年少人口比率と生産年齢人口比率は高く、若い世代や、働き世代、子育て世代の人が多く暮らしている区であるといえます。

一方で、高齢者人口比率（高齢化率）は横浜市全体と比較して低くなっていますが、平成 22 年の 15.1% から平成 27 年には 19.1% となり、青葉区も確実に高齢化が進んでいるといえます。

(2) 青葉区の人口の推計



(参考) 横浜市の人口の推計



「横浜市将来人口推計*2 (平成 22 年時点)」によると、青葉区の高齢化率は平成 32 年には 21.1% に達し、「超高齢社会」を迎えると推計されています。

また、今後「団塊の世代」が 75 歳を迎える平成 37 年には、75 歳以上高齢者の割合は 13.0% になるとされ、さらに高齢化は進むと推計されています。

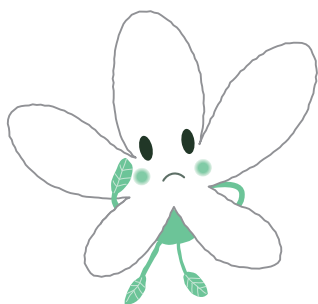
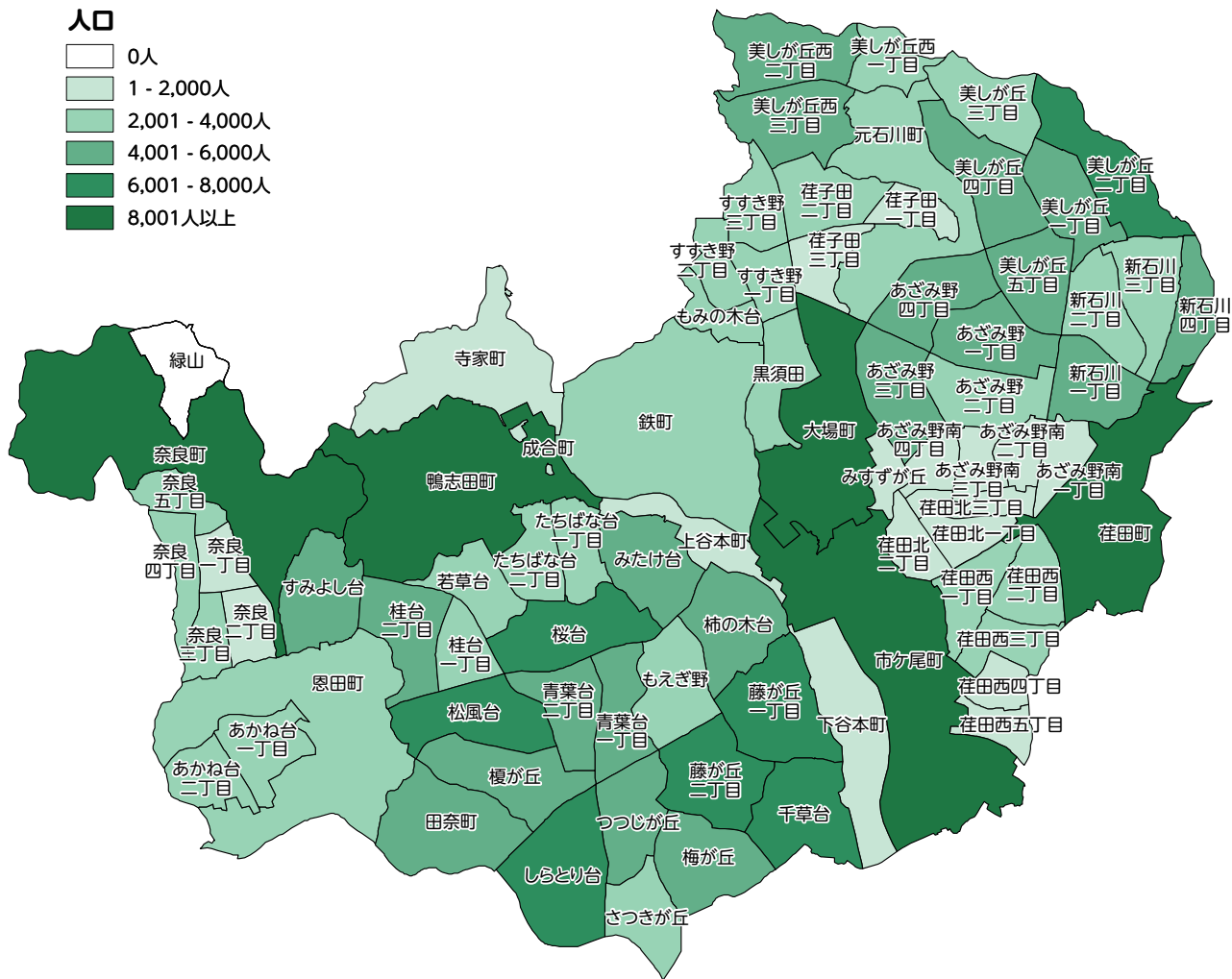
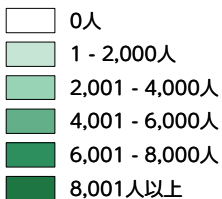
(参考) 高齢化社会：高齢化率 7%～、高齢社会：高齢化率 14%～、超高齢社会：高齢化率 21%～

* 2 この将来人口推計は、平成 22 年国勢調査における人口を基準として、2035 年まで 5 年ごとの推計を行いました。

(3) 青葉区の人口と年齢区分別人口割合 (町丁目別エリア図)

① 総人口【平成27年3月末時点】

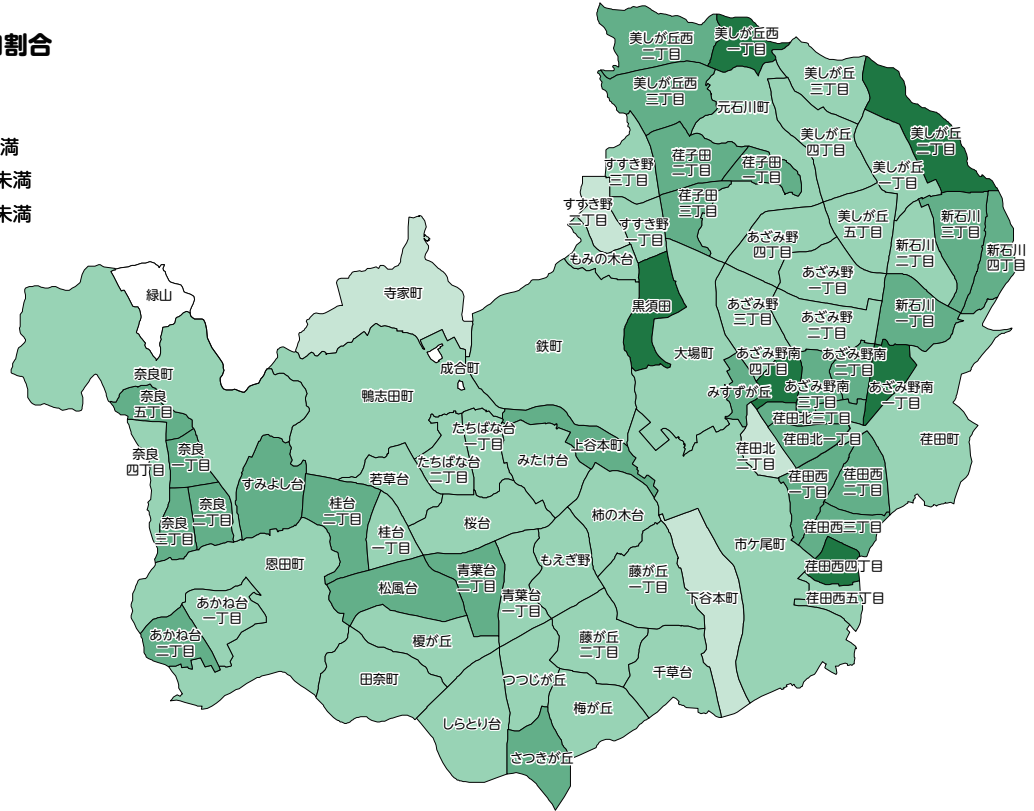
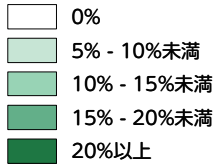
人口



② 年少人口比率（15歳未満）【平成27年3月末時点】

15歳未満の人口割合

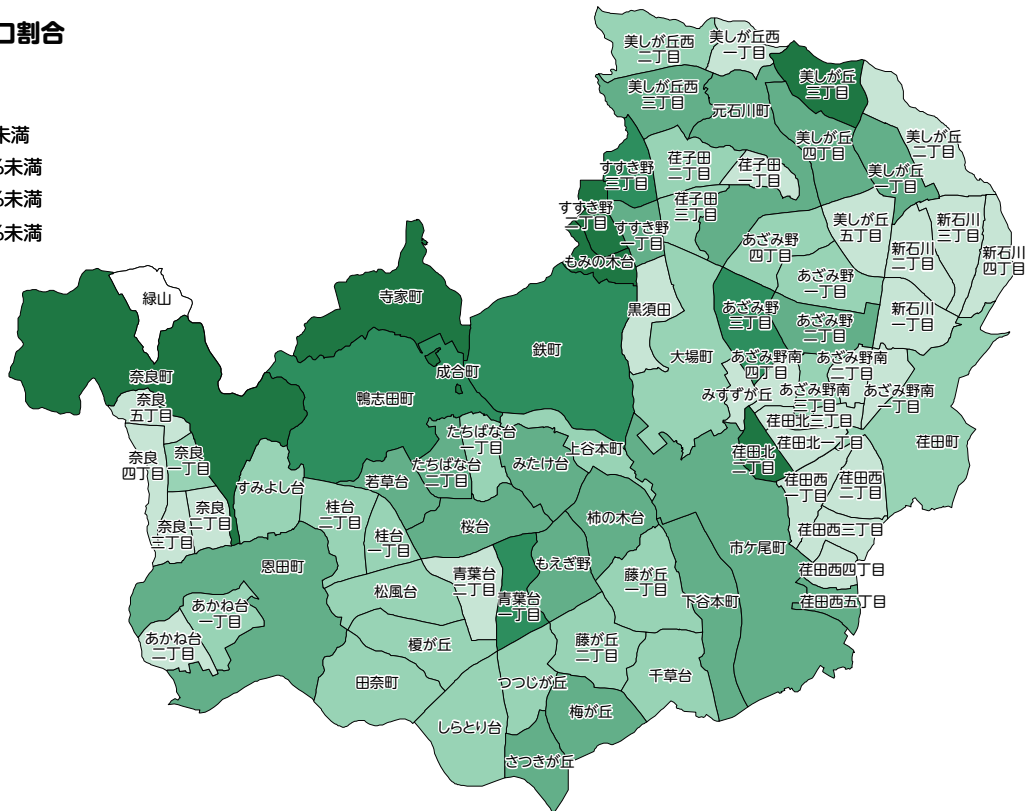
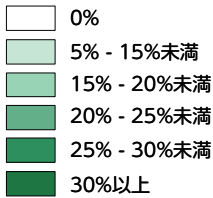
区全体 14.3%



③ 高齢者人口比率（65歳以上）【平成27年3月末時点】

65歳以上の人口割合

区全体 19.1%



出典：横浜市統計ポータルサイト
 (国土地理院発行の地図データを基に作成)

※ 全ての町丁目ごとの人口データはP.10をご覧ください。

(4) 青葉区町丁目別人口データ【平成27年3月末時点】

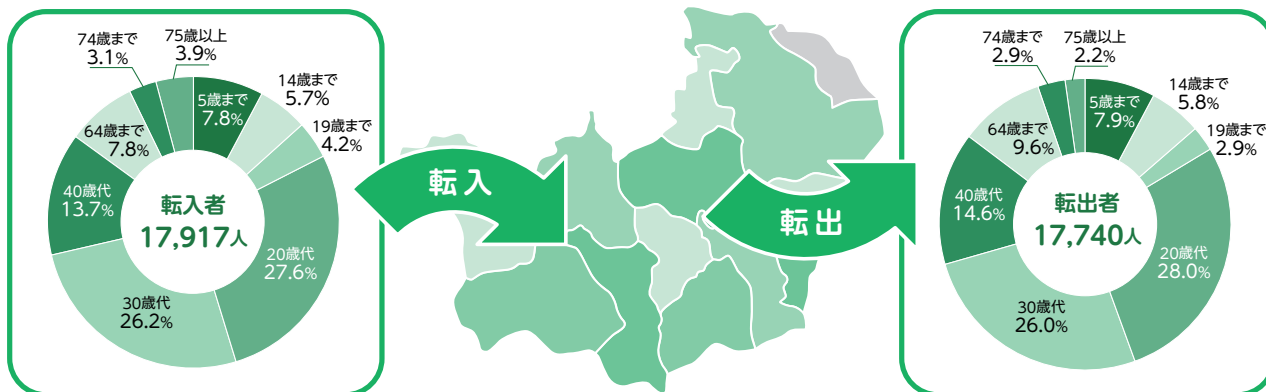
(あいうえお順、単位：人)

町名	総数	15歳未満	年少人口率	15歳以上 65歳未満	生産年齢 人口率	65歳以上	高齢化率
青葉区合計	307,338	43,854	14.3%	204,789	66.6%	58,695	19.1%
青葉台一丁目	4,249	444	10.4%	2,554	60.1%	1,251	29.4%
青葉台二丁目	4,994	927	18.6%	3,389	67.9%	678	13.6%
あかね台一丁目	2,814	392	13.9%	1,931	68.6%	491	17.4%
あかね台二丁目	2,330	400	17.2%	1,634	70.1%	296	12.7%
あざみ野一丁目	4,005	519	13.0%	2,848	71.1%	638	15.9%
あざみ野二丁目	3,049	325	10.7%	2,041	66.9%	683	22.4%
あざみ野三丁目	4,996	569	11.4%	3,034	60.7%	1,393	27.9%
あざみ野四丁目	4,417	653	14.8%	2,900	65.7%	864	19.6%
あざみ野南一丁目	1,654	350	21.2%	1,195	72.2%	109	6.6%
あざみ野南二丁目	1,641	264	16.1%	1,182	72.0%	195	11.9%
あざみ野南三丁目	1,030	170	16.5%	682	66.2%	178	17.3%
あざみ野南四丁目	1,117	275	24.6%	756	67.7%	86	7.7%
市ヶ尾町	18,353	2,193	11.9%	12,369	67.4%	3,791	20.7%
美しが丘一丁目	4,751	618	13.0%	2,974	62.6%	1,159	24.4%
美しが丘二丁目	7,237	1,453	20.1%	5,093	70.4%	691	9.5%
美しが丘三丁目	2,808	343	12.2%	1,624	57.8%	841	30.0%
美しが丘四丁目	5,793	749	12.9%	3,765	65.0%	1,279	22.1%
美しが丘五丁目	4,722	671	14.2%	3,364	71.2%	687	14.5%
美しが丘西一丁目	2,145	477	22.2%	1,443	67.3%	225	10.5%
美しが丘西二丁目	4,466	834	18.7%	2,937	65.8%	695	15.6%
美しが丘西三丁目	4,938	741	15.0%	3,119	63.2%	1,078	21.8%
梅が丘	5,490	734	13.4%	3,620	65.9%	1,136	20.7%
荳子田一丁目	1,221	215	17.6%	869	71.2%	137	11.2%
荳子田二丁目	3,875	615	15.9%	2,621	67.6%	639	16.5%
荳子田三丁目	1,956	306	15.6%	1,330	68.0%	320	16.4%
荳田北一丁目	1,943	353	18.2%	1,350	69.5%	240	12.4%
荳田北二丁目	1,559	139	8.9%	923	59.2%	497	31.9%
荳田北三丁目	1,706	283	16.6%	1,201	70.4%	222	13.0%
荳田町	10,326	1,391	13.5%	7,167	69.4%	1,768	17.1%
荳田西一丁目	2,422	380	15.7%	1,784	73.7%	258	10.7%
荳田西二丁目	3,852	709	18.4%	2,706	70.2%	437	11.3%
荳田西三丁目	2,677	466	17.4%	1,835	68.5%	376	14.0%
荳田西四丁目	1,640	352	21.5%	1,087	66.3%	201	12.3%
荳田西五丁目	1,536	184	12.0%	999	65.0%	353	23.0%
榎が丘	5,761	834	14.5%	3,938	68.4%	989	17.2%
大場町	9,123	1,302	14.3%	6,037	66.2%	1,784	19.6%
恩田町	3,073	392	12.8%	1,927	62.7%	754	24.5%
柿の木台	5,268	613	11.6%	3,450	65.5%	1,205	22.9%

町名	総数	15歳未満	年少人口率	15歳以上 65歳未満	生産年齢 人口率	65歳以上	高齢化率
桂台一丁目	2,276	329	14.5%	1,568	68.9%	379	16.7%
桂台二丁目	4,434	706	15.9%	2,939	66.3%	789	17.8%
上谷本町	115	20	17.4%	76	66.1%	19	16.5%
鴨志田町	8,372	1,012	12.1%	5,025	60.0%	2,335	27.9%
鉄町	2,560	354	13.8%	1,517	59.3%	689	26.9%
黒須田	3,075	713	23.2%	2,069	67.3%	293	9.5%
桜台	7,224	889	12.3%	4,829	66.8%	1,506	20.8%
さつきが丘	3,536	562	15.9%	2,262	64.0%	712	20.1%
寺家町	319	26	8.2%	180	56.4%	113	35.4%
下谷本町	67	5	7.5%	46	68.7%	16	23.9%
しらとり台	7,918	1,111	14.0%	5,414	68.4%	1,393	17.6%
新石川一丁目	4,052	651	16.1%	2,988	73.7%	413	10.2%
新石川二丁目	3,809	550	14.4%	2,738	71.9%	521	13.7%
新石川三丁目	3,339	549	16.4%	2,449	73.3%	341	10.2%
新石川四丁目	4,245	648	15.3%	3,029	71.4%	568	13.4%
すすき野一丁目	2,405	332	13.8%	1,574	65.4%	499	20.7%
すすき野二丁目	2,899	237	8.2%	1,592	54.9%	1,070	36.9%
すすき野三丁目	3,534	430	12.2%	2,134	60.4%	970	27.4%
すみよし台	4,725	711	15.0%	3,112	65.9%	902	19.1%
たちばな台一丁目	3,116	443	14.2%	2,083	66.8%	590	18.9%
たちばな台二丁目	3,038	381	12.5%	1,937	63.8%	720	23.7%
田奈町	4,869	644	13.2%	3,435	70.5%	790	16.2%
千草台	6,420	861	13.4%	4,330	67.4%	1,229	19.1%
つつじが丘	5,766	818	14.2%	3,900	67.6%	1,048	18.2%
奈良一丁目	740	127	17.2%	486	65.7%	127	17.2%
奈良二丁目	1,843	340	18.4%	1,230	66.7%	273	14.8%
奈良三丁目	3,090	531	17.2%	2,274	73.6%	285	9.2%
奈良四丁目	3,014	445	14.8%	2,172	72.1%	397	13.2%
奈良五丁目	2,294	377	16.4%	1,630	71.1%	287	12.5%
奈良町	8,889	963	10.8%	5,053	56.8%	2,873	32.3%
成合町	54	0	0.0%	22	40.7%	32	59.3%
藤が丘一丁目	7,839	1,087	13.9%	5,434	69.3%	1,318	16.8%
藤が丘二丁目	7,910	1,078	13.6%	5,554	70.2%	1,278	16.2%
松風台	6,234	953	15.3%	4,289	68.8%	992	15.9%
みすずが丘	1,233	197	16.0%	883	71.6%	153	12.4%
みたけ台	4,947	651	13.2%	3,256	65.8%	1,040	21.0%
緑山	0	0	0.0%	0	0.0%	0	0.0%
もえぎ野	3,840	479	12.5%	2,468	64.3%	893	23.3%
元石川町	2,889	359	12.4%	1,874	64.9%	656	22.7%
もみの木台	2,018	221	11.0%	1,087	53.9%	710	35.2%
若草台	3,454	429	12.4%	2,173	62.9%	852	24.7%

(5) 青葉区は転出入者が多い

青葉区の年齢別転出入者【平成26年中】



出典：横浜市の人口 ～平成26年中の人口動態と平成27年1月1日現在の年齢別人口～

青葉区は転出入者が多い区で、平成26年中に17,917人が青葉区に転入し、17,740人が青葉区外へ転出しています（市内異動を含む）。
また、転出入者を年代別にみると、半数以上が20～30歳代となっています。

(6) 自治会町内会加入世帯は増えている

青葉区の自治会町内会加入世帯数・加入率の推移

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
区内世帯数	120,378	120,672	122,768	122,988	124,065
自治会町内会加入世帯数	90,661	91,124	92,133	92,651	93,016
自治会町内会加入率	75.3%	75.5%	75.0%	75.3%	75.0%

出典：なるほど青葉2015

青葉区における自治会町内会の加入世帯数は微増状況にあり、加入率は75%台を推移しています。

(7) 青葉区は子どもが多い

青葉区の年少人口と年少人口比率（15歳未満）【平成27年3月末時点】

（単位：人）

	15歳未満（全体）		0歳～5歳		6歳～14歳	
	総数	比率	総数	比率	総数	比率
青葉区	43,854	14.3%	16,289	5.3%	27,565	9.0%
横浜市	480,233	12.9%	187,595	5.0%	292,638	7.9%

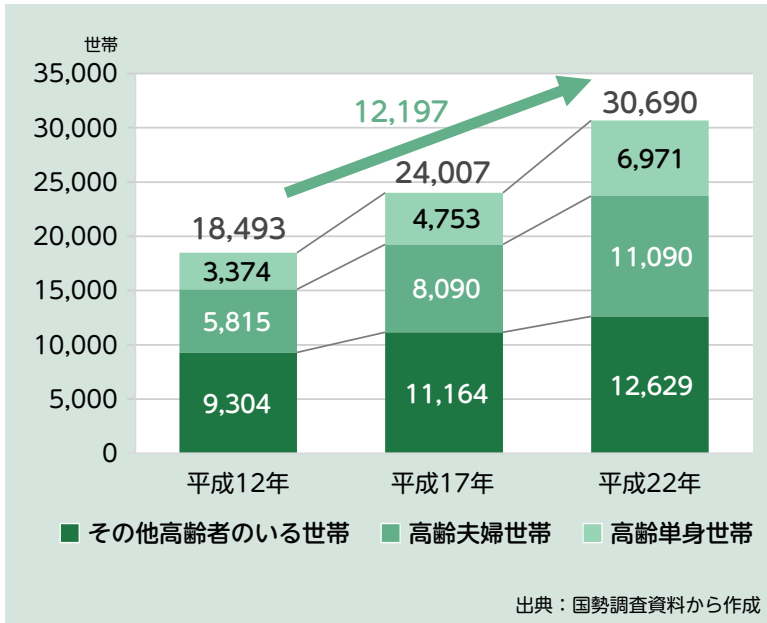
出典：横浜市統計ポータルサイト

平成27年3月末時点で、青葉区の年少人口（15歳未満）は市内18区中1位、年少人口比率は2位となっており、青葉区は横浜市内でも子どもの数が多い区です。0歳から5歳までの未就学児の割合も5.3%で横浜市全体（5.0%）を上回っています。

また、平成26年度中の出生数は2,666人で18区中3位となっています。（横浜市人口動態統計資料より）

(8) 高齢者世帯が増えている

青葉区の高齢者世帯の内訳と推移【各年10月1日時点】

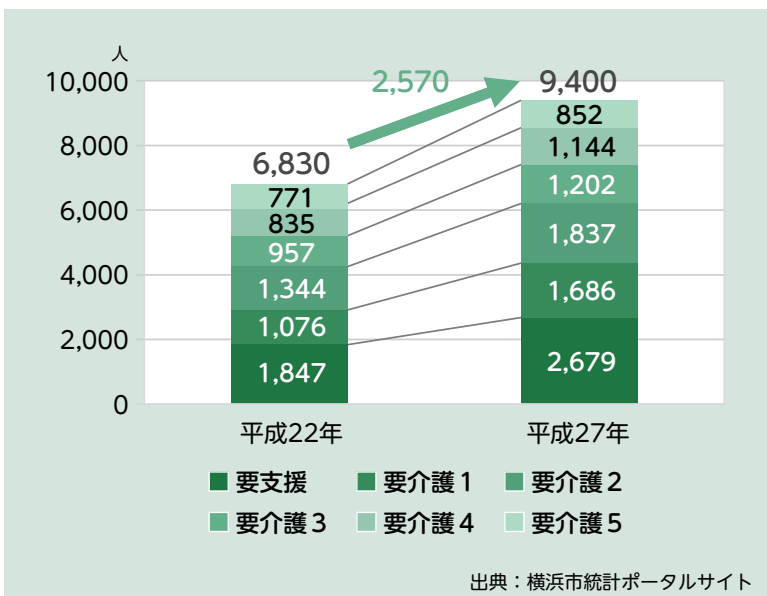


平成22年の国勢調査によると、青葉区における高齢者世帯（65歳以上の高齢者のいる世帯）は30,690世帯で、全世帯のうちの約4分の1でした。また、高齢単身世帯でみると、平成12年の3,374世帯から平成22年には6,971世帯となっており、10年間で2倍以上に増加しています。

今後の高齢化に伴い、高齢単身世帯はますます増加することが予想されます。

(9) 要支援・要介護認定者が増えている

青葉区の介護保険認定者数の推移【各年3月末時点】



平成27年3月末時点で、青葉区において、何らかの疾病や心身の障害等により介護保険の要支援・要介護認定を受けている人は9,400人となっています。

介護保険認定者数は増加傾向にあり、今後高齢者が増えることが予想される中で、少しでも長く健康に暮らせるよう、要介護状態となることを「予防」することが重要になります。

認知症高齢者数について

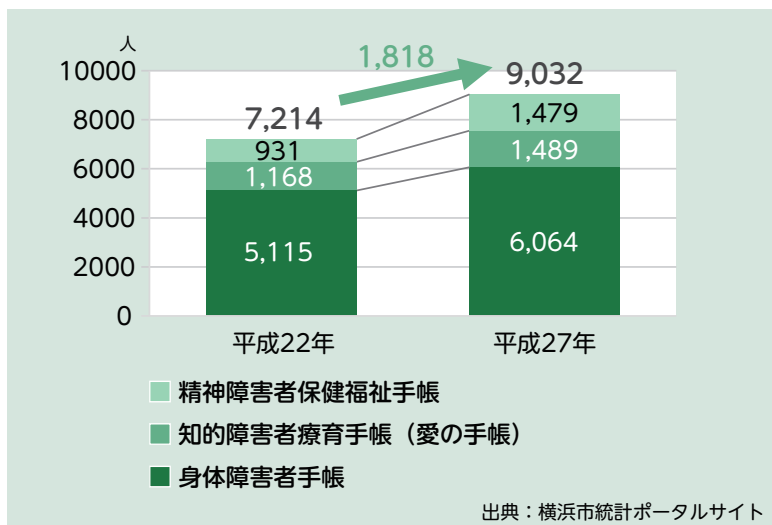
厚生労働省によると、わが国の認知症高齢者の数は、2012年（平成24年）で462万人と推計されており、2025年（平成37年）には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人が認知症と見込まれています。

また、横浜市全体で要介護認定者は、平成27年3月末時点で約14万7千人で、そのうち55%の人には何らかの支援や介護の必要な認知症があると思われます。

（第6期横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画から引用）

(10) 障害者手帳所持者が増えている

青葉区の障害者手帳所持者の推移【各年3月末時点】



平成27年3月末時点で、青葉区における各障害者手帳の所持者は9,032人（総人口の2.9%）となっています。

平成22年3月末時点の所持者は7,214人で総人口の2.4%であったことから、青葉区における障害者手帳所持者の割合が増えています。

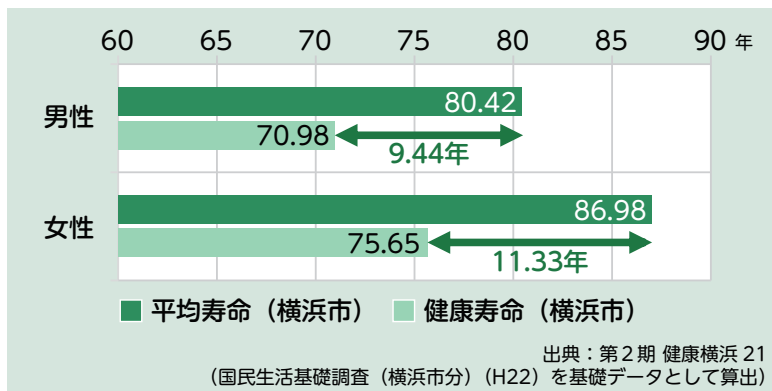
(11) 男女ともに長寿

青葉区の平均寿命の推移

	男性		女性	
	平均寿命（歳）	全国での順位	平均寿命（歳）	全国での順位
平成12年	80.3	3位	85.8	—
平成17年	81.7	1位	88.0	7位
平成22年	81.9	8位	88.0	20位

出典：国勢調査・生命表（厚生労働省）

横浜市の平均寿命と健康寿命の差



青葉区民の平均寿命は全国的にも長く、平成22年には男性81.9歳で全国8位、女性88.0歳で全国20位となっています。

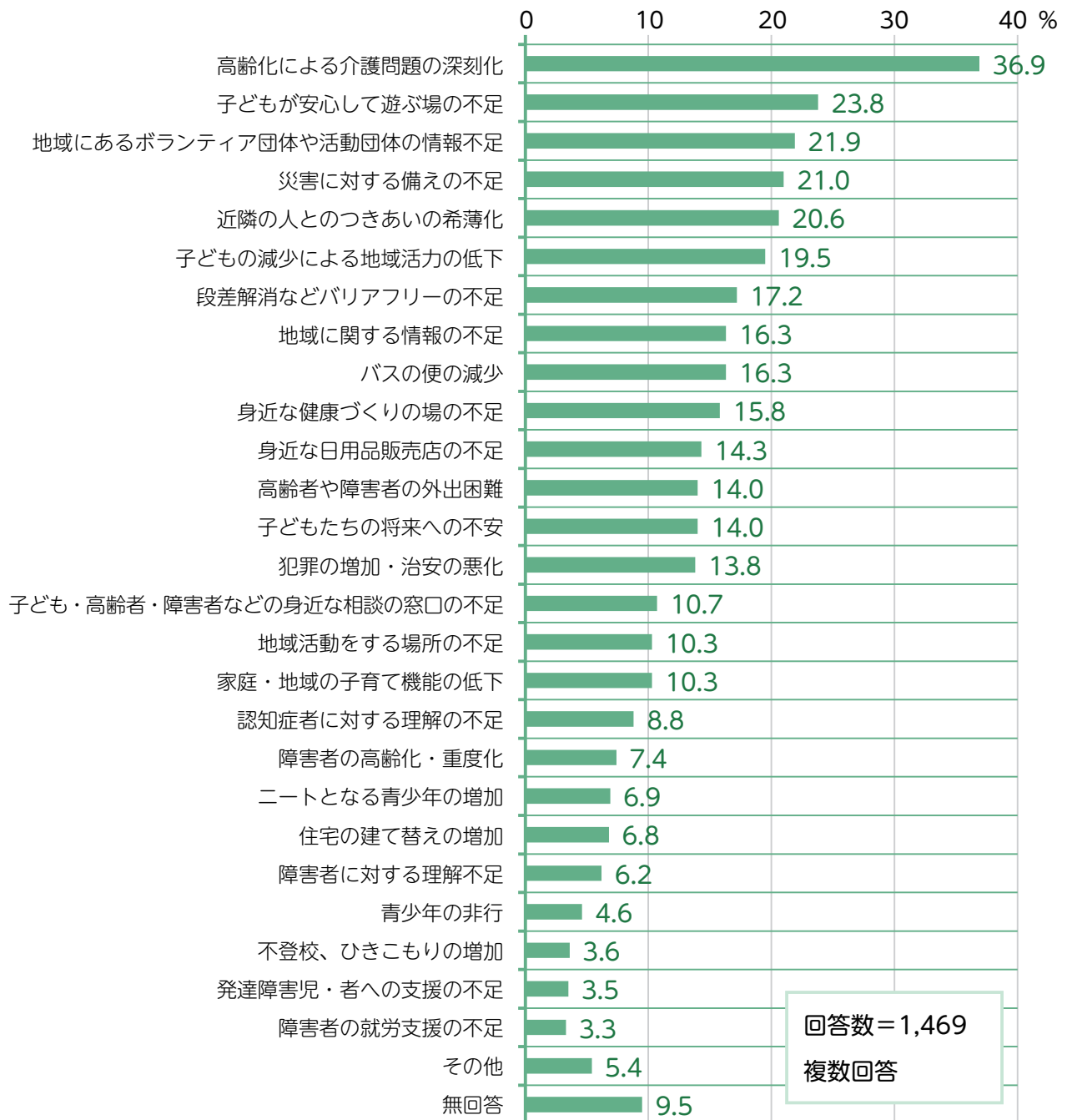
健康寿命について

近年では「健康寿命^{*3}」が注目されています。いつまでも健康に一人ひとりが自立した生活を送るためには、若い頃からの生活習慣が重要になります。また、健康寿命を延ばすことが生活の質の向上にもつながります。

*3 健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間。

第2節 青葉区区民意識調査*4 からみた青葉区の特徴

(1) あなたの住んでいる地域には、現在、どんな課題や問題があると思いますか？



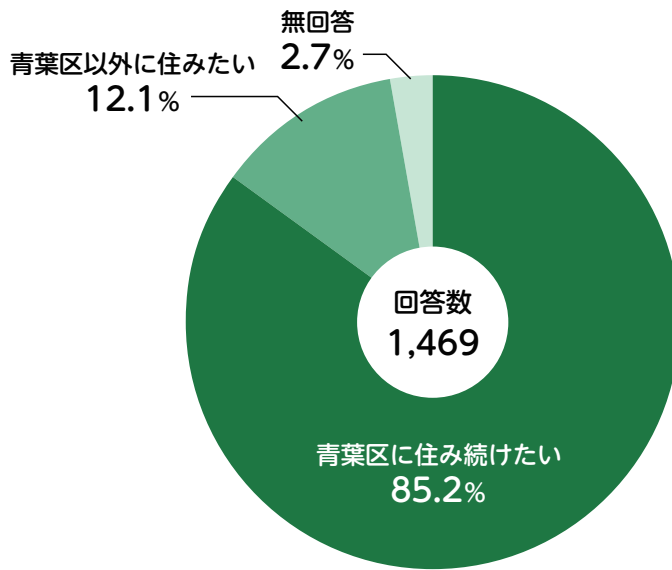
出典：平成26年度 青葉区区民意識調査

「高齢化による介護問題の深刻化」が36.9%で最多となっています。次いで「子どもが安心して遊ぶ場の不足」が23.8%、「地域にあるボランティア団体や活動団体の情報不足」が21.9%、「災害に対する備えの不足」が21.0%、「近隣の人とのつきあいの希薄化」が20.6%で、2割を超えています。

青葉区でも高齢者人口の増加に伴い、介護問題に関心を持つ区民が増えている状況がうかがえます。

*4 「青葉区区民意識調査」は、区民の皆さんの生活意識や区政に対する満足度、要望等を的確に把握し、今後の区政運営にいかしていくことを目的として実施しています。調査結果の詳細については青葉区ホームページをご覧ください。

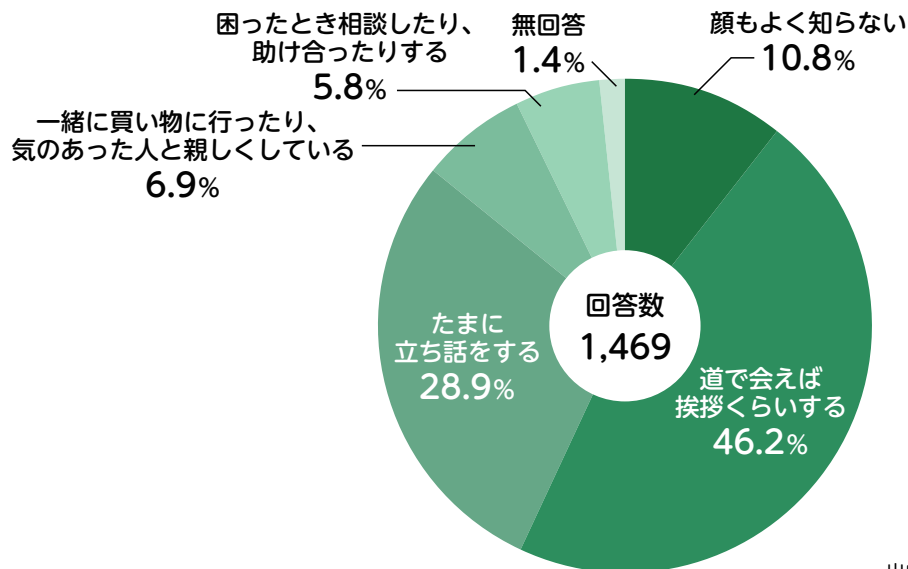
(2) あなたは、青葉区に住み続けたいですか？



出典：平成26年度 青葉区区民意識調査

青葉区に住み続けたいと思う人は85.2%で、平成26年度の調査では過去最高となりました。青葉区民の定住意識の高さが特徴として現れています。

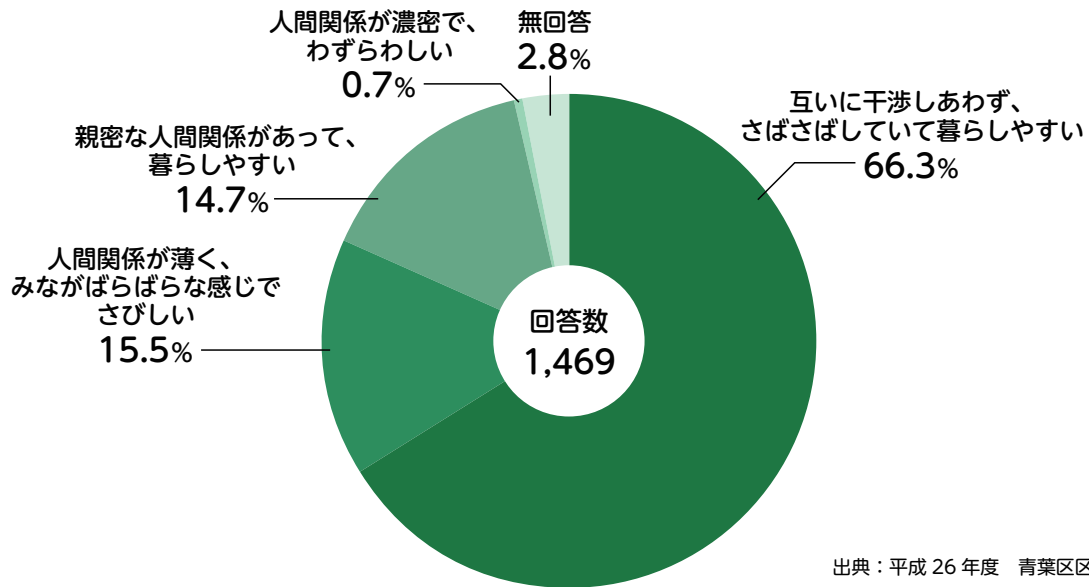
(3) あなたは隣近所とどのようなお付き合いをしていますか？



出典：平成26年度 青葉区区民意識調査

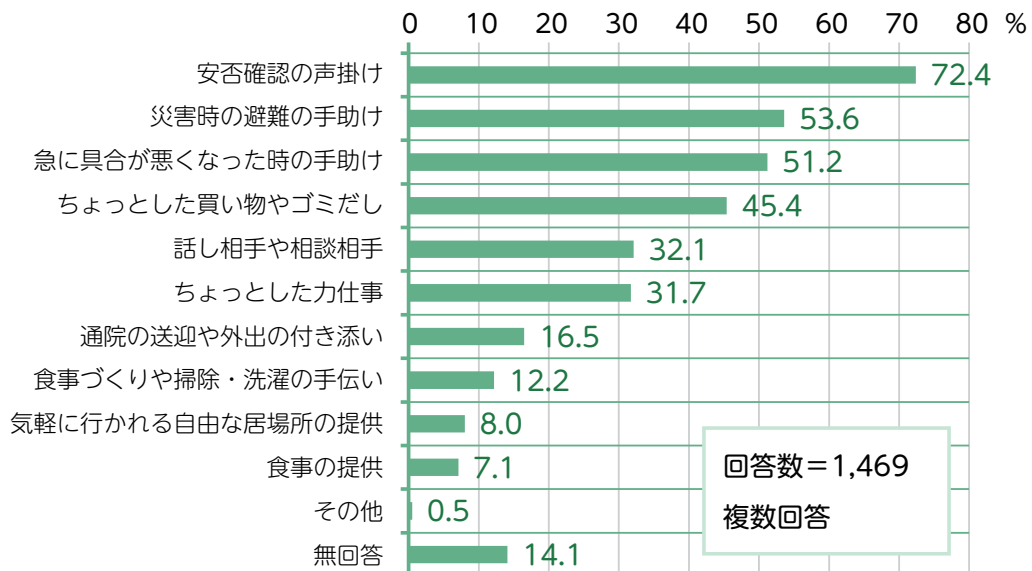
「道で会えば挨拶くらいする」が46.2%で最多となっています。次いで「たまに立ち話をする」が28.9%、「一緒に買い物に行ったり、気のあった人と親しくしている」が6.9%、「困ったとき相談したり、助け合ったりする」が5.8%となっています。

(4) あなたは隣近所との関係をどのように感じていますか？



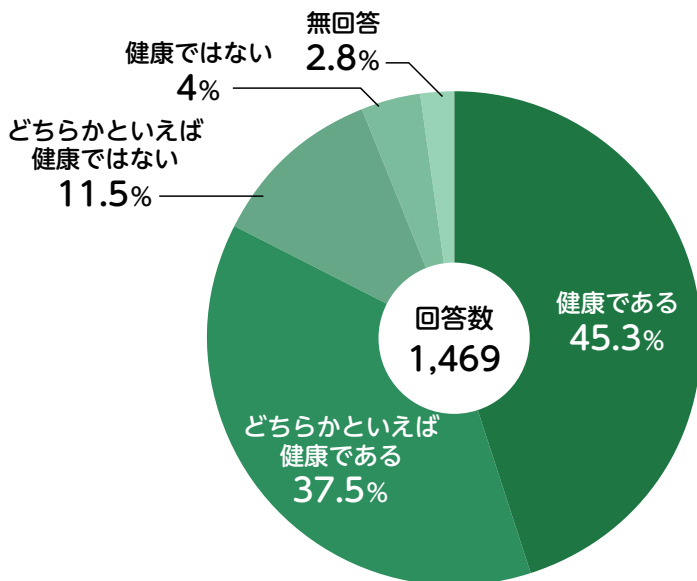
約3分の2の人が「互いに干渉しあわず、さばさばして暮らしやすい」と感じています。

(5) あなたは近所の困っている人にどのような手助けができますか？



手助けできることで最も多かったのは「安否確認の声掛け」で7割以上が挙げています。次いで「災害時の避難の手助け」が53.6%、「急に具合が悪くなった時の手助け」が51.2%、「ちょっとした買い物やゴミだし」が45.4%となっています。

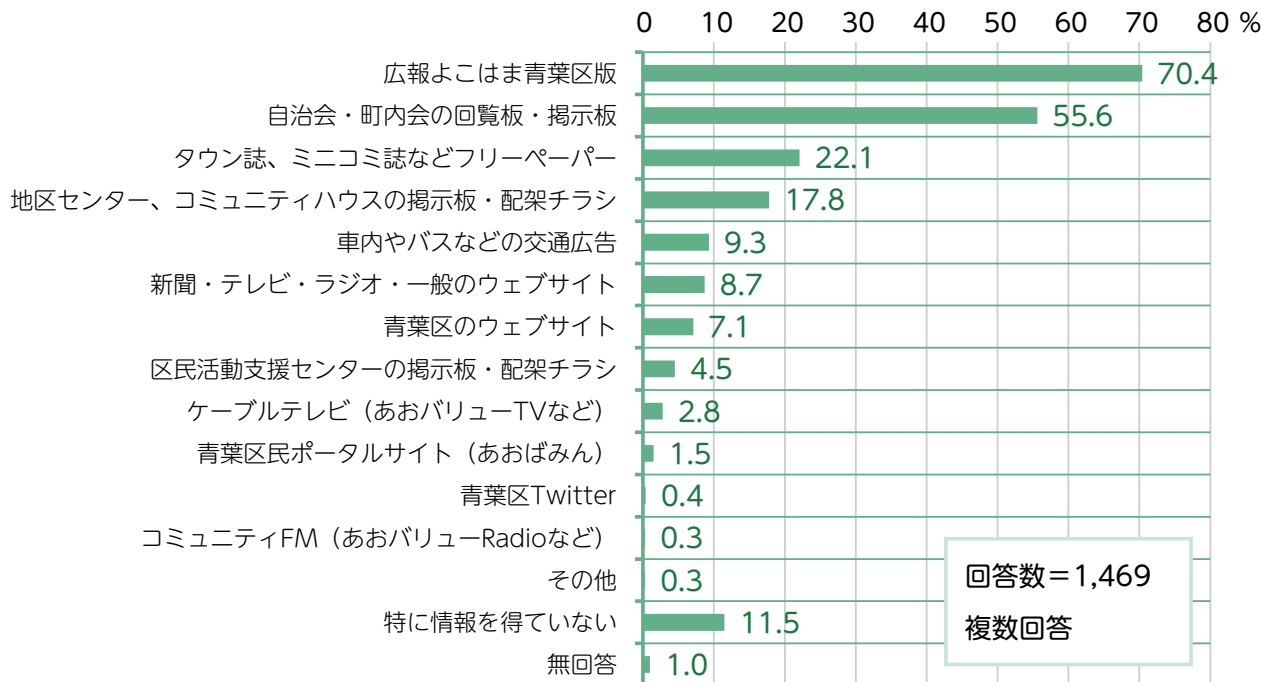
(6) あなたの健康状態はいかがですか？



出典：平成26年度 青葉区区民意識調査

「健康である」「どちらかといえば健康である」を合わせると82.8%の人が自分の健康状態は良いと考えています。

(7) 普段、青葉区の情報（事業や行事、お知らせなど）をどのようなものから得ていますか？



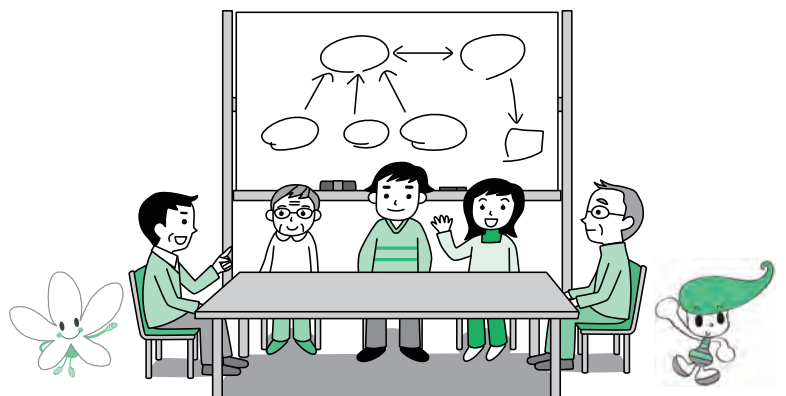
出典：平成26年度 青葉区区民意識調査

「広報よこはま青葉区版^{*5}」が7割に達し、次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」が55.6%となっており、他の項目に比べ突出しています。

*5 横浜市では、広報よこはま各区版と広報よこはま市版を毎月発行し、市や区の事業や催し等を掲載しています。広報よこはまは自治会町内会等に配布をお願いしているほか、駅や区内の公共施設にも配架しています。青葉区ホームページでもご覧いただけます。

第3章

計画策定の経過



第1節 計画策定の流れ

第3期計画策定にあたり、第2期計画の取組の振り返りを行うとともに、区民の皆さんのニーズを反映していくため、「区民意識調査」、15の連合自治会町内会エリアで実施した「地区別意見交換会」、障がい当事者団体・PTA・中学生へ「グループインタビュー」を実施しました。

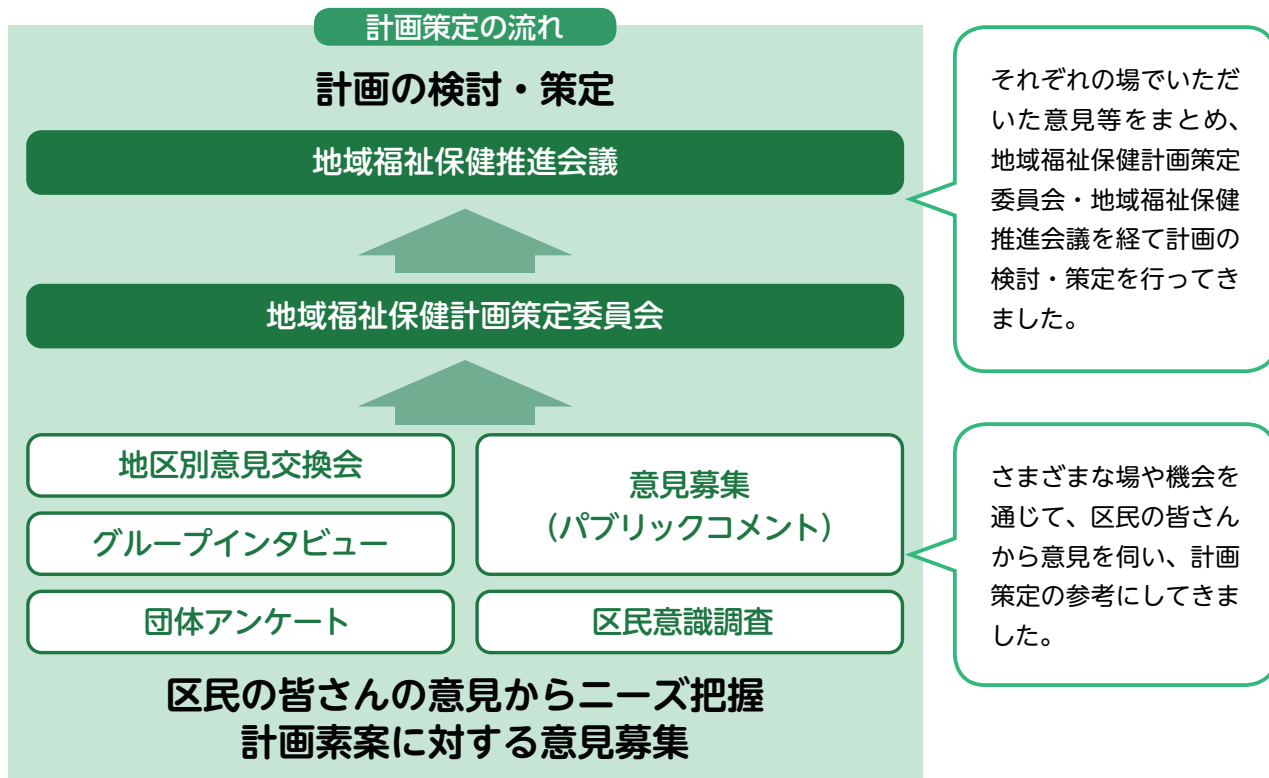
素案の策定後、素案に対する区民の皆さんへ意見募集（パブリックコメント）を行うとともに、民生委員児童委員・PTA・子育て支援者等へ計画の内容に対する「アンケート」を実施しました。

それらから出された課題・ニーズを基に、区民や地域活動団体代表、学識経験者等で構成する「**地域福祉保健計画策定委員会**」にて、第2期計画の振り返りや第3期計画に向けて課題等の整理を行い、計画案を作成しました。

最終的には、青葉区における福祉保健事業の推進について幅広く協議する場である「**地域福祉保健推進会議**」において、計画案を検討・確認し、第3期計画を策定しました。



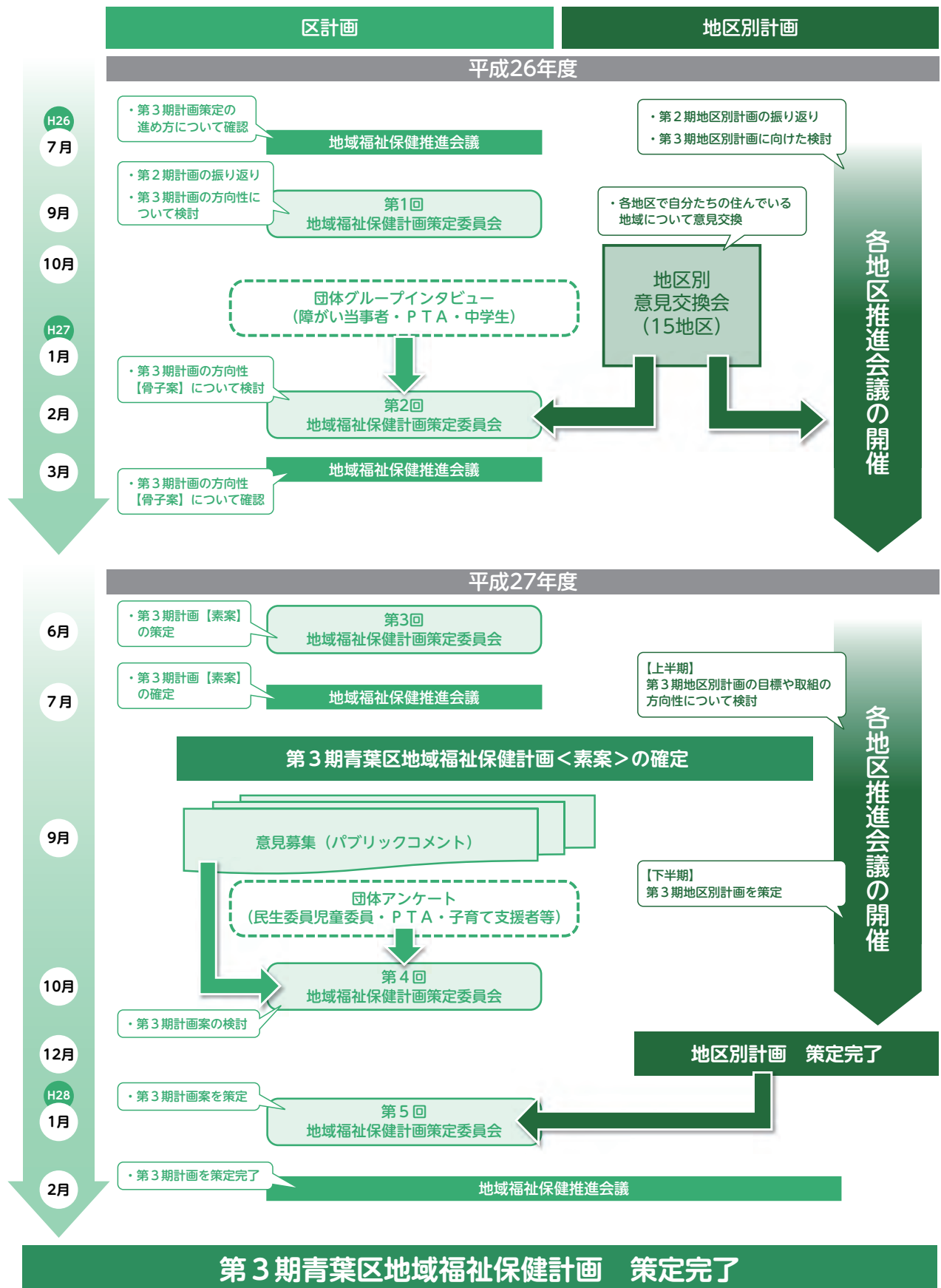
策定委員会の様子



それぞれの場でいただいた意見等をまとめ、地域福祉保健計画策定委員会・地域福祉保健推進会議を経て計画の検討・策定を行ってきました。

さまざまな場や機会を通じて、区民の皆さんから意見を伺い、計画策定の参考にしてきました。

第3期青葉区地域福祉保健計画 策定の経過



第2節 第2期計画の振り返り・区民の皆さんからの意見

(1) 区計画の振り返り

第2期青葉区地域福祉保健計画（区計画）では、「理念・目標」の実現に向け、8つの課題ごとに取組を進めてきました。

課題1 地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成

主な取組

- ・ ボランティア育成講座
- ・ 認知症サポーター養成講座

振り返り

- 地域の活動団体・ボランティアの活動の場は増え、活発な活動がされている。
- 個々のボランティアグループが情報共有・交流することで、さらに活動を活発化する必要がある。
- 活動の楽しさをPRし、活動の場に新しいボランティアを結びつけるなど、アプローチの工夫が課題である。

課題2 情報の有効活用

主な取組

- ・ ホームページ等での情報提供の充実
- ・ ラジオ等様々な広報媒体での情報発信

振り返り

- ホームページやチラシ等の情報発信方法が充実し、さまざまな媒体を活用し工夫しながら発信できるようになった。
- 人をとおしての情報伝達は、地域の中での見守りにつながるため、今後も重要な手法である。
- 必要な人に必要な情報が的確に届くよう、さまざまなチャンネルを活用した情報発信の工夫が必要である。

課題3 福祉保健活動の場や機会の充実

主な取組

- ・ 地域ケアプラザ3か所（青葉台・恩田・たまプラーザ）の整備・開所
- ・ 地域子育て支援拠点や地域活動ホームの整備・開所
- ・ 多世代の居場所づくり

振り返り

- 地域の活動拠点となる施設の整備が進み、地域に身近な専門相談機関ができた。
- より身近な地域の拠点での事業実施により、人の出会いの場ができた。今後も多世代のさまざまな人が集い、交流する機会が必要である。

課題4 活動のネットワークの強化

主な取組 ・ 地区別計画推進支援

振り返り

- 地区別計画の推進により、地域のさまざまな活動団体と話し合う場づくりができた。
- 地域の課題解決に向け、少しずつ広がっているネットワークを活用していく必要がある。

課題5 高齢者・障がい者の暮らしの支援

主な取組

- ・ 地域包括ケアシステムの推進（医療と介護の連携・地域ケア会議・元気づくりステーション）
- ・ 自立支援協議会
- ・ 青葉ふれあい見守り事業

振り返り

- 地域ケアプラザや福祉拠点ができ、身近な相談窓口が増えた。
- 地域の支援ネットワークづくり（地域ケア会議・医療と介護の連携・自立支援協議会等）が進んでいる。
- はいかい高齢者安心ネットワーク事業や認知症サポーターの養成など、地域で認知症を支える仕組みづくりを進めてきた。
- 啓発講演会の開催等により、認知症や障がい者への理解を深めた。
- 超高齢社会を迎え、高齢者や家族が安心して暮らせるよう、地域で見守り、支えあう仕組みづくりに取り組む必要がある。
- 障がい者の地域生活の充実を図るため、障がい者への理解をさらに深めていくとともに、障がい者と地域の人と一緒に活動する機会を増やしていく必要がある。

課題6 子ども、青少年の健全育成

主な取組

- ・ 地域子育て支援拠点の整備
- ・ 親子の居場所づくり
- ・ 生まれる前から乳幼児期の支援（両親教室・地域育児教室等）
- ・ 地域への児童虐待防止の啓発（地区別児童虐待防止連絡会等）
- ・ 障がい児への理解と支援
- ・ 学校と連携した福祉・保健に関する啓発

振り返り

- 地域子育て支援拠点等、親子の居場所や相談窓口も増え、子育て支援の体制づくりが進んでいる。
- 両親教室・地域育児教室・「こんにちは赤ちゃん訪問」等、地域で孤立せず、安心して子育てができるような支援が充実してきた。
- 児童虐待防止連絡会等の開催により、児童虐待防止に向けた支援ネットワークを強化してきた。引き続き、虐待予防及び早期発見のため、地域での啓発が必要である。
- 自立支援協議会等で、障がい児への支援者ネットワークづくりが進んでいる。
- 子どもの育ちの連続性を大切にし、今まで以上に行政・学校・地域等の関係機関が連携し、乳幼児から学童期までの切れ目のない支援が必要である。
- 子どもの福祉・保健に対する意識啓発の視点から、学校との連携をさらに深めていく必要がある。

課題7 健康長寿のまちづくりの推進

主な取組

- ・ ウォーキングの普及啓発
- ・ がん検診啓発
- ・ 健康づくり講座
- ・ 健康フェスティバル

振り返り

- 子どもの食育や歯の健康、働き世代や高齢者の生活習慣に関する啓発など、健康をテーマにしたさまざまな取組を行ってきた。
- 災害時の健康づくりの啓発に取り組んだ。
- 健康をテーマにした取組を引き続き行い、地域の活動をより活性化していくことが必要である。
- 区民の健康への関心は高く「長寿のまち・青葉」の強みをいかして、取組をさらに活発にし、充実させることが重要である。

課題8 災害時でも安心のまちづくりの推進

主な取組

- ・ あおば災害ネット
- ・ 災害時の医療体制の整備

振り返り

- 支えあいカードの取組を中心とした地域団体の連携、参加型の訓練の実施等、助けあいの体制が一步ずつ進んできている。
- 災害時要援護者への支援は、今後もさまざまな手法による取組が必要である。
- 地域定点診療拠点等、災害時の医療体制の整備が進んだ。今後、地域への普及啓発を行っていくことが必要である。



(2) 地区別計画の振り返り

第2期計画より、区内の15の連合自治会町内会エリアごとに、地区別計画を策定し、推進してきました。各地域で、連合自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員等、地域の活動団体が話し合いを重ね、「自分たちの住んでいる地域がこうなるといいな」「そのためにはこんな活動があったらいいな」という地域の皆さんの思いが、さまざまな取組につながってきました。

青葉区の多様な地域性を踏まえた各地区別計画の推進支援をとおして、**地域の特徴や強みをいかした活動**が大切であることが分かりました。また、地域の活動団体と区役所・区社協・地域ケアプラザが地域の情報や課題について、話し合いや連携ができる貴重な機会となりました。

地区別意見交換会

<開催の目的>

区内15の連合自治会町内会エリアで第2期計画を振り返り、第3期計画に向けて、地域の皆さんから住んでいる地域の良いところ・気になるところ（課題）など、今後の「支えあいのまちづくり」に向けた意見を伺いました。

<実施状況>

平成26年10月から平成27年1月にかけて、全15地区で実施しました。

参加者合計 約300人



地区別意見交換会の様子

※ 地区別意見交換会で出されていた主な意見は、地区別計画（P.46～）をご覧ください。

(3) 区民の皆さんからの意見

第3期計画策定にあたり、区民の皆さんのニーズを把握し、計画に反映していくために、障がい当事者団体やPTA、中学生へのグループインタビューを実施するとともに、民生委員児童委員や子育て支援者等へアンケート調査を実施するなど、計画の内容や今後の取組について意見を伺いました。

また、平成27年7月に素案を策定し、計画の内容について、区民の皆さんに意見募集（パブリックコメント）を実施しました。



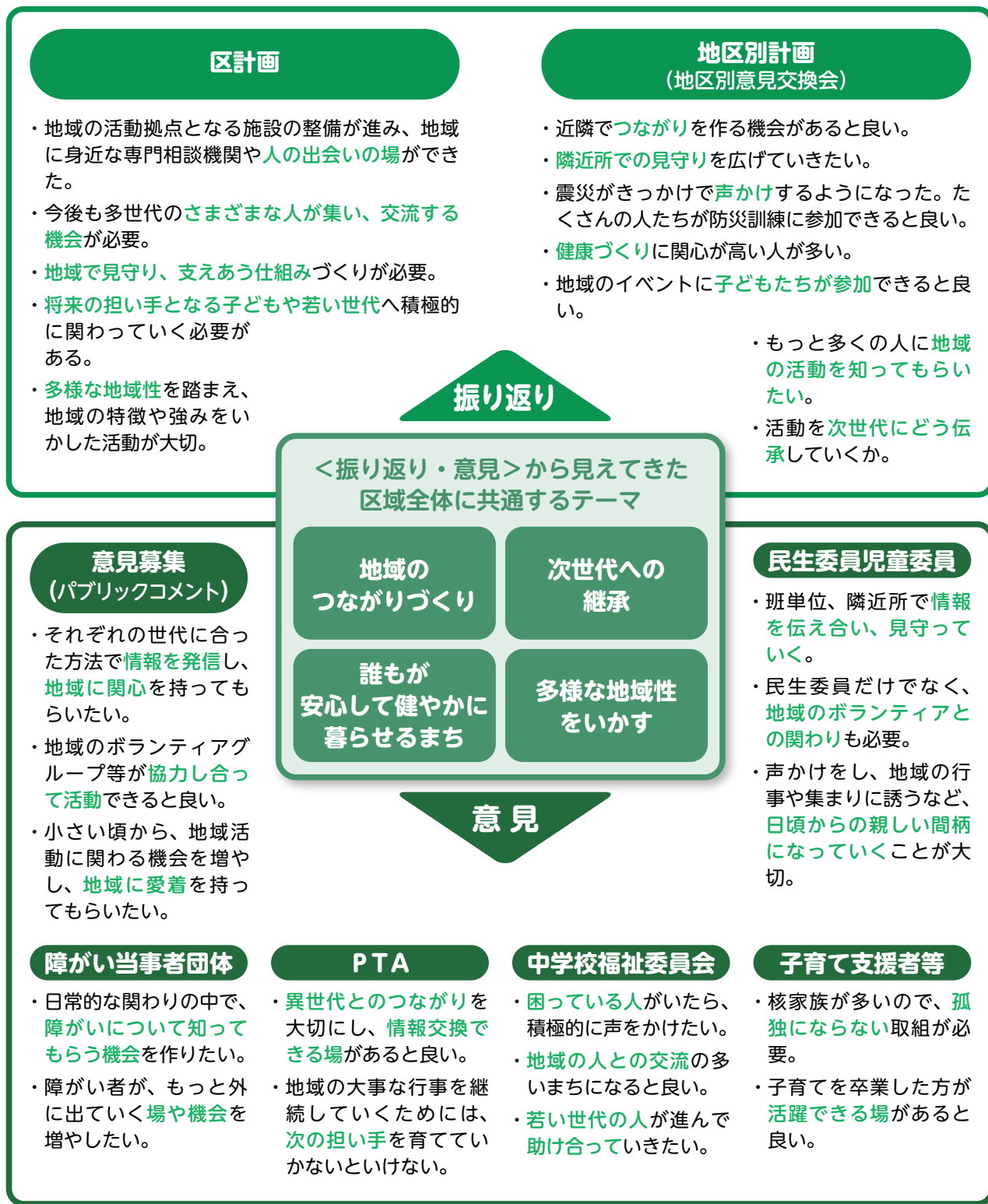
グループインタビューの様子

※ グループインタビュー・アンケートの内容は資料編（P.82～）をご覧ください。

※ 意見募集の内容は青葉区ホームページをご覧ください。

第3節 振り返り・意見から見えてきた共通テーマ

前節の第2期区計画・地区別計画の振り返り、団体別のグループインタビュー等でいただいた意見を踏まえ、地域福祉保健計画策定委員会等で第3期計画の内容を検討し、「振り返り・意見」から見えてきた区域全体に共通するテーマを整理しました。



※ このページに掲載されている意見等は一部です。詳細は地区別計画 (P.46～)・資料編 (P.82～) をご覧ください。

第4章

第3期計画の内容



第1節 計画の考え方

(1) 計画の構成

第2期計画の振り返りを踏まえ、第3期計画（平成28年度～32年度）についても、「理念・目標」は地域福祉保健計画のめざすべき基本姿勢であることから、今後も継承していきます。

前章の「振り返り・意見から見えてきた区域全体に共通するテーマ」は、第3期計画において、計画のめざすべき姿として明確にし、「推進の柱」として掲げます。

第2期計画での「課題1～8」については、一部整理を行い、第3期計画では取組の推進に必要な「推進の視点」として位置づけます。

青葉区地域福祉保健計画は、区域全体に関わる取組内容である「区計画」と、地域それぞれの特性に合わせた「地区別計画」から構成されています。

区計画

区計画は、区域全体でのさまざまな課題やニーズに応じた取組と、地区別計画の推進支援を合わせて進めます。区域全体に関わる取組については「推進の視点」ごとに、地域住民、区役所、区社協、地域ケアプラザの取組内容をまとめています。また、5年間の計画期間でめざしたい青葉区の姿を「5年後にめざしたい青葉区の姿」として位置づけています。

地区別計画

青葉区の多様な地域性を踏まえ、地域の特性や強みをいかし、地域課題にきめ細やかに対応していくため、15の連合自治会町内会エリアごとに地区別計画を策定し、地区それぞれの特徴や課題に応じた目標と取組をまとめています。また、「自分たちの地域がこうなるといいな」というまちの姿を「5年後にめざしたいまちの姿」として位置づけています。

第3期青葉区地域福祉保健計画「青葉かがやく生き生きプラン」

【計画構成】（計画期間：平成28年度～32年度）

理念

区民・事業者・行政の協働による
福祉保健のまちづくり
～みんなの力で！もっと素敵に青葉区ライフ～

目標

誰もが担い手であり、受け手である
地域社会をつくる

推進の柱

次世代に継承する
「地域のつながり」の
あるまち

住み慣れた地域で
誰もが安心して
健やかに暮らせるまち

(2) 地域住民・区役所・区社協・地域ケアプラザによる計画の推進

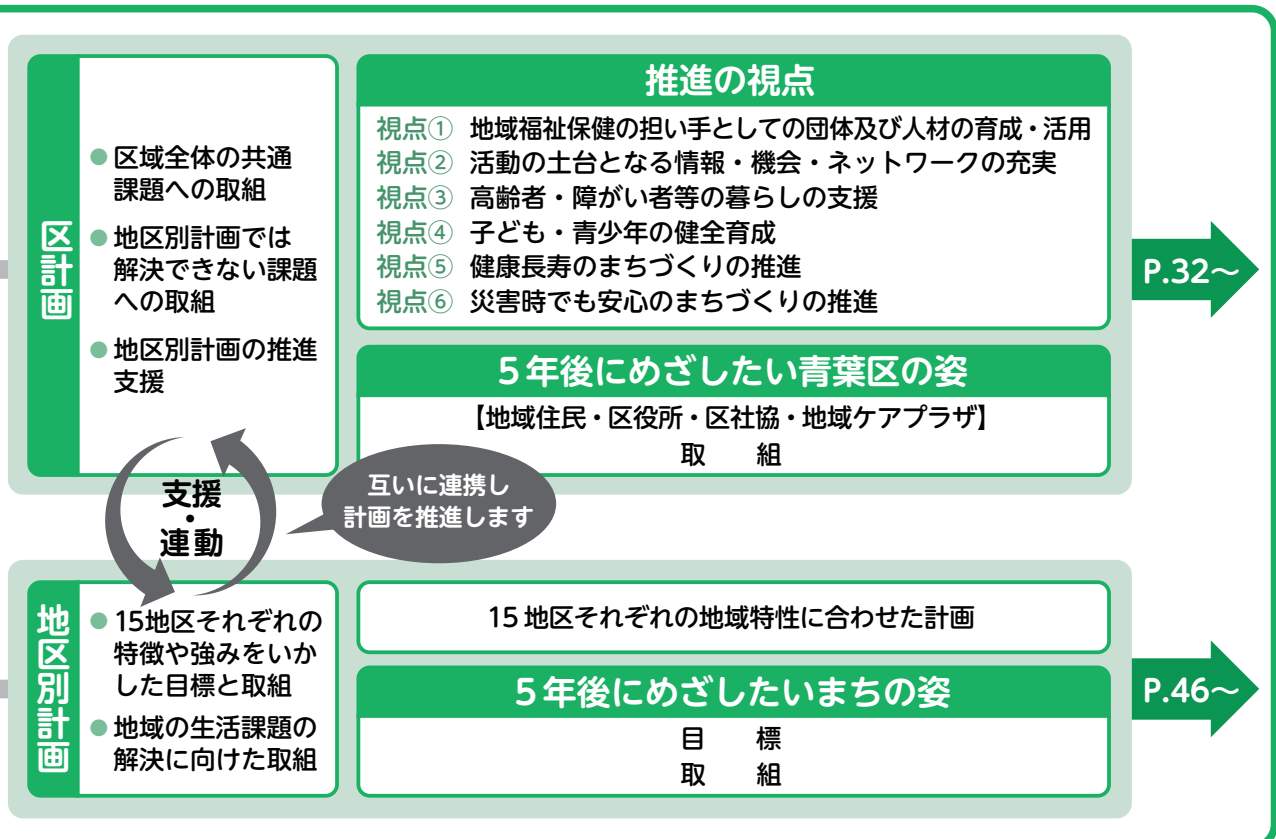
青葉区地域福祉保健計画は、その“理念”である「区民・事業者・行政の協働による福祉保健のまちづくり」のとおり、地域住民と区役所・区社協・地域ケアプラザが、それぞれの強みをいかしながら、協働して取り組む計画です。

計画の取組内容は、地域の皆さん一人ひとりが取り組めること、身近な地域での支えあいの中で取り組めること、そして事業者や公的機関（区役所・社会福祉協議会・地域ケアプラザ等）が行う福祉保健のサービスや公的支援であり、それらが適切に組み合わさることで、より大きな効果を生み出します。

また、計画の“目標”である「誰もが担い手であり、受け手である地域社会をつくる」ためには、地域の皆さんと事業者や公的機関が、連携して取り組むことが必要です。

それぞれの取組を進める人や団体等が青葉区地域福祉保健計画の主役であり、一人ひとりが主体的に取り組むことが、「お互いの顔が見え、支えあい安心して暮らせるまち」の実現につながると考えます。

★区計画では、意見募集（パブリックコメント）等でいただいた意見を元に、「地域の皆さんが取り組むこと・心がけること」を位置づけています。



第2節 区計画

(1) 区計画の全体概要

推進の柱		次世代に継承する「地域のつながり」のあるまち	
推進の視点		5年後にめざしたい青葉区の姿	地域の皆さんが取り組むこと・心がけること
①	地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成・活用	誰もが地域活動に参加でき、身近に支えあえる地域のつながりができています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域活動に一步踏み出して参加してみよう。 ● 自分たちのできることを積極的に発信していこう。 ● 日頃からあいさつや声かけをし、「近助」づきあいを深めよう。 ● 遠慮しないで、周りに協力や手助けを頼んでいこう。 ● 個人情報を適切に活用しよう。
②	活動の土台となる情報・機会・ネットワークの充実	地域の活動が活発化し、次世代につなげていくことができるよう、情報・機会・ネットワークが充実しています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 自分の住んでいる地域の良さを知ろう。 ● 地域の活動や魅力を発信しよう。 ● 団体や組織の枠を超えて、情報を積極的に共有しよう。
③	高齢者・障がい者等の暮らしの支援	地域のつながりの中で、認知症の人や障がいのある人等、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちになっています。	<ul style="list-style-type: none"> ● ちょっとしたことでも、悩んだ時は抱え込まずに相談しよう。 ● 元気なうちから介護予防に取り組もう。 ● ともに地域に暮らす仲間として、認知症や障がいへの理解を深めよう。
④	子ども・青少年の健全育成	未来をつくる子ども・青少年が、地域に見守られながら成長できるまちになっています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 子育てをあたたく見守り、地域ぐるみで子どもを育てよう。 ● 子どもたちが地域の活動に参加し、自分のまちに愛着を持てる機会をつくろう。 ● あいさつや声かけ等お互いに思いやり、助けあう大人の姿を子どもにみせていこう。 ● 子どもたちと高齢者が交流する機会を持とう。
⑤	健康長寿のまちづくりの推進	心身ともに健康で過ごせるように、子どもから高齢者まであらゆる世代の健康づくり活動が進んでいます。 健康づくりを担う人材育成や関係機関との連携強化により、地域で健康づくりができる機会が増えています。	<ul style="list-style-type: none"> ● 家族や友人など、身近な人と一緒に健康づくりに取り組もう。 ● 自分の健康に関心を持ち、健診（検診）を受けよう。 ● 子どもから高齢者まで生活習慣を見直し、生活習慣病を予防しよう。
⑥	災害時でも安心のまちづくりの推進	いざという時に隣近所で助けあい・支えあえる「共助」の取組が進んだまちになっています。 地域の連携により、災害時に要援護者の助けあいの体制が進んでいます。	<ul style="list-style-type: none"> ● いざという時に備えて、日頃から隣近所の人と、顔の見える関係をつくろう。 ● 自分の住んでいる地域の防災拠点の訓練に参加し、地域での防災の取組を知っておこう。 ● 災害時に避難の手助けが必要な人を、自治会町内会など地域の力で助けあおう。

住み慣れた地域で誰もが安心して健やかに暮らせるまち

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと

視点ごとに計画の実施主体である区役所・区社協・地域ケアプラザの取組内容を掲載しています。
具体的な取組例はP.32以降の各視点のページをご覧ください。

★印は重点的に取り組む必要のある項目です。

- ★地域活動・ボランティアに気軽に参加できるきっかけづくりを支援します。
 - ・地域活動の担い手と受け手がつながるようコーディネートをしします。
 - ・若い世代が地域活動に関心を持つように、働きかけをしします。
 - ★誰もが安心して暮らせるように、隣近所で支えあえる「近助」の仕組みづくりを進めます。
 - ・また、見守りの輪を広げるための普及啓発を行います。
 - ★子どもの頃から福祉を身近にとらえられるような教育・機会を増やします。
-
- ★必要な人に、必要な情報が的確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して、情報提供をしします。
 - ★地域のつながりをつくるために、地域の交流の機会を増やします。
 - ・地域で活動している人々・団体がよりネットワークを活用できるように支援します。
 - ★区役所、区社協、地域ケアプラザのネットワークを強化し、地域の活動を支援します。
 - ・暮らしにくさを感じている人への支援のネットワークを構築します。
-
- ★地域包括ケアシステムを推進し、住み慣れた地域で最後まで自分らしい暮らしを送れるように支援します。
 - ★高齢者の健康寿命を延ばせるよう、介護予防に取り組む地域づくりを進めます。
 - ★認知症への理解を深め、地域で支える仕組みづくりをしします。
 - ★在宅医療・介護連携の仕組みづくりを推進します。
 - ・高齢者や障がい者を支える支援者の連携・ネットワークを強化します。
 - ・元氣な高齢者が活躍できる場を支援します。
 - ・支援が必要な人を早期発見し、地域のつながりで支えあえるように、地域の見守り体制を強化します。
 - ・地域のより身近な場所で、相談できる機会を増やします。
 - ・身近な地域における高齢者・障がい者の権利擁護を推進します。
 - ★障がい児・者の地域交流を支援し、地域での障がい児・者への理解を深めます。
-
- ★地域で子育て支援をしている担い手や団体の情報共有や連携を図ることで、子育て支援ネットワークを強化します。
 - ・身近な地域での居場所づくりや相談する機会を充実させます。
 - ・地域で子育てを支援する担い手育成を充実させます。
 - ★児童虐待の予防及び早期対応のため、地域の理解をより深め、子どもや保護者を地域で見守る虐待防止の仕組みづくりをしします。
 - ・地域子育て支援拠点（ラフール）と連携し、青葉区の子育てを総合的に支援します。
 - ・障がい児を支える支援者ネットワークづくりを強化します。
 - ★学校等と連携し、子どもや保護者も参加できる地域活動や福祉保健に関する取組を充実させていきます。
 - ・青少年が地域に見守られながら健やかに成長できるよう、地域と連携した取組を推進します。
-
- ★地域の中で健康づくりができる機会を増やし、健康づくりをとおして、地域の交流を深めます。
 - ★保健活動推進員や食生活等改善推進員等、地域の健康づくりを担う人材育成を行います。
 - ・医療関係団体（医師会・歯科医師会・薬剤師会等）、病院、大学等と連携し、健康づくりに関する啓発を行います。
 - ・身近な健康づくりとして、ウォーキングを普及啓発します。
 - ・子どもから高齢者まで、誰もがライフステージにあった健康づくりができるよう支援します。
 - ・生活習慣病の早期発見・重症化予防のため、健康診査などの受診の啓発やこころの健康づくりの普及を進めます。
 - ・感染症の予防のため、日頃の健康管理の啓発をしします。
-
- ・防災や災害対策に関する取組を広報し、区民一人ひとりへ「自助」「共助」の取組を啓発していきます。
 - ★高齢者や障がい者など、災害時に手助けが必要な人（災害時要援護者）の情報共有や避難支援の仕組みづくりを、地域とともに進めます。
 - ★医師会や病院等の医療関係団体・機関と連携し、災害時の医療体制の整備と普及啓発に取り組めます。

(2) 区計画の取組内容

推進の視点①



地域福祉保健の担い手としての団体及び人材の育成・活用

5年後にめざしたい青葉区の姿

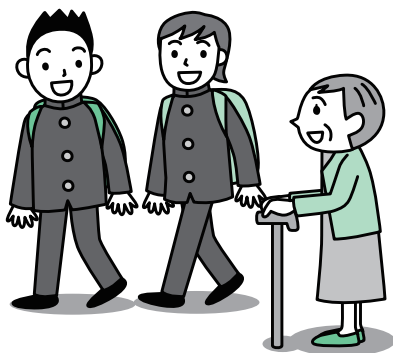
誰もが地域活動に参加でき、身近に支えあえる地域のつながりができています。

地域の皆さんが取り組むこと・心がけること

- 地域活動に一步踏み出して参加してみよう。
- 自分たちのできることを積極的に発信していこう。
- 日頃からあいさつや声かけをし、「近助」づきあいを深めよう。
- 遠慮しないで、周りに協力や手助けを頼んでいこう。
- 個人情報適切に活用しよう。

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと（★重点取組）

- ★ 地域活動・ボランティアに気軽に参加できるきっかけづくりを支援します。
例) 地域活動支援・ボランティア講座の開催（団塊の世代、小中学生向け等）
- ・ 地域活動の担い手と受け手をつなげるようコーディネートをします。
例) あおばボランティアセンターの運営、地域活動・ボランティア団体の活動支援
- ・ 若い世代が地域活動に関心を持つように、働きかけをします。
例) 子ども向け啓発パンフレットの作成、ホームページでの周知・PR
- ★ 誰もが安心して暮らせるように、隣近所で支えあえる「近助」の仕組みづくりを進めます。
また、見守りの輪を広げるための普及啓発を行います。
例) 見守り担い手研修、青葉ふれあい見守り事業地区連絡会の開催、個人情報の適切な活用啓発
- ★ 子どもの頃から福祉を身近にとらえられるような教育・機会を増やします。
例) 福祉教育、ちびっこ認知症サポーター養成講座、小中学生のボランティア体験・育成



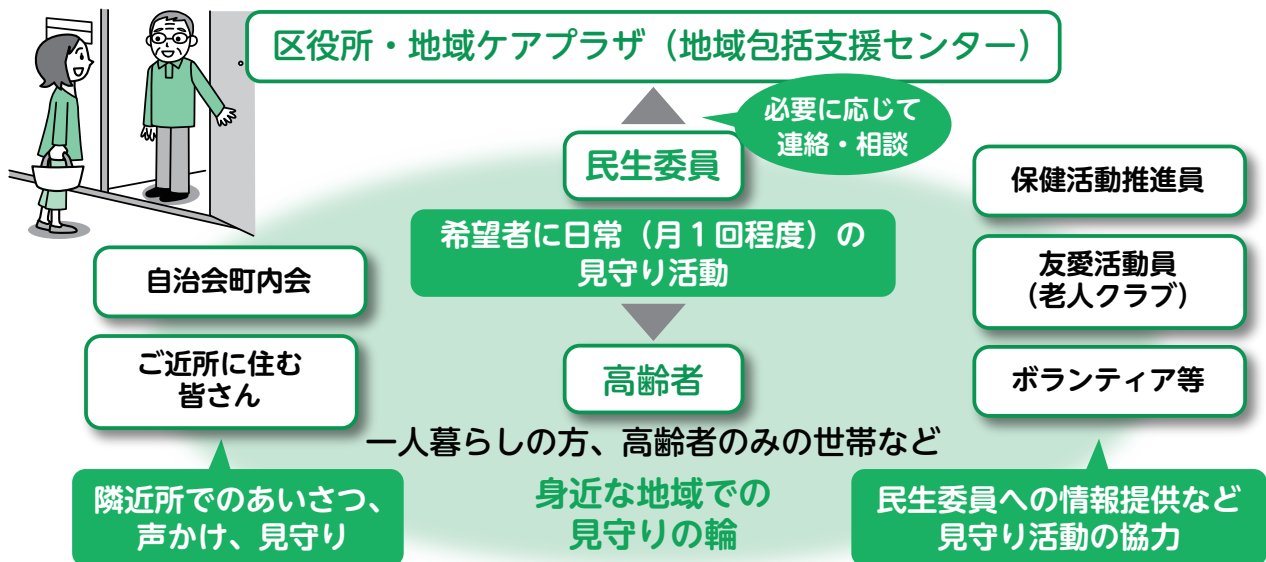
取組紹介

身近な地域での見守りの輪を広げよう！

青葉区では、地域の皆さんの協力のもと、地域に住む高齢者を日常的に見守る活動を行っています。

■ 青葉ふれあい見守り事業

地域に住む高齢者が、このまちで安心して暮らし続けられるよう、民生委員を中心に、保健活動推進員、友愛活動員やボランティア等と連携した、身近な地域の中での見守り活動を推進しています。



また、見守り活動者間の情報共有や活動に関する研修等の場として、「地区連絡会」を各地区の状況に合わせて開催しています。地域で高齢者を見守る人材を増やし、隣近所で支えあえる「近助」の仕組みづくりを進めていきます。

隣近所に住む人とお互いにあいさつや声かけをすることは、安心して暮らせる地域づくりにつながります。地域の皆さんで、近隣の高齢者への声かけや見守りの輪を広げていきましょう。

将来を担う人材育成や福祉の啓発活動をしています！

■ 福祉教育

子どもの頃から相手の気持ちを理解し寄り添う心を育てるため、区内の小中学校で学年に応じた福祉教育を行っています。

例) 手話コーラス、盲導犬の使用者のお話、教科書に沿った点字体験、誘導体験、車いす体験、認知症サポーター養成講座など



学校での車いす体験

■ 認知症サポーター養成講座

「認知症サポーター（認知症について正しく理解し、認知症や家族の方を見守り支援する人）」を広める講座を地域ボランティア・地域ケアプラザ（地域包括支援センター）・区役所・区社協等の関係機関が連携しながら、小中学校の他、各種団体やサロンなど地域で広く開催しています。

認知症の人でも安心して地域で生活し、支えることができるよう、サポーターを育成しています。

子どもの頃から福祉を身近にとらえられるような機会を増やし、相手の気持ちや立場を理解し、互いに支えあう地域をめざしましょう。



中学生向け認知症サポーター養成講座

推進の視点②



活動の土台となる情報・機会・ネットワークの充実

5年後にめざしたい青葉区の姿

地域の活動が活発化し、次世代につなげていくことができるよう、情報・機会・ネットワークが充実しています。

地域の皆さんが取り組むこと・心がけること

- 自分の住んでいる地域の良さを知ろう。
- 地域の活動や魅力を発信しよう。
- 団体や組織の枠を超えて、情報を積極的に共有しよう。

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと（★重点取組）

- ★ 必要な人に、必要な情報が的確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して、情報提供をします。
例) メディアの活用や地域活動のPR支援
- ★ 地域のつながりをつくるために、地域の交流の機会を増やします。
例) 地域ケアプラザや自治会館等を活用したサロン等の開催
- ・ 地域で活動している人々・団体がよりネットワークを活用できるように支援します。
例) 福祉保健関係機関・団体・学校・企業や商店街等の連携促進
- ★ 区役所、区社協、地域ケアプラザのネットワークを強化し、地域の活動を支援します。
例) 地区別計画の推進支援、地区社会福祉協議会の活動支援
- ・ 暮らしにくさを感じている人への支援のネットワークを構築します。
例) 生活困窮者^{*6}を支える関係機関の会議・連携促進



*6 平成27年4月から生活困窮者自立支援法が施行され、新たな支援制度が始まりました。さまざまな事情により生活していくことが困難になっている人に、一人ひとりのお困りの状況に応じたサポートをすることで、自立に向かっていただけるよう支援していきます。

取組紹介

知りたい！伝えたい！地域の情報を届けるために

青葉区区民意識調査では、「青葉区の情報をごどのように得ていますか」という問いに対し、「広報よこはま青葉区版」と答えた人が全体の70.4%、次いで「自治会・町内会の回覧板・掲示板」が55.6%となっています（P.18 参照）。

青葉区では、区民の皆さんに必要な情報が的確に届くよう、さまざまな機会や媒体を活用して、情報を発信しています。また各地区では、地域の皆さんがお住まいの地域の情報や魅力を、広報紙やイベントカレンダー等で発信しています。



広報紙によるPR



地域のイベントカレンダー

引き続き、知りたい情報、伝えたい情報が必要な人に届くよう、伝達方法を工夫しながら発信していきます。特に、地域ケアプラザではより身近な地域の情報を集め、提供していきます。

皆さんも、**お住まいの地域の回覧板や掲示板**をぜひご覧ください。



地区社協の広報紙

地域ケアプラザが地域のつながりづくりをお手伝いしています！

地域ケアプラザでは、「地域活動に参加し、地域のことをもっと知って、住んでいるまちをもっと好きになるう」をテーマに、高齢者や子ども等の交流の場づくりを行っています。

普段、外出や交流の機会の少ない高齢者等を対象に、自治会・地区社協・民生委員・老人会等の協力を得ながら、地域ケアプラザや、身近な地域の自治会館などで「高齢者サロン」や「食事会」などを開催しています。また、シニア世代が趣味や特技をいかして、子どもや子育て世代との交流を深める活動なども行っています。

地域活動をとおして仲間をつくり、お互いが元気になり、地域を好きになる。最初の一步を踏み出すきっかけが、地域ケアプラザにはあります。「地域で活動したい」「地域活動に参加するってどんなこと？」と思ったら、いつでも気軽に、お近くの地域ケアプラザにご相談ください。



高齢者サロン



趣味や特技（読み聞かせ、バルーンアート）をいかして、異世代交流



推進の視点③



高齢者・障がい者等の暮らしの支援

5年後にめざしたい青葉区の姿

地域のつながりの中で、認知症の人や障がいのある人等、誰もが住み慣れた地域で安心して暮らせるまちになっています。

地域の皆さんが取り組むこと・心がけること

- ちょっとしたことでも、悩んだ時は抱え込まずに相談しよう。
- 元気なうちから介護予防に取り組もう。
- とともに地域に暮らす仲間として、認知症や障がいへの理解を深めよう。

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと（★重点取組）

★ 地域包括ケアシステムを推進し、住み慣れた地域で最後まで自分らしい暮らしを送れるように支援します。

地域包括ケアシステム構築の取組

★ 高齢者の健康寿命を延ばせるよう、介護予防に取り組む地域づくりを進めます。

例) 元気づくりステーションの充実、介護予防講座

★ 認知症への理解を深め、地域で支える仕組みづくりをします。

例) 認知症サポーター養成講座、認知症カフェ、はいかい高齢者安心ネットワーク

★ 在宅医療・介護連携の仕組みづくりを推進します。

例) 医療・介護連携「あおばモデル」

- ・ 高齢者や障がい者を支える支援者の連携・ネットワークを強化します。
例) 地域ケア会議、自立支援協議会
- ・ 元気な高齢者が活躍できる場を支援します。
例) 老人クラブ等の活動支援
- ・ 支援が必要な人を早期発見し、地域のつながりで支えあえるように、地域の見守り体制を強化します。
例) 青葉ふれあい見守り事業の推進
- ・ 地域のより身近な場所で、相談できる機会を増やします。
例) 地域包括支援センター出前講座、出張サロン、介護者のつどい、青葉区移動情報センターの運営
- ・ 身近な地域における高齢者・障がい者の権利擁護を推進します。
例) 青葉区あんしんセンターの運営、成年後見サポートネットの実施、市民後見人等の支援
- ★ 障がい児・者の地域交流を支援し、地域での障がい児・者への理解を深めます。
例) 障害者週間キャンペーン、ふれあい農園

取組紹介

これからも住み慣れた地域で元気に暮らしていくために！

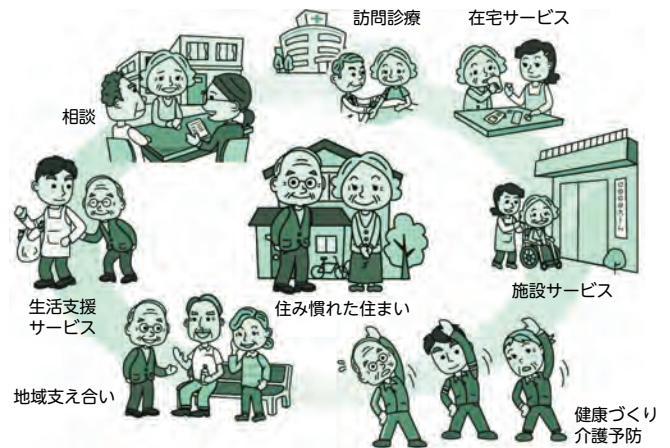
青葉区では、高齢者が住み慣れた地域で引き続き自立した生活が送れるよう、その人の状態に応じて、医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく提供するシステム「地域包括ケアシステム」の取組を推進しています。

地域包括ケアシステムを構築する取組の一つとして、高齢者が身近な場所で健康づくり・介護予防に取り組むことができる「元気づくりステーション」の充実を進めています。

■ みんなで一緒に介護予防！

「元気づくりステーション」

「元気づくりステーション」は、歩いて行ける身近なところで、仲間とつながりながら、楽しく健康づくりや介護予防の活動を続けられる場です。20人程度のグループで、地域の人が自主的に、体操やウォーキングなどさまざまな活動を行っています。



地域包括ケアシステムイメージ図
(第6期 横浜市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画より)



ボールを使っでの体操
(お通者体操クラブ・美しが丘)



ハマトレで介護予防
(下市ケ尾ほっとすまいるサロン・下市ケ尾)

活動内容と場所がひと目でわかる「元気づくりステーションマップ」を、配布しています。ぜひ、近所の皆さんと一緒に参加してみてください。

現在、行われている自主的な活動が継続できるように、地域ケアプラザ（地域包括支援センター）と区役所が応援しています。ご自分の地域で活動してみたいという人もご相談ください。

ともに生きる福祉社会づくりをめざして！

青葉区では、青葉区社会福祉協議会会員が主体となって、地域の皆さんに障がいについての理解を深めていただけるよう、啓発・広報活動を行っています。

■ 障害者週間キャンペーン

障害者週間（12月3日～9日）にちなみ、ともに生きる福祉社会づくりをめざして、障害者週間キャンペーンを実施しています。（平成27年度：26団体・施設参加）



駅頭での啓発・広報活動



区民ホールでのパネル展示・作業所製品販売



障害者施設によるミニコンサート

障がいに対する理解と認識を深めるためには、さまざまな機会を通じて障がい者の方々と知りあい、交流やふれあいを通じてお互いを理解しあうことが大切です。今後も当事者やボランティア、団体の幅広い協力を得ながら、地域全体に交流の輪をひろげていきましょう。

推進の視点④



子ども・青少年の健全育成

5年後にめざしたい青葉区の姿

未来をつくる子ども・青少年が、地域に見守られながら成長できるまちになっています。

地域の皆さんが取り組むこと・心がけること

- 子育てをあたたく見守り、地域ぐるみで子どもを育てよう。
- 子どもたちが地域の活動に参加し、自分のまちに愛着を持てる機会をつくろう。
- あいさつや声かけ等お互いに思いやり、助けあう大人の姿を子どもにみせていこう。
- 子どもたちと高齢者が交流する機会を持とう。

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと（★重点取組）

- ★ 地域で子育て支援をしている担い手や団体の情報共有や連携を図ることで、子育て支援ネットワークを強化します。
例) 地域子育て連絡会
- ・ 身近な地域での居場所づくりや相談する機会を充実させます。
例) 地域ケアプラザや自治会館等での子育て広場
- ・ 地域で子育てを支援する担い手育成を充実させます。
例) 子育て支援者・ボランティアや子育てサークル等の研修や連絡会
- ★ 児童虐待の予防及び早期対応のため、地域の理解をより深め、子どもや保護者を地域で見守る虐待防止の仕組みづくりをします。
例) 児童虐待防止啓発、児童虐待防止連絡会
- ・ 地域子育て支援拠点（ラフール）と連携し、青葉区の子育てを総合的に支援します。
- ・ 障がい児を支える支援者ネットワークづくりを強化します。
例) 自立支援協議会
- ★ 学校等と連携し、子どもや保護者も参加できる地域活動や福祉保健に関する取組を充実させていきます。
例) あいさつ運動、学校での福祉教育、中学校の福祉委員会との協働
- ・ 青少年が地域に見守られながら健やかに成長できるよう、地域と連携した取組を推進します。
例) 地域活動への参加のきっかけづくり、中学生の居場所づくり、読書を通じた活動と環境整備



取組紹介

「子育てに寄りそうまち」をめざしましょう！

青葉区は、人口における転出入の割合が高く、子育て世帯が地域とつながりづらい状況にあります。誰もが安心して子育てができるよう、身近な場所で子育ての相談ができる機会や場所を増やします。また、子育てを支援する関係機関の顔の見える関係づくりを進めていきます。

■ 子育て家庭に寄りそう環境づくり

子育て世代が孤立することがないよう、「地域育児教室」や「子育て相談会場」、地域の民生委員児童委員・主任児童委員やボランティアの人などが運営する「子育て広場」等、身近な場所で相談が受けられるよう、「**親子の居場所**」の充実を引き続き進めていきます。



地域育児教室



子育て広場



保育園の園庭開放

青葉区地域子育て支援拠点 ラフール

青葉区の子育て支援の総合的な拠点で、妊婦さん・0歳～未就学児とその家族、子育て支援に関わる人を対象にした施設です。親子で交流できる「ひろば」や子育てに関する相談、情報提供、ネットワークづくり、人材育成、「横浜子育てサポートシステム」事業を行っています。

地域子育て支援拠点では、「横浜子育てパートナー」を配置し、「ひろば」での相談はもちろん、「電話相談」や「地域の身近な場所へ出向いての出張相談」など、よりきめの細かい相談ニーズに対応していきます。



■ 身近な地域での子育て支援ネットワークづくり

親子の居場所の充実と併せて、「外出が難しい人」や「声としてはあがらない潜在的な子育てニーズ」にも対応するため、身近な地域でのネットワークづくりを進めます。

青葉区内の子育て支援機関の代表者による全体会と、地域の特性や状況に合わせたエリア別会を実施し、安心して子育てできる地域づくりを進めます。

子育て家庭が孤立しないためには、「**子育てしやすい地域の風土づくり**」や「**身近な地域で相談できる環境**」、「**身近な地域ぐるみで子育てできる環境**」が欠かせません。

それぞれの関係機関や団体、個人の強みをいかし、連携をとりながら「**子育てに寄りそうまち**」をめざしましょう。

推進の視点⑤



健康長寿のまちづくりの推進

5年後にめざしたい青葉区の姿

心身ともに健康で過ごせるように、子どもから高齢者まであらゆる世代の健康づくり活動が進んでいます。

健康づくりを担う人材育成や関係機関との連携強化により、地域で健康づくりができる機会が増えています。

地域の皆さんが取り組むこと・心がけること

- 家族や友人など、身近な人と一緒に健康づくりに取り組もう。
- 自分の健康に関心を持ち、健診（検診）を受けよう。
- 子どもから高齢者まで生活習慣を見直し、生活習慣病を予防しよう。

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと（★重点取組）

- ★ 地域の中で健康づくりができる機会を増やし、健康づくりをとおして、地域の交流を深めます。
例) 地域でのウォーキングや健康講座の開催、よこはま健康スタンプラリー
- ★ 保健活動推進員や食生活等改善推進員等、地域の健康づくりを担う人材育成を行います。
 - ・ 医療関係団体（医師会・歯科医師会・薬剤師会等）、病院、大学等と連携し、健康づくりに関する啓発を行います。
 - ・ 身近な健康づくりとして、ウォーキングを普及啓発します。
例) よこはまウォーキングポイント事業の普及
 - ・ 子どもから高齢者まで、誰もがライフステージにあった健康づくりができるよう支援します。
例) バランスの良い食生活、歯・口腔の健康、ロコモティブシンドローム^{*7} 予防に関する普及啓発
 - ・ 生活習慣病の早期発見・重症化予防のため、健康診査などの受診の啓発やこころの健康づくりの普及を進めます。
例) 横浜市特定健診・健康診査・がん検診・歯周疾患検診の啓発、睡眠・休養の啓発
 - ・ 感染症の予防のため、日頃の健康管理の啓発をします。
例) 予防接種や手洗いの励行など、感染症を予防する生活習慣の啓発

*7 ロコモティブシンドローム（運動器症候群）は、骨や関節、筋肉などの運動器の障害が移動能力を低下させてしまい要介護になる危険の高い状態をいいます。

取組紹介

人と人との「つながり」をいかした健康づくり！

青葉区では、誰もがいつまでも健康で暮らせるよう、各地域で健康づくりを進めています。

「保健活動推進員」や「食生活等改善推進員（ヘルスマイト）」と連携して、地域で健康講座やウォーキングイベントなどを開催しています。

■ 地域の仲間とウォーキング！



保健活動推進員のウォーキングイベント

生活習慣病予防には、週3回、1回30分以上の運動が必要です。保健活動推進員会では、気軽に取り組める運動としてウォーキングを推進しています。健康のために“1日8,000歩”歩きましょう！ウォーキングをすると仲間も増えます。

よこはま 健康スタイル



■ 「食」や「運動」をとおした健康づくり！



ヘルスマイトの食育講座

ヘルスマイトは、子ども、働き世代、高齢者など、ライフステージに応じた食育、ロコモ予防などに取り組んでいます。ほかにも防災訓練などで災害用の食糧備蓄、災害時の調理の工夫等についてもお伝えしています。

■ 人と人との「つながり」が、個人もまちも健康にします！

人と人とのつながりが強く、お互いに助けあう風潮がある地域は、そうではない地域に比べて、健康でかつ医療費が少ないことや、「自分は健康だ」と思える程度（主観的健康感）が高いといわれています。また、社会活動に活発に参加している人は、していない人に比べて健康で自立した生活を長く続けられるといわれています。

保健活動推進員やヘルスマイトが地域で開催するさまざまな講座やイベントに参加して、健康に関する情報はもちろん、身近な仲間づくりや地域の素晴らしさを発見してみませんか。



推進の視点⑥



災害時でも安心のまちづくりの推進

5年後にめざしたい青葉区の姿

いざという時に隣近所で助けあい・支えあえる「共助」の取組が進んだまちになっています。

地域の連携により、災害時に要援護者の助けあいの体制が進んでいます。

地域の皆さんが取り組むこと・心がけること

- いざという時に備えて、日頃から隣近所の人と、顔の見える関係をつくろう。
- 自分の住んでいる地域の防災拠点の訓練に参加し、地域での防災の取組を知っておこう。
- 災害時に避難の手助けが必要な人を、自治会町内会など地域の力で助けあおう。

区役所・区社協・地域ケアプラザが取り組むこと（★重点取組）

- ・ 防災や災害対策に関する取組を広報し、区民一人ひとりへ「自助」「共助」の取組を啓発していきます。
例) 広報よこはま青葉区版やラジオ等のメディアを通じた広報活動、防災マップやハザードマップの周知、地域ケアプラザ等での防災に関する講座
- ★ 高齢者や障がい者など、災害時に手助けが必要な人（災害時要援護者）の情報共有や避難支援の仕組みづくりを、地域とともに進めます。
例) あおば災害ネット、災害時要援護者の避難支援（特別避難場所の訓練等）
- ★ 医師会や病院等の医療関係団体・機関と連携し、災害時の医療体制の整備と普及啓発に取り組めます。
例) 地域定点診療拠点の整備・開設訓練



取組紹介

いざという時に備えて「自助」「共助」に取り組もう！

青葉区では、災害時に手助けが必要な人（災害時要援護者）の避難支援の仕組みづくりや、市民の生命を守るため、災害時の医療体制の整備を進めています。

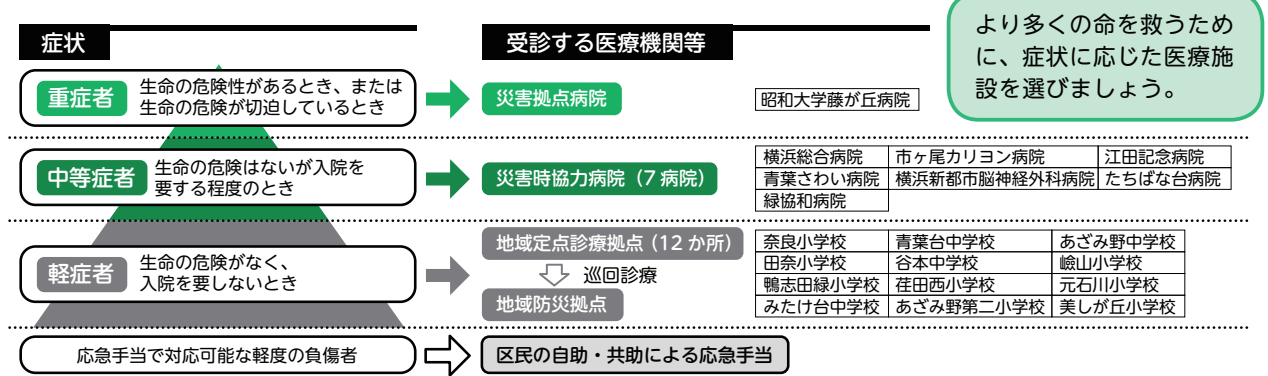
■ あおば災害ネット

災害時に地域の中で一人暮らしの高齢者や障がい者（災害時要援護者）などの安否確認・避難支援などが近隣の助けあいにより行えるよう、あらかじめ要援護者の住所、氏名等を登録し、それを地域で共有するシステム（あおば災害ネット）の取組を進めています。



あおば災害ネットは地域の皆さんの助けあい（共助）の取組です。登録された情報を自治会町内会や地域防災拠点の役員等が共有し、防災訓練に活用したり、登録者の地図を作成するなど、より効果的な活用が図られることで、助けあいの輪が広がります。登録を希望する人はお近くの民生委員にご相談ください。

■ 青葉区における災害時の医療体制



地域定点診療拠点

青葉区内で震度6弱以上の地震が観測された場合に、医療関係団体の協力を得て「地域定点診療拠点」を12か所の地域防災拠点に併設します。地域の身近な場所で軽症者の応急医療を迅速に実施するため、必要な物資や医療用の資器材を備蓄しています。

また、地域定点診療拠点から地域防災拠点へ巡回診療も行います。

震災等から身を守るためには、日頃からの備えも大事です。最低3日分、できれば1週間程度の食糧や水を備蓄し、薬を服用している場合には、お薬手帳などを活用して薬の種類や量が分かるようにし、いざという時に備えて「自助」に取り組みましょう。

第3節 地区別計画

(1) 地区別計画の推進

なぜ「地区別」の計画をつくるのか

地域の中でお互いに支えあうには、日頃からの「地域のつながりづくり」が大切です。

各地域の特性をいかしつつ、地域の生活課題にきめ細かく対応するため、「地区別計画」を策定・推進しています。お互いの顔が見える日常生活エリアを単位とし、身近な地域のつながりにより、さまざまな場面で地域の「力」が発揮されます。

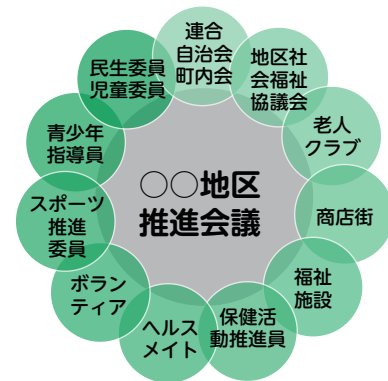
「地区別計画」がめざすもの

地区別計画の策定・推進をとおして、地域の皆さんが住み続けたいまちの姿を共有し、自ら地域の強みをいかした活動を行い、課題解決に取り組むことをめざしています。地域の皆さんが話し合ったことが、具体的な取組につながり、各地区でさまざまな活動が展開されています。

地区別計画の推進について

- 地区別計画推進会議は、連合自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員など、地域の福祉保健活動に関わる団体や関係機関が主体となり、構成されています。
- 年1回から数回程度、推進会議を開催し、地区別計画の進捗状況の確認や、今後必要な取組について話し合います。
- 推進会議メンバーには、地区の状況や話し合うテーマによって、関係する人や団体も加わります。また取組についても、必要に応じて関係団体と連携・協力して実施します。
- 計画の振り返りを行い、課題を整理し、日々の活動にいかしていきます。

地区別計画の推進体制イメージ



※ 地区により推進会議の構成メンバーは異なります。

★地区別計画推進会議に地域のいろいろな活動団体が参加し、地域情報や活動する上での課題を共有したり、お互いの団体の力をいかすことにより、地域全体や各団体の活動を応援しあう関係が深まります。

★地域の皆さんの力が発揮され、活動の継続や地域課題に連携して対応できるようになります。

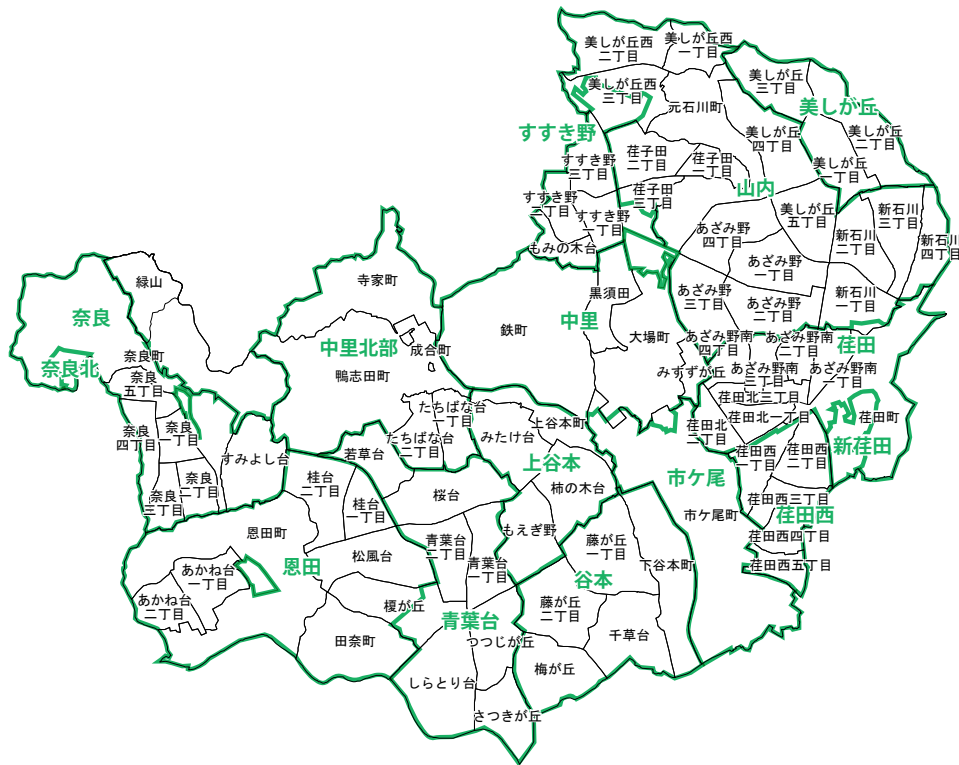
区役所・区社協・地域ケアプラザによる推進支援

区役所、区社協、地域ケアプラザは、地域だけでは解決できない課題等に対し、地域のニーズに応じて地区別計画推進会議とともに検討し、解決に向けた支援をしていきます。



(2) 青葉区の連合自治会町内会（地区社会福祉協議会）エリア

青葉区には15の連合自治会町内会が組織されています。地区別計画は、身近な地域の多様なニーズに対応するため、15の連合自治会町内会（地区社会福祉協議会）エリアごとに策定しています。



地区別計画の見方

「地区の概況」
地区内の主な公共施設や市立小中学校の位置を掲載しています。(地区外でも当該地区を担当している地域ケアプラザ(地域包括支援センター)は掲載しています。また、推進会議のメンバーとなっている主な施設等も掲載しています。)

「5年後にめざしたいまちの姿」
「自分たちの地域がこうなるといいな」という地区の5年後の姿を掲載しています。

「地区内の町丁目」
各連合自治会町内会エリアに属している区域を掲載しています。複数の地区に属している町丁目については「(一部)」と記載しています。

「地区で行われている福祉保健活動」
地区で行われている主な福祉保健活動を紹介しています。

「地区の目標・取組」
地域の生活課題を解決するために、15地区それぞれの地域の特性を踏まえ策定した目標と取組を掲載しています。※地区によって目標や取組の数は異なります。

「第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見」
第3期計画の策定にあたって、各地区で実施した「地区別意見交換会」等において、地域の皆さんから出されていた主な意見を掲載しています。

「主な推進会議のメンバー」
各地区の推進会議のメンバーとして計画の推進に参加している主な団体や関係機関を掲載しています。※地区によって推進会議の構成メンバーは異なります。

「プロフィール」
地域の特徴や地区内で行われている行事を紹介しています。

「中里地区」
中里地区は、地域を住み良い環境にすることをモットーに、自体的特徴を行っています。良隣り大会、防災訓練等が行われる中で、住民が、共にこれによって住民同士の交の輪が広がっています。

「中里地区」
5年後にめざしたいまちの姿
みんなで支えあい「ふるさと」として愛されるまち

「中里地区」
けあい、協力できるコミュニティをつくらう!

「中里地区」
等をとおり、地域活動のPRをする。域への愛着を深める。カードの普及啓発とともに住民の防災意識を醸成していく。有の大切さを啓発する。

「中里地区」
「取組」
● 介護予防に取り組み、元気で安心した生活を営む機会をつくる。
● 認知症を理解する機会をつくる。
● 老人クラブの活発な活動を継続していく。
● 高齢者施設と連携し、相談・見守り体制づくりをすすめる。

「中里地区」
安心して子どもを育てられるまち!

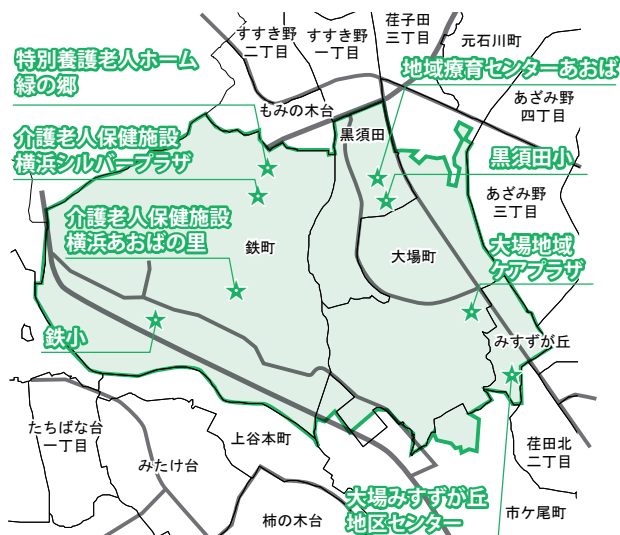
「中里地区」
継続していく。【職士料理を作ろう】等の取組を継続していく。環境づくりをしていく。の地域が好きと思える体験をしよう。

区計画
地区別計画
中里
中里北部
市ヶ尾
上谷本
谷本
恩田
青葉台
奈良
奈良北
山内
荏田
荏田西
新荏田
すすき野
美しが丘

中里地区

プロフィール

中里地区は、地域を住み良い環境にすることや人々の交流をモットーに、団体の特徴に応じた活動を行っています。盆踊り大会や夏祭り、どんど焼き、防災訓練等が行われ、子どもから高齢者までの住民が、共に行事に参加することによって住民同士の交流、親睦や住民の輪が発展しています。



【地区内の町丁目】

市ヶ尾町（一部）、大場町、鉄町、黒須田、みずが丘

地区で行われている福祉保健活動



スポーツ大会



「郷土料理を作ろう」



老人会芸能大会

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 地域の中での横のつながりがこれからも必要。
- 地域活動の引き継ぎが課題。人材の発掘が必要。
- 高齢者の健康づくり、身近に参加できる場づくりが大切。
- 若いうちからの意識づけ、子どもたちの地域への愛着づくりが大切。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、銀の会（ボランティア団体）、横浜あおばの里（介護老人保健施設）、横浜シルバープラザ（介護老人保健施設）

担当地域ケアプラザ（地域包括支援センター）：大場地域ケアプラザ、緑の郷地域包括支援センター（平成28年度中に「すすき野地域ケアプラザ」が開所予定）

【5年後にめざしたいまちの姿】

みんなで支えあい、“ふるさと”として愛されるまち

目標1 みんなが助けあい、協力できるコミュニティをつくろう！

【取組】

- 地域イベントカレンダー等をとおして、地域活動のPRをする。
- 伝統行事をとおして、地域への愛着を深める。
- 地域防災拠点や支えあいカードの普及啓発とともに住民の防災意識を醸成していく。
- 個人情報の管理と情報共有の大切さを啓発する。

目標2 地域力を高める人材を育てよう！

【取組】

- 地域活動をとおして、地域のリーダーを発掘する。
- 活動団体間の結びつきを深め、多世代の交流を図る。
- 若い世代がボランティアを始めるためのきっかけをつくる。

目標3 地域全体で高齢者を見守り、生き生きしているまち！

【取組】

- 介護予防に取り組み、元気で安心した生活が送れる地域づくりを進める。
- 認知症を理解する機会をつくる。
- 老人クラブの活発な活動を継続していく。
- 高齢者施設と連携し、相談・見守り体制づくりをすすめる。

目標4 地域で子育てをし、安心して子どもを育てられるまち！

【取組】

- 親子で参加できる居場所づくりを継続していく。
- 子育て中のお母さんが交流できる「郷土料理を作ろう」等の取組を継続していく。
- 子どもたちがボランティアできる環境づくりをしていく。
- 地域行事に子どもが参加して、この地域が好きと思える体験をしてもらう。

中里北部地区

プロフィール

中里北部地区は、新しく住宅開発された地域と古くからある地域とが混在しています。公園も多く、寺家町周辺では、田園風景も見られ、緑豊かな地域です。地域の活動には、子どもから高齢者まで、あらゆる世代が大勢参加し、継続した取組となっています。また、地域ケアプラザを拠点として、子ども、高齢者、障がい者などを対象とした活動が盛んです。第2期計画より、ちょっとした困りごとを地域のボランティアでお手伝いする「ちょこボラ」の取組が始まり、高齢者世帯のごみ出しのお手伝いなどを通じ、身近な地域で支えあえる関係づくりが進んでいます。



【地区内の町丁目】

鴨志田町、寺家町、たちばな台一丁目、たちばな台二丁目、成合町

地区で行われている福祉保健活動



お花見



すこやかお食事会



連合運動会

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 担い手づくりが必要。高齢者を地域の活動に取り込みたい。
- 若い人が地域に関われる機会をつくりたい。
- 子どもが見守られ、子育てしやすい地域にしたい。
- 認知症を理解し、高齢者の見守りをどうしていくか。



主な推進会議のメンバー

連合町内会、単位自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、友愛活動員、青少年指導員、スポーツ推進委員、家庭防災員、PTA、トゥギャザー・ひろがりサロン・ひまわり会・かも☆ん（ボランティア団体）

担当地域ケアプラザ：鴨志田地域ケアプラザ

【5年後にめざしたいまちの姿】

あらゆる世代の交流がさかんに行われ、
さまざまな人の和が広がり、
すべての住民が地域の一員と感じられるまち

目標1 高齢者が活躍できる生きがいのある地域にしよう！

【取組】

- 高齢者が趣味や特技をいかして、地域デビューできるように働きかけをする。
- リタイアした人が地域に関心を持てる機会を増やす。
- ちょっとしたボランティアから、地域活動に興味を持ってもらう。

目標2 若い世代を呼びこみ、地域に根づく環境をつくろう！

【取組】

- お祭りやマラソン大会等の地域のイベントの継続により、世代間交流を進める。
- 得意なことをいかして、地域で活躍できる機会をつくる。
- 地域のことに関心を持ってもらう。

目標3 認知症を理解し、それぞれの立場で高齢者を見守ろう！

【取組】

- 日頃からあいさつをし、お互いにもう一声かけられる地域にする。
- 悩んだ家族や気づいた人が相談できる場をPRする。
- 認知症の講習会等を身近な場所で定期的に継続して行う。

目標4 子どもが自分のまちをもっと愛せる地域にしよう！

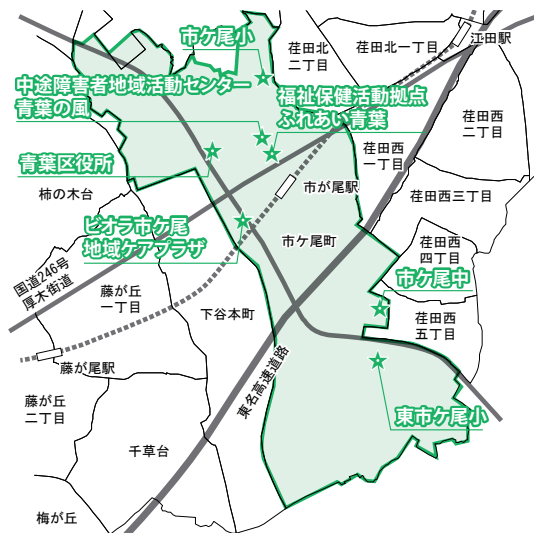
【取組】

- 学校と連携した活動や交流を促進する。
- 地域のみんなが子どもへ声をかけ、あいさつをする。
- 地域の行事やパトロールへの子どもの参加を推進するために、発信方法を工夫する。

市ケ尾 地区

プロフィール

市ケ尾地区は青葉区の南東に位置し、都筑区に隣接しています。地区の中央には多くの住民が利用する市が尾駅があります。地区内には区役所、警察署、消防署、税務署、区社会福祉協議会等があり、青葉区の官庁街としての顔も持っています。また、江戸時代から続く伝統行事が大切に引き継がれている一方で、地域の豊かな自然をいかした「ビオラの畑」の取組や高齢者サロン、子育てサロン活動も盛んです。



【地区内の町丁目】
市ケ尾町（一部を除く）

地区で行われている福祉保健活動



いちがおふれあいの会（高齢者サロン）



いちがおっ子（子育て広場）



ビオラの畑

2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- あいさつ、声かけの大切さ→近所とのつながり・コミュニケーション。
- 身近な小さな単位での活動が活発。身近に集える場所がある。
- 地域の団体はイベントなどでの情報交換で強みをいかしたい。
- 閉じこもりがちな高齢者の見守りが今後も必要。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、食生活等改善推進員、中途障害者地域活動支援センター青葉の風、ボランティア
担当地域ケアプラザ：ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

市ケ尾地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

みんなで地域のつながりを深め、イキイキと活動し、 住み続けたいまち市ケ尾

目標1 活発な地域活動を活かし、もっとつながりのあるまちに！

【取組】

- あいさつ、声かけでコミュニケーションを深める。
- 地域活動の魅力を一層発信する。
- 地域団体間の情報共有を密にして、相互のつながりを強める。

目標2 異世代の交流を深め、誰もが楽しく活躍できる地域に！

【取組】

- 子ども会をはじめとして、子どもが集える場を増やしていく。
- 畑の取組等、閉じこもりがちな男性が参加しやすい場をさらにつくっていく。
- 町内会館などを活用し、身近な異世代交流の場を増やしていく。
- 地域のいろいろな行事は、「出会い・見守り・情報共有」の場としていく。

目標3 いつ災害が起こっても、困らないまちに！

【取組】

- 広報や町内回覧等で、各自の防災の備え（食糧、非常持出品、家族の話合い等）や地域防災拠点、いつとき避難場所の周知啓発をする。
- 小・中・高等学校と連携し、多くの若い世代が、防災訓練に参加するようにする。
- あおば災害ネットをさらに普及させる。

目標4 健康でいられるよう、食と運動ではつらつとした暮らしを！

【取組】

- 身近な地域での健康づくりをとおして、地域のつながりを深める。
- 子どもも大人も「健康寿命」を延ばせるよう、食と健康づくりに関心を持つよう啓発する。
- 閉じこもりがちな人や働いている世代にも声をかけ、身近な地域での健康づくり活動への参加を促す。
- 参加しやすい健康づくりの取組をさらにPRする。

上谷本 地区

プロフィール

上谷本地区は、もえぎ野・柿の木台・みたけ台のほぼ同規模の3町内会で構成されています。町内会や地区社会福祉協議会をはじめとした多くの関係団体が、互いに協力しあいながら、長年にわたり地域の行事やイベントを実施しており、住民交流の機会となっています。また、地域の関係団体が連携した見守り活動を、積極的に進めています。



【地区内の町丁目】

柿の木台、上谷本町、みたけ台、もえぎ野

地区で行われている福祉保健活動



地域ふれあい会



子育てひろば「すくすく」



ふれあい食事会

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 活動を通じてのつながりは活発。それをいかして異世代とのつながりをどうつくるか。
- 地域の魅力アップを図りたい。若い世代の意見も聞いてみたい。
- 災害への備えの充実が必要（防災マップの活用【個人情報 の有効活用】、大丈夫手ぬぐい、地区内訓練の充実）。
- 担い手の高齢化が進んでいる。町内会加入率をアップさせたい。



主な推進会議のメンバー

地区社会福祉協議会（連合町内会、単位町内会、民生委員児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員、老人クラブ、子ども会、更生保護女性会、ボランティア団体（地区社協ボランティア会・上谷本ふれあい食事会・もえぎ野ふれあいの樹林愛護会）

担当地域ケアプラザ：もえぎ野地域ケアプラザ

上谷本地区域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

「子どもからお年寄りまでいつまでも暮らし続けたいまち」
～お互いに見守り支えあうまち～

目標1 健康で安全・安心に住みやすいまちづくり！

【取組】

- 身近な場所で健康づくりをしながら、顔見知りの関係づくりを進める。
- 地域活動や行事に参加するきっかけ・場づくりを増やしていく。
- 地域ぐるみで見守りや支えあい関係づくりを強めていく。
- いざという時に備え、日頃から両隣へのあいさつ・声かけや、高齢者などの気になる人の見守りに引き続き取り組んでいく。
- 住民同士の防犯意識を高め、防犯パトロールなどへの参加を促していく。

目標2 地域のつながりで災害時に住民が助けあえる体制を強めよう！

【取組】

- 防災訓練への参加や、日頃からの備えなど、自助・共助の意識を若い世代から高めていく。
- 災害時に地域ぐるみで要援護者（高齢者や障がい者等）の支援等ができるような仕組みづくりを検討する。
- いざという時のために、地域で支援が必要な人の把握、共有をしていく。
- 災害時に活用できる個人情報について、地域全体で理解を深める。

目標3 異世代間の交流など、活発な地域活動を継続し、より多くの人の地域参加を目指そう！

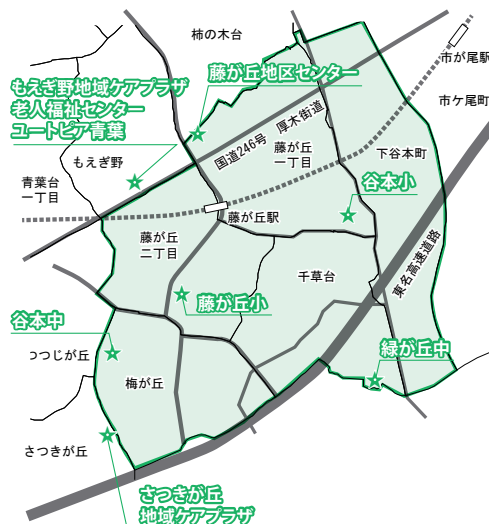
【取組】

- 地域のイベントや情報交換を通じて団体同士の横のつながりを強める。
- 若い世代の地域活動の参加を促し、次世代への継承をしていく。
- 子ども会やPTA等を通じて地域活動のPRをする。電子ツールを活用して情報発信し、地域活動への参加を促す。
- 若い世代に上谷本の良さを伝えていき、地域に愛着を持ってもらう。

谷本地区

プロフィール

谷本地区は、エリアの北部に田園都市線と国道246号線が東西に走り、東名高速道路「横浜青葉インター」があるなど、主要な交通手段が身近に存在しています。地区の大部分は、地区東側の鶴見川（谷本川）周辺を除き、昭和40年代に造成され、梅が丘は戸建て住宅が建ち並び、千草台は戸建て住宅とマンションの他、高齢者施設等も多く存在しています。藤が丘一丁目、二丁目には「藤が丘駅」周辺に商業施設やマンションが集まっており、区内最大級の医療機関である昭和大学藤が丘病院があります。



【地区内の町丁目】

梅が丘、下谷本町、千草台、藤が丘一丁目、藤が丘二丁目

地区で行われている福祉保健活動



連合体育祭



子育てひろば「遊ぼう会」



大丈夫手ぬぐい

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 地域活動のベースは町内会活動。民生委員の役割も重要。
- 大丈夫手ぬぐいの取組は進んでいる。広く活用していくには、取組の意義を伝えることが必要。
- 地域での声かけや見守り、防犯パトロールなどの取組を通じて、つながりができている。
- 各種団体のつながりづくりを継続していくことで、活動への参加者も増え、つながりが広がっていく。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員
 担当地域ケアプラザ：もえぎ野地域ケアプラザ

谷本地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

誰もが気軽にあいさつをかわせる仲のいいまち

目標1 地域の付き合いを一步進めよう！

【取組】

- 地域の誰もが（高齢者・障がい者・若い世代・子どもなど）行事に積極的に参加できるよう促し、多世代交流の輪を広げる。
- 班単位、団体同士、団体内外（自治会、地区社協、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人会、ボランティア会、見守り連絡会等）の地域活動をとおして、横のつながりづくりを進める。
- 商店街や病院との連携を図り、地域のつながりを深める。
- 「地域で会ったらあいさつをしよう」という気持ちを、地域のみんなで共有する。

目標2 災害時に誰もが安全に避難できるようにしよう！

【取組】

- 防災訓練で「大丈夫手ぬぐい」を活用し、「大丈夫手ぬぐい」の大切さを定期的を確認していく。
- 防災訓練に若い世代にも参加してもらう。
- 高齢者や障がい者などの要援護者が、災害時に安全に避難できるような仕組みを考えていく。
- いざという時に備えて、日頃から緊急時の連絡先等を確認しておく。

目標3 子どもから高齢者まで地域で見守っていこう！

【取組】

- より安心して暮らせるまちに向けて、子ども、高齢者、障がい者などへの見守りの輪を広げていく。
- 認知症の人や障がい者が暮らしやすい地域にするために、交流の機会などを通じて理解を深める。
- 転入者や子育て世代が孤立しないように、積極的に声かけをする。

恩田地区

プロフィール

恩田地区は青葉区の南西部に位置し、豊かな緑、丘陵、田園風景などの自然風景が広がっています。恩田連合自治会は、昭和62年に地域範囲・世帯数の増加に伴い、現在の青葉台連合自治会と発展的分割を行い再編成され、自治会、民生委員児童委員協議会、子供会等、さまざまな関係団体が協力して、誰もが「安全・安心」に暮らせる地域、住みよい地域と実感できるよう、さまざまな活動を活発に行っています。平成24年には恩田地域ケアプラザが地域福祉の拠点として開所しました。



【地区内の町丁目】

あかね台一丁目、あかね台二丁目、榎が丘（一部）、恩田町、桂台一丁目、桂台二丁目、田奈町、松風台

地区で行われている福祉保健活動



福祉と文化の集い



マラソン大会



田奈ステーション祭り

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 昔から顔の見えるつながりがある。歴史のあるまち。
- あいさつが盛ん。地区の団結力があり、地域の団体も一声かければいっしょにやってくれる。
- 「福祉と文化の集い」、学校との連携、子ども会の存在など、子育てへの意識が高い。
- 新たな担い手、「想いをつなげていく」人材の発掘が必要。
- 昔からの地区と開発された地区とのつながりを今後も大切にしたい。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、食生活等改善推進員、老人クラブ、もみじ保育園、あかね台光の子保育園、NPO法人青葉の樹（障がい者団体）
担当地域ケアプラザ：恩田地域ケアプラザ

【5年後にめざしたいまちの姿】

「地域を愛する気持ち」を大切にし、 お互いに支えあうまち

目標1 交流の輪を広げよう！

【取組】

- 地域の一体感が強まるように、まちぐるみであいさつし、顔の見えるつながりづくりを深める。
- 多様な世代が交流できるよう各団体が横のつながりを意識して地域交流イベントを実施する。
- 地域の拠点である自治会館やコミュニティハウスを活用して交流を図る。

目標2 地域を支えるボランティア等の担い手を育てよう！

【取組】

- 活動参加のきっかけになるPR方法を工夫し、豊かな人材を後継者として育成していく。
- 学校との関係をより大事にしながら、地域の想いをつなげる人材を育む。

目標3 高齢者・障がい者が安心して暮らせるまちをつくろう！

【取組】

- ひとり暮らし高齢者など、地域の高齢者が安心して住み続けられるよう、地域全体で見守っていく。
- 子どもからお年寄りまでふれあう機会を通じて、相互理解をより深める。
- 老人会などの活動を通じて、健康寿命を延ばし、健康に過ごせるようにする。
- 元気な高齢者が活躍できる場を増やし、「安心して歳を重ねられる」地域をつくる。

目標4 地域ぐるみで子育てを支援しよう！

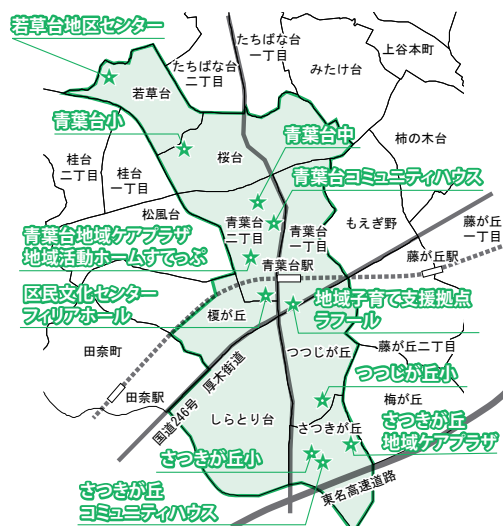
【取組】

- 「地域の先輩に感謝！」の気持ちを大切に、地域に愛着を持つ子どもを地域で育てていく。
- 子ども会やPTAが次世代につながる地域活動の柱となれるよう、地域の先輩と交流できる機会を増やす。
- 親子で地域に参加できる場や機会を増やす。
- 子育て中の親同士が交流できる場や機会を増やして「子育てを楽しめる」地域をつくる。

青葉台 地区

プロフィール

青葉台地区は、区の南部に位置し、町名に樹木の名前が多く使われている閑静な住宅街と、青葉台駅を中心とした活気ある商業地区とで構成されています。地区内には2つの地域ケアプラザをはじめ、高齢者、障がい者、子ども等に関する福祉施設が多いことも特徴の一つです。連合自治会や地区社会福祉協議会を中心に、商店会や各種団体・学校・企業等と連携した活動が活発で、住民どうしの交流も盛んに行われています。



【地区内の町丁目】

青葉台一丁目、青葉台二丁目、榎が丘（一部）、桜台、さつきが丘、しらとり台、つつじが丘、若草台

地区で行われている福祉保健活動



福祉まつり



青葉台地区支えあいネットワーク



介護施設支援訓練

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 連合自治会と地区社会福祉協議会が協働して「顔の見える地域コミュニティ」ができている。
- 3つの商店会が地域活動に積極的に参画している。
- 新しく転入してきた人も地域活動に気軽に参加している。
- 公共的な施設は多いが、身近に活動できる場は少ない（町内会館など）。
- 若い世代の担い手づくりは今後の課題。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、青葉台南商店会、青葉台商店会、桜台商店会、地域子育て支援拠点ラフル、消防団
 担当地域ケアプラザ：さつきが丘地域ケアプラザ・青葉台地域ケアプラザ

青葉台地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

みんなが活躍し、ふれあいが深まるかがやくまち

目標1 顔の見える地域コミュニティをつくろう！

【取組】

- さまざまな世代の人々が集まる「福祉まつり」などをいかし、地域のつながりを深めていく。
- 青葉台駅を中心として、PTAとも連携し行っている環境浄化活動や防犯パトロール活動の継続を通じて、誰もが安心して暮らせるまちづくりを進める。
- 各商店会が行う活動に対して、地域をあげて協力をしていく。
- 地域活動の場を通じて団体同士の連携・情報共有を図り、より充実した顔の見える関係づくりを進める。
- 体操教室などの健康づくり活動を継続し、地域住民が健康づくりを通して気軽に参加し交流を図れるようにしていく。

目標2 地域の人材を掘り起こし、まちづくりへの参加を促そう！

【取組】

- 「青葉台地区支えあいネットワーク」などを通じて、地域で気軽にボランティア活動に参加でき、参加者が継続して活動できるよう支援する。
- 地域に住む人がその地域の活動に関心が持てるように、団体や施設などの情報を集め、発信していく。
- 活動する人、団体間の連携をより一層深め、人材発掘に向けた情報の共有を進めていく。
- 既存のお祭りやイベントなどの機会を通じて、若い世代にも活動に関心を持ってもらうよう声かけをする。

目標3 高齢者・障がい者を地域であたたかく見守っていこう！

【取組】

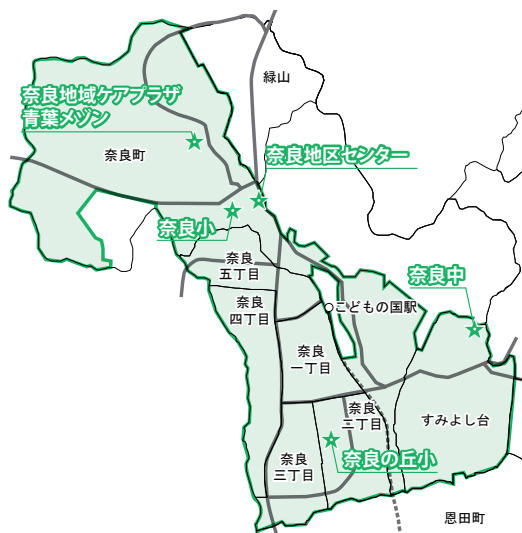
- 地域の福祉施設における防災訓練等を通じて地域内の相互理解を深め、日頃から支えあえる関係を引き続きつくっていく。
- 支えあいカードの活用などを通じて、地域全体で高齢者や障がい者の見守り活動を引き続き推進していく。
- 「ふれあい広場」など既存の活動を充実・継続し、地域ぐるみで高齢者を見守っていく。
- 地域の中で、認知症の高齢者や障がい者に対する理解をより一層深めていく。

目標4 すべての子ども達がいきいきと育つ環境をつくろう！

【取組】

- 子育て広場など、子育て世代が集まれる場づくりの継続を通じて、親同士が知り合い、つながるきっかけづくりを支援する。
- 学家地連（学校・家庭・地域連携事業）による、地域の清掃活動など、子どもたちのより積極的な地域活動の参加を継続支援する。
- 各自治会で行う夏祭りなどを通じて地域への愛着を深め、子どもたちのふるさとづくりに引き続き取り組む。
- 地域のボランティアによる、登下校時の子どもの見守り活動を継続し、地域の中であたたかい目で見守っていく。
- 学校やコミュニティ施設等と連携し、さまざまな地域情報を発信していく。

奈良地区



プロフィール

奈良地区は青葉区の西に位置し、町田市と隣接しています。地形の起伏が多く、青葉区内でも有数の緑が多い自然豊かな地域です。住民の交流をとおして地域の絆を深めるため、また、子どもたちの故郷づくりへの取組として、夏祭りや盆踊り大会、秋祭り等、地域のイベントが活発に行われ、地域の活性化に寄与しています。地区内には奈良中学校、奈良小学校、奈良の丘小学校をはじめとした学校施設も多く、学園地域としての一面も持っています。

【地区内の町丁目】

すみよし台、奈良町（奈良北地区を除く）、奈良一丁目、奈良二丁目、奈良三丁目、奈良四丁目、奈良五丁目

地区で行われている福祉保健活動



グラウンドゴルフ



すこやか食事会



防犯パトロール

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 防犯パトロールなど、子どもたちが地域に見守られていることが、活動に関わってみて分かった。
- グラウンドゴルフを、大人と子どもが一緒にやってみてつながりづくりになっている。
- 南北に細長い地区で、町内会館などの活動拠点が少ない。
- 地域情報がきちんと手元に届くような工夫が必要（特に子育て世代）。
- P T Aや学校との連携（活動の場や周知など）を今後一層強めたい。



主な推進会議のメンバー

地区社会福祉協議会（連合自治会、単位自治会、民生委員児童委員、老人クラブ、青少年指導員、スポーツ推進員）

担当地域ケアプラザ：奈良地域ケアプラザ

【5年後にめざしたいまちの姿】

みんなにやさしく活力のあるまち

目標1 親しみの持てる地域コミュニティをつくろう！

【取組】

- 地域での「あいさつ運動」を推進し、気軽に声をかける関係づくりを進めていく。
- 「行事カレンダー」等を通じて、地域のイベントや暮らしの情報を発信していく。地域の歴史を知る機会をつくり、“地域への愛着”を深めていく。
- 「グラウンドゴルフ」を通じて、学校との連携を強め、異世代交流をより深める。
- 公園や寺社等を活用し、近隣のつながりを持てる場をつくっていく。

目標2 高齢者の交流を活発化させよう！

【取組】

- すこやか食事会・バスハイク・サロンなどを通じて、地域の高齢者が交流できる機会をつくる。
- 老人クラブなど、高齢者が地域活動に参加するきっかけづくりを充実させる。
- 「ノルディックウォーキング」など健康寿命を延ばす取組を行っていく。
- 昔遊びなどをとおして、高齢者と子どもが世代をこえてふれあえる機会を増やす。
- シニア世代が地域で活躍できる場をつくる。
- 高齢者が孤立しないように、身近な見守りや声かけをしていく。

目標3 「地域の子ども」という視点で、子どもの育ちを応援しよう！

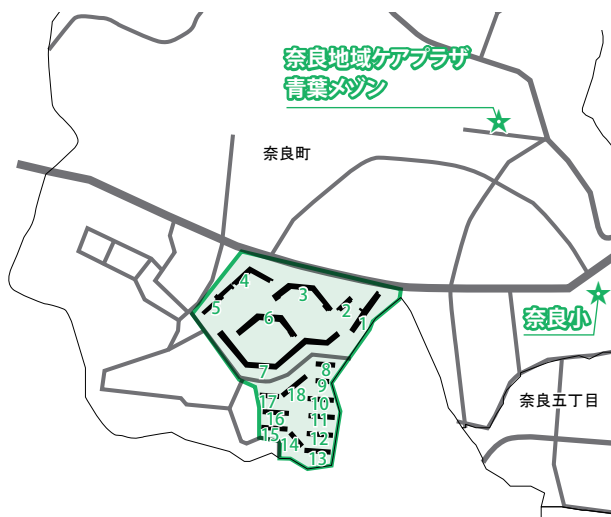
【取組】

- 子どもが楽しめる企画を、子どもと一緒につくっていく。
- 学校と連携をして、地域の一員である子どもの声を聴く機会をつくる。
- 「防犯パトロール」などの活動を通じて、学校・PTAと連携して、子どもの安全を守っていく。
- 子どもが地域で見守られていることを保護者にも知ってもらう。
- 子育て関連団体（PTA・子ども会・子育てサークル・おやじの会等）が、地域でより力を発揮できるように、横のつながりづくりを進めていく。
- 地域の子育て情報を整理して、発信する。
- 障がい児・者への理解を広める。

奈良北 地区

プロフィール

奈良北地区は青葉区の北西にあり、1971年に入居開始したUR都市機構の賃貸住宅（約1,600戸）です。連合自治会や地区社会福祉協議会を中心に、サロン、バザー等、長く続いている交流活動がたくさんあります。現在は、子ども達が巣立ち、高齢者の割合が高くなっているほか、新しく転入する人も多くなっていますが、これからもお互い助けあい、安心して住める団地となるよう、あいさつや声かけを積極的に進めています。



【地区内の町丁目】
奈良町（一部）

地区で行われている福祉保健活動



防災講話



クリスマス会



ならきた祭

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 昭和のころから先駆的な取組（子育て分野、文庫活動、防災講話等）をしてきた。
- 住んでいるところに愛着を持つことが大切。
- 小さなグループの力がたくさんあることの強み。今ある活動を継続することで、人・活動者のつながりづくりになる。
- 地域がつながることで、いざという時の団結力を高めたい。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、スポーツ推進委員、青少年指導員、家庭防災員、環境事業推進員、老人クラブ、防犯指導員、ボランティア団体
担当地域ケアプラザ：奈良地域ケアプラザ

【5年後にめざしたいまちの姿】

みんなに優しく誇れる団地
いざという時、団結してお互いに助けあえる団地

目標1 子どもから高齢者まで、団地全体でお互いに見守っていこう！

【取組】

- 大人も子どもも気軽に元気よく声をかけあう。
- 日頃の活動をいかして、お互いを知る。
- 地域の情報を届ける。
- 誰もが参加しやすい居場所づくりをする。
- 地域活動に参加しやすいきっかけづくりを工夫する。

目標2 顔の見える関係を築き、団結力を深めよう！

【取組】

- まずはあいさつをかわし、関係を築いていく。
- 団地や自治会の良さをみんなでみつけて、発信していく。
- 若い世代や転入者に地域に関心を持ってもらい、地域活動に参加してもらう。
- 非常時に備えて、自助・共助の備えをする。

目標3 活動者同士のつながりをさらに強めよう！

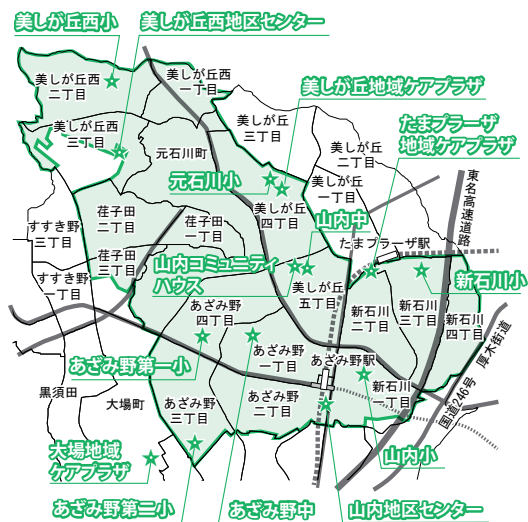
【取組】

- 定期的に活動団体の情報交換・共有の場をつくっていく。
- 活動団体の活動を広報誌等、いろいろな方法でPRしていく。

山内地区

プロフィール

山内地区は、青葉区の東北部に位置しており、区内で最も広大なエリアを占める地区です。早濑川流域の両岸を中心に、歴史と文化を継承しつつ発展してきました。お祭りなどの伝統行事を大切にし、これらの行事をとおして、住民とのつながりづくりに力を入れています。各自治会の子どもから高齢者までが集う「山内地区体育レクリエーション大会」は地域の代表的なイベントとなっているほか、地区内の各団体による福祉保健活動も活発に展開されています。



【地区内の町丁目】

あざみ野一丁目、あざみ野二丁目、あざみ野三丁目、あざみ野四丁目、美しが丘四丁目、美しが丘五丁目、美しが丘西一丁目、美しが丘西二丁目、美しが丘西三丁目（一部）、荻子田一丁目、荻子田二丁目、荻子田三丁目（一部）、新石川一丁目、新石川二丁目、新石川三丁目、新石川四丁目、元石川町

地区で行われている福祉保健活動



体育レクリエーション大会



子育て山内ひろば



お祭り

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 地域の行事をとおして、多世代交流を図りながらつながりを深めている。
- 地域と諸団体が連携して防犯パトロールを行い、安心安全のまちづくりを進めている。
- 各自治会・各種団体の活動を大切に、山内地区全体の一体感を強めたい。
- お互いの活動を支援しあいながら、横のつながりをさらに広げていきたい。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、スポーツ推進委員、青少年指導員、環境事業推進委員、消防団、交通安全協会、家庭防災員、防犯協会、ボランティア山内・ぐるうがあざみ野（ボランティア団体）
 担当地域ケアプラザ：美しが丘地域ケアプラザ・大場地域ケアプラザ・たまプラーザ地域ケアプラザ

山内地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

次世代が地域を好きになれるよう、地域のつながりを継承し「ここに住んで良かった」と思えるまち

気軽に集まれる場所ができ、みんなが喜んで活動できるまち

目標1 地域のつながりを大切にしたい安心安全のまちづくり

【取組】

- 自治会を中心として、地域ぐるみで防犯パトロールを実施する。
- パトロール・地域行事等をとおして、顔の見える関係づくりを進めていく。
- 小中学生を含めた地域住民に、積極的に参加してもらえるような防災訓練を、今後も実施していく。
- 見守りや防災訓練に支えあいカード・要援護者マップを活用していく。
- 各種団体の意見交換の場を充実させ、横のつながりをさらに強めていく。

目標2 赤ちゃんから高齢者まで、気軽に地域活動に参加できるまちづくり

【取組】

- 地域のイベントに赤ちゃんから高齢者まで、継続して参加できるようにする。
- スポーツや趣味を通じて、住民交流の機会をつくる。
- 活動の場をつかって、仲間づくりをする。
- 地域のつながりをいかして、支えあいの輪を大きく広げる。
- 地域の活動団体の連携を深める。
- 日頃のつながりから、次の担い手をつくる。

目標3 昔から続く助けあいの精神を継承していこう

【取組】

- 地域の伝統行事をとおして、地域に愛着と誇りを持てるようにする。
- 学校とさらに連携を強め、子どもたちに歴史と伝統行事を伝承していく。
- 地域の伝統行事を継承していくため、担い手の育成をしていく。

荏田 地区



プロフィール

荏田地区は、青葉区の東に位置し、都筑区に隣接しています。古くは、大山街道の宿場町として発展しました。地区内には、東急田園都市線の江田駅があるほか、東名高速道路、国道246号線、旧大山街道などの交通の大動脈が通っています。地域の活動団体が連携して、活発に地域行事を行っています。

【地区内の町丁目】

あざみ野南一丁目、あざみ野南二丁目、あざみ野南三丁目、あざみ野南四丁目、荏田北一丁目、荏田北二丁目、荏田北三丁目、荏田町（一部）

地区で行われている福祉保健活動



茶話会



レクリエーション大会



ウォーキング

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 第2期計画の推進をとおして、団体間が協力し、いろいろな活動ができた。
- 向こう三軒両隣で高齢者の見守りができていくとよい。
- 荏田地区は国道246号線で分断されており、行きやすいところに活動の拠点があるとよい。
- 世代に関係なく参加できる活動として、ラジオ体操なども引き続き取り組んでみたい。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、青少年指導員、スポーツ推進委員

担当地域ケアプラザ：荏田地域ケアプラザ

荇田地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

「荇田っていいな」って言えるまち

～子どもから高齢者まで、地域に愛着を持ち、安心して暮らせるまち～

目標1

イベントや地域活動をとおして、住民どうしのつながりをつくろう！

【取組】

- 若い世代や団塊の世代など、新たな担い手がお祭り・茶話会・レクリエーション大会等に関わり、子どもから高齢者まで参加できるイベントや地域活動を実施する。
- 荇田地区計画推進会議のような地域のいろいろな団体が参加し、横断的な情報共有と意見交換を定期的に行う。
- えだまち暦などを通じて、地域のイベントや「歴史ある荇田のまち」をもっと多くの人に知ってもらえるようにPRする。

目標2

子どもから高齢者までスポーツ等をとおして、健康づくりに取り組むまちにしよう！

【取組】

- ウォーキングを継続していく。
- 子どもが参加できるように、夏休みにラジオ体操を開催する。
- 身近な場所で、子どもも保護者も参加できる取組を増やしていく。
- 地区社協の健康・体操茶話会を広めていく。
- 今ある集まりの中で、健康をテーマにしたプログラムを行う。

目標3

隣近所で支えあいの輪をつくろう！

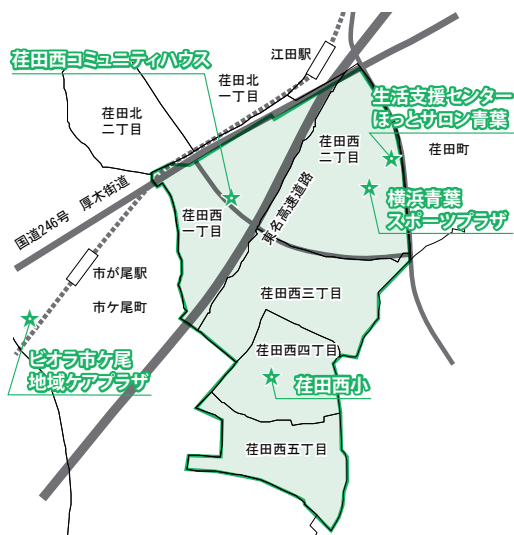
【取組】

- 子ども・高齢者・困っている人等、隣近所で声をかけあい、自分からも声をあげていく。
- 隣近所で気がかりなお年寄りを見守るサポーターを増やす。
- 地域のいろいろな人が支えあいの輪づくりに参加できる仕組みをつくる。

荇田西 地区

プロフィール

青葉区の東部に位置する閑静な住宅地で、地域の北部を東急田園都市線、国道246号線、東名高速道路が通っています。地域内には保育園などの福祉施設が多く、また、青葉区の中でも、年少人口割合が高い地域であることが特徴です。地域の取組では、連合自治会主催の「ふるさとまつり」や、ボランティア「えだにし学援隊」による登下校の見守り活動・あいさつ運動などがあり、住民同士の交流が活発に行われています。



【地区内の町丁目】

荇田西一丁目、荇田西二丁目、荇田西三丁目、
荇田西四丁目、荇田西五丁目

地区で行われている福祉保健活動



荇田西ふるさとまつり



えだにし学援隊



もちつき大会

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- コミュニティハウスができるとう地域住民が集まれる場ができ、活動の範囲が広がられると期待している。
- ふるさとまつりは、担い手側も楽しむことで地域の団体もつながっていく。自治会に入っていない人も参加している。
- 安心して暮らせる住みやすいまちにしたい。
- 学援隊のパトロールは約10年継続している。続ける難しさはあるが、子どもたちの見守りは大切なので続けていきたい。



主な推進会議のメンバー

地区社会福祉協議会（連合自治会、単位自治会町内会、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人会、ラベンダーの会・荇田西熟年健康倶楽部（ボランティア団体）、NPO法人ピッピ親子サポートネット（子育て支援ほか）、荇田西保育園、市が尾ポポロ（高齢者グループホーム）

担当地域ケアプラザ：ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ

【5年後にめざしたいまちの姿】

身近な活動が継続し、お互いが助けあう心を持てる、 つながりのあるまち

目標1 地域で顔の見える関係づくりを進めよう！

【取組】

- 「もちつき大会」などのイベントを通じて、団体同士の横のつながりをつくるとともに、顔見知りの関係を深めていく。
- いろいろな地域団体や人がお互いの情報を共有し、連携を強めていく。
- 地域で困っている人が声をあげやすいように、日頃からあいさつや気軽に声かけを行っていく。

目標2 子どもたちが安心していきいきと育つ環境をつくろう！

【取組】

- 「えだにし学援隊」の活動を継続し、充実させながら引き続き子どもの成長を地域で見守っていく。
- コミュニティハウスなどの地域の身近な場所で、親子で参加できる活動の機会を増やしていく。
- 地域の子育て活動に、ボランティアや住民の参加を呼びかける。

目標3 地域の活動の場を開拓していこう！

【取組】

- 「荇田西ふるさとまつり」など、地域参加のきっかけとなる多世代交流の場づくりを、今後も続けていく。
- 活動の情報を地域で共有し、地域ケアプラザやコミュニティハウスなどの地域の施設を活用していく。
- 子育て世代などの若い世代と経験豊かな世代とが、ふれあえる機会をつくっていく。

目標4 高齢者や障がい児・者が、自分らしく暮らせるまちにしよう！

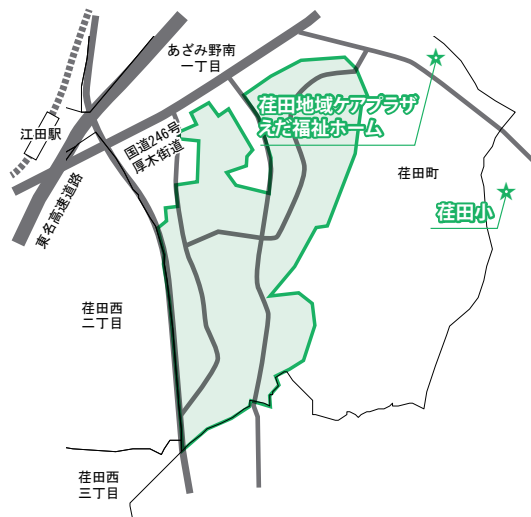
【取組】

- 地域の行事など、地域に住む高齢者、障がい児・者が気軽に交流し、理解しあえる場を充実させていく。
- 趣味や特技をいかして、自分らしく地域の活動に参加できる機会をつくる。
- ちょっとしたボランティアなどを通じて、身近に支えあえる関係づくりを進める。

新荇田 地区

プロフィール

新荇田地区は、昭和40年代に宅地開発され、その後自治会を組織し、自治会館を建設しました。この拠点を中心に、新荇田連合自治会や各団体がさまざまな行事を推進しています。高齢化が進む中、近所のつながりをより深められるよう、地域の交流を大切にしています。子どものふるさとづくりに向けて、異世代交流を進めながら、防犯・防災から小さな助けあいまで、各団体が協力したまちづくりを実践しています。



【地区内の町丁目】
荇田町（一部）

地区で行われている福祉保健活動



夏祭り



異世代交流



地区社協サロン

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 地域で子どもを見守ることができている。今後も子どもを大切にすまちにしたい。
- 活動がたくさんあり、担い手が増えたと良い。
- 地域のまとまりがある。これからも地域の一体感を大切にしたい。
- 近所の見守り・支えあいで、高齢者を支えたい。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、単位自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人クラブ、青少年指導員、スポーツ推進委員、子ども会
担当地域ケアプラザ：荇田地域ケアプラザ

新荇田地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

お互いに声をかけあい、子どもから高齢者まで、 みんなを大切にするまち

目標1 子どもたちのふるさとづくりをしよう！

【取組】

- 子どもたちに気軽に声をかけ、お互いにあいさつできる関係づくりをする。
- 引き続き学校と連携した活動や交流を進める。
- 異世代交流のイベントを継続し、輪を広げていく。
- 子ども会と連携して、子どもが地域活動に参加し、体験する機会を増やしていく。
- 地域のイベントや公園清掃により多くの親子が参加できるよう、工夫していく。
- 子育て中のお母さんの輪を広げる場を提供していく。

目標2 より多くの人々が活動に楽しく参加するなかで、担い手を育てる！

【取組】

- 若い世代が地域活動に参加しやすい工夫をする。
- シニア世代が、担い手として協力しやすいきっかけをつくる。
- イベントに続けて参加してもらえるように積極的に働きかける。
- 自分の趣味・特技をいかし、仲間づくりをすすめる。

目標3 向こう三軒両隣で高齢者を見守ろう！

【取組】

- まずは日頃から、隣近所を気にかけて、井戸端会議ができるような関係づくりを進める。
- 気になる人の情報共有の仕組みをつくる。
- 高齢者が集う場をさらに充実させていく。

目標4 災害時に備えた共助のネットワークをつくろう！

【取組】

- 災害時の助けあいのために、地域全体での組織づくりに着手する。
- 要援護者支援のために高齢者・障がい者等に対する理解を深める。
- 近所の高齢者や障がい者と共に地域で防災への意識を高める。
- いざという時に備え、隣近所のつながりを密にする。

すすき野地区

プロフィール

すすき野地区は、集合住宅と、戸建て住宅が混在しており、地区の最寄り駅のあざみ野駅、たまプラーザ駅までは、バス便が頻繁に出ています。高齢者の割合が区内でも比較的高い地区ですが、自治会町内会、各団体の高齢者サロンをはじめ活発な活動が進んでいます。特徴として連合自治会、地区社会福祉協議会の事業が盛んで、地区住民の参加率も高くなっています。



【地区内の町丁目】

美しが丘西三丁目（一部）、荇子田三丁目（一部）、すすき野一丁目、すすき野二丁目、すすき野三丁目、もみの木台

地区で行われている福祉保健活動



ふるさと祭り盆踊り大会



すすき野ふれあい



すすき野荇子田黒須田虹ヶ丘地域防災フェスティバル

第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 都市部にありがちな疎外感が少なくいろいろな活動が行われている。
- 地区全体では子供のふるさと回帰現象（故郷創造活動から現在までの活動の結果）も多くみられ、また、地域全体のイベントが多く暮らしやすいと感じている。
- 自治会員はこの地区に満足している方も多くみられる。
- 住民が一体となったイベント運営や日頃の声かけ等交流が根付いている。この現象がもっと進むとよいと考えている。
- 自治会活動が活発な反面、役員のなり手が少なくなっている。
- イベントが大掛かりとなって自治会の負担が増加している。自治会独自イベントに支障をきたす。
- 住民の独立性が高く自分の事は自分で行うといった傾向がある。横のつながりが乏しい。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、青少年指導員、スポーツ推進委員、保健活動推進員、老人クラブ

担当地域包括支援センター：緑の郷地域包括支援センター（平成28年度中に「すすき野地域ケアプラザ」が開所予定）

すすき野地区地域福祉保健計画

【5年後にめざしたいまちの姿】

コミュニティとして成熟し地域価値が高く、
和やかに安全で安心して住み続けられるまちと
なっている

地区住民が地区づくりに協働し活動している

目標1 次世代の地域を担う推進者の輩出手段と育成の検討を進める

【取組】

- 役員が過大な負担を負わなくてよい環境作りと、推進者選出の整備検討を進める。
- 連合自治会、自治会町内会、団体役員が地区の諸問題について議論する機会を作る。
また、地区の運営について継続した活動を進めるための勉強会開催を検討する。
- 自治会町内会、団体が継続できる体制をどの様に確保していくか検討を進める。
(各項は、実行可能な施策を検討する。)

目標2 高齢化に伴う地区課題抽出・対応する組織作りの検討を進める

【取組】

- 地区内高齢者、要援護者、生活弱者が安心して住み続けられる環境づくりを行う為の、問題抽出、対応策を自治会町内会中心に検討と対応策づくりを進める。
- 地区内の安否確認システムを作り、自治会町内会毎に検討を行う。
- 自治会町内会・団体の対応力に合わせた形で運営できるように検討を行う。
(各項は、実行可能な施策を検討する。)

目標3 地区住民の交流活動を進める

【取組】

- 交流活動を促進する事で、安全・安心のまちづくりを進めるため、犯罪・火災・災害発生防止活動を実施する。
- 地域交流機会をとらえ愛され住み続けられるまちづくりとなるよう、活動を進める。
- 自治会町内会が魅力ある団体となるようそれぞれにあった活動を進める。

目標4 地区全体に係わる課題とその対応策の検討を進める

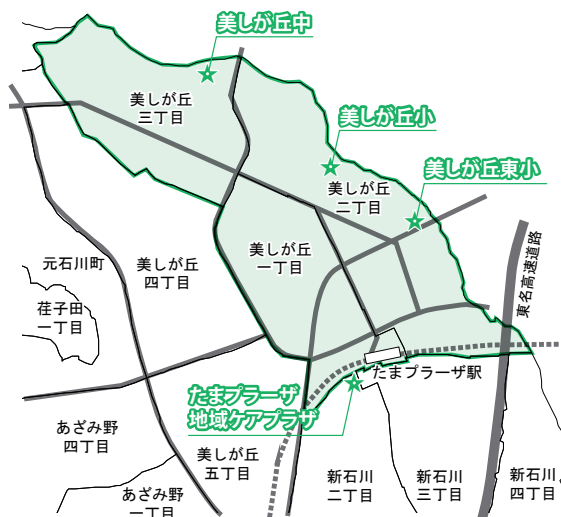
【取組】

- 自治会町内会・団体が共有する事項や対応策の検討を進める。
 - * 「子育ての取り組み」を進める。
 - * 「安全安心まちづくり」を進める。
 - * 災害時の“共助”の促進に取り組む。

美しが丘地区

プロフィール

美しが丘地区は開発当初から、住民がまちづくりに積極的にかかわってきた地域です。遊歩道や街路樹、公園などの地域資源をいかし、緑豊かで、誰もが住み心地の良い安全な地域をめざしてきました。学校や商店街と連携して、様々な取組を進めているのも特徴です。また、子どもたちの成長を温かく見守り、「このまちがふるさとといえるように」と、盆踊り大会等、地域活動に取り組んでいます。



【地区内の町丁目】

美しが丘一丁目、美しが丘二丁目、美しが丘三丁目

地区で行われている福祉保健活動



美しが丘公園落ち葉清掃



防災のつどい



地区社協バザー

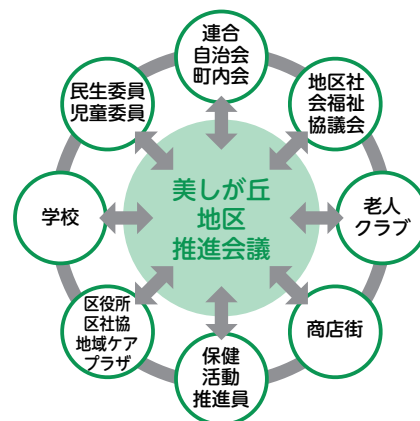
第2期計画の振り返り・意見交換会で出されていた意見

- 良い取組ができている。関わったことのない人に声かけする工夫が必要。
- 高齢者が参加できる機会は充実してきたが、出てこない人へのアプローチは今後も必要。
- 転入者が多い地域なので、情報をしっかり伝えていくことが大切。
- 地域の中での横のつながりづくりをしていきたい。
- 今後の取組で大事な視点は「健康づくり」。



主な推進会議のメンバー

連合自治会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員、保健活動推進員、老人クラブ
 担当地域ケアプラザ：たまプラザ地域ケアプラザ



【5年後にめざしたいまちの姿】

地域を大切に思う新しい仲間を増やし、
地域の一人ひとりがいつまでも健康で
自分らしく暮らせるまちをつくる

目標1 誰もが住みやすい安心安全のまちづくり！

【取組】

- 防犯パトロールや防災訓練等を通じ、いざという時に備え、日頃から身近な地域で声をかけあう関係をつくっていく。
- 支援が必要にもかかわらず、地域とのつながりが薄い人が、つながりを持てるようにするにはどうしたらよいか、検討していく。
- 地域の活動団体が情報共有し、地域のことについて話し合う場をつくっていく。

目標2 欲しい情報が手に入り、いきいきと暮らせるまち！

【取組】

- 地域ケアプラザを中心として、欲しい地域の情報が入手できるようにする。
- 地域ケアプラザを知らない人にPRしていく。
- 新しく地域に転入してきた人に、地域の情報を伝えていく。

目標3 地域ぐるみで子どもを育てよう！

【取組】

- 地域の子育て情報を紹介しながら、相談できる機会をつくる。
- 地域の子育て支援をしている関係団体の情報共有を密にしていく。
- 異世代交流の取組を引き続き活発に行っていく。

目標4 高齢者・障がい者が安心して自分らしく暮らせるまち！

【取組】

- 認知症の理解を深め、認知症の人が集える場を増やしていく。
- 障がいのある人を理解し、ともに楽しめる機会をつくる。
- 地域のみんなで連携して、地域の高齢者を見守っていく。
- ウォーキング等の健康づくりの取組の参加者を増やしていく。

第4節 計画の推進体制

(1) 計画の推進・評価

地域福祉保健推進会議

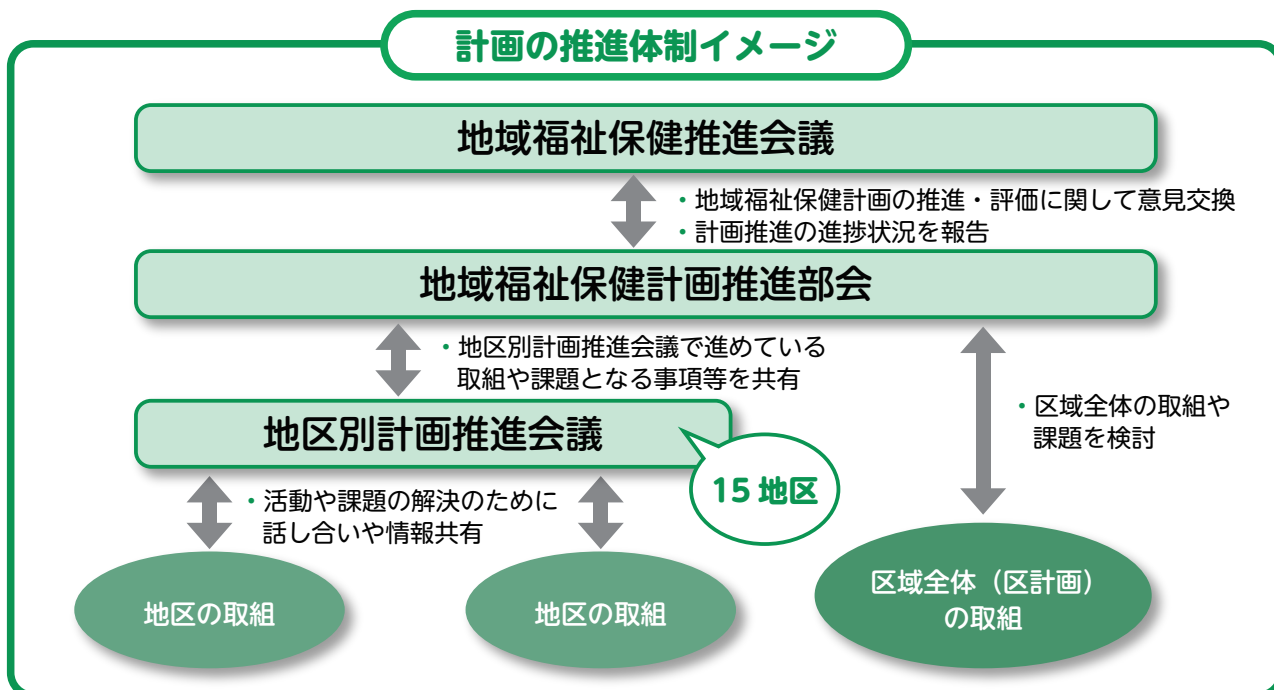
青葉区における福祉・保健・医療等の連携強化を図り、福祉保健サービスを充実させ円滑に実施することを目的に、区内の福祉・保健・医療等の各分野の代表者で構成される会議です。青葉区の福祉保健事業の推進について幅広く協議するとともに、地域福祉保健計画の推進・評価に関して意見交換を行っています。

地域福祉保健計画推進部会

計画の進捗管理及び振り返りの具体的な協議・検討の場として新たに設置します。地域福祉保健計画推進部会は、実際に計画推進に携わっている各種団体・委嘱委員等の代表者で構成し、各地区別計画推進会議で進めている取組や課題となる事項等を共有するとともに、区域全体の取組や課題を検討します。また、計画推進の進捗状況について協議し、その内容を地域福祉保健推進会議へ報告します。

地区別計画推進会議

連合自治会町内会、地区社会福祉協議会などの地域の福祉保健活動に関わる団体や関係機関が主体となり、地区別計画を推進するための会議です。地域の福祉保健に関わる活動や課題の解決のために話し合いや情報共有を行います。(※ 地区別計画の推進の詳細は P.44 を参照。)



(2) 計画における区役所・区社協・地域ケアプラザの役割

青葉区地域福祉保健計画を推進していく上で大きな役割を果たすのが、区役所・区社協・地域ケアプラザです。

区役所

区役所は、総合的に地域福祉保健計画を推進する役割を担います。地域とともに取組を進めてきた実績と、個別支援をとおして把握した生活課題や個別的なつながりを視野に入れ、また潜在的な少数者の課題も認識しながら取組を推進します。

青葉区社会福祉協議会（区社協）

青葉区社会福祉協議会は、地域住民やさまざまな団体・施設・関係機関等の参画を得て、地域の生活課題の把握とその解決の仕組みづくりを進めていく地域福祉の推進役として法的にも位置づけられた組織です。高い公共性を持ちつつも民間組織であることをいかし、即応性・柔軟性をもって地域支援に取り組みます。

地域ケアプラザ

地域ケアプラザは、地域の身近な相談機関として、地域ケアプラザへ寄せられた相談をとおしてさまざまな個別課題を把握するとともに、日常業務や地域住民とのつながりをとおして豊富な地域情報を把握しています。個別課題にとどまらず、地域の課題を把握し、地域支援の中核的な役割を担います。

コラム

青葉区社会福祉協議会について

青葉区社会福祉協議会は、その基本理念である区民の皆さんとの協働による地域づくりを進めるため、「青葉かがやく生き生きプラン」や、区民一人一人の生活課題を捉え、地域や区民の皆さんとともに課題解決に取り組む「身近な地域のつながり・支えあい活動推進事業」を全ての活動や事業の礎とし、区民の皆さんの生活支援や福祉ニーズに基づいたさまざまな活動を、区民の皆さんや地域ケアプラザをはじめとする関係機関、区役所と連携して行っています。

青葉区社会福祉協議会の活動

基本理念 「誰もが安心して自分らしく暮らせる地域社会をみんなでつくりだす」

基本方針 「地域福祉の推進」



青葉区社会福祉協議会
マスコットキャラクター「あおばちゃん」

地域福祉の推進

各種相談受付

- 各種福祉に関する相談受付
- 生活福祉資金貸付相談

地区社会福祉協議会や
さまざまな地域活動の
支援と連携

ボランティア・市民活動の支援

- ボランティアセンターの運営
- 助成金制度の実施

青葉区社協
あんしんセンター

青葉区移動情報センター

障がい当事者活動支援

広報啓発活動

- 青葉区社会福祉大会開催
- 各種福祉講座の開催
- 「あおば協だより」発行

送迎サービス事業

青葉区福祉保健活動拠点
「ふれあい青葉」の管理運営

「青葉かがやく生き生きプラン」
「身近な地域のつながり・
支えあい活動推進事業」

※掲載した内容は、一部の主な事業です。

コラム

地域ケアプラザについて

地域ケアプラザは、横浜市独自の施設で、「誰もが住み慣れたまちで、安心して暮らせる地域」をつくるために設置されています。平成28年3月現在、青葉区には11か所の地域ケアプラザがあります。

地域ケアプラザは地域の身近な福祉保健活動の支援・交流の場であり、また、福祉保健の相談・支援を行う「地域包括支援センター」の機能と「デイサービス」等の福祉保健サービスを提供する機能を有しています。（※ デイサービスを行っていない地域ケアプラザもあります。）

地域福祉保健計画の推進においては、区役所や区社協と協働して区域全体の課題への対応に取り組むとともに、地域ケアプラザの各部門が連携し、地域における課題の解決に向けて、住民の皆さんの取組を支援しています。

地域活動・交流

地域の福祉保健活動等の支援や交流の場として、ボランティア講座、各種教室や子育て支援に関する事業などを開催しているほか、会議室の貸し出しを行っています。また、ボランティアや地域の活動団体の支援や、地域に向けて活動内容の情報提供を行っています。



ボランティアグループの会議



食事会



子育て支援事業

緑の郷地域包括支援センター



大場地域ケアプラザ



鴨志田地域ケアプラザ



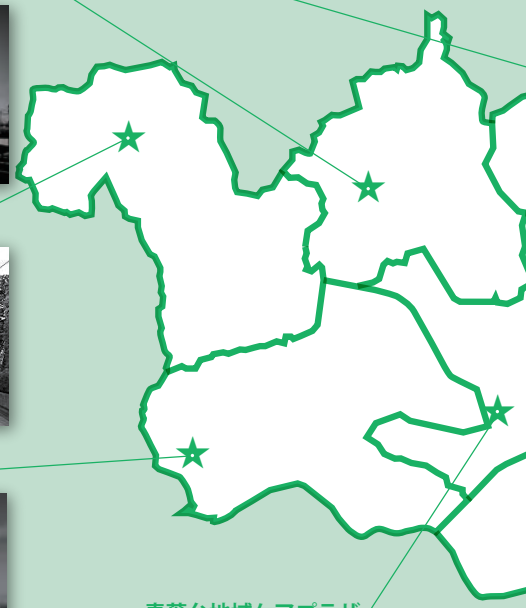
奈良地域ケアプラザ



恩田地域ケアプラザ



青葉台地域ケアプラザ



福祉保健の相談・支援（地域包括支援センター）

地域の身近な相談窓口として、福祉保健の専門の相談員（社会福祉士・主任ケアマネジャー・保健師等）が相談をお受けし、情報提供や関係機関との連絡調整を行います。また、介護予防事業や、高齢者の介護や権利擁護などに関するさまざまな講座を開催しています。

美しが丘地域ケアプラザ



相談の様子



講座の様子

たまプラザ地域ケアプラザ



ウォーキング

荏田地域ケアプラザ



体操教室

もえぎ野地域ケアプラザ



ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ



さつきが丘地域ケアプラザ



居宅介護支援事業・デイサービス

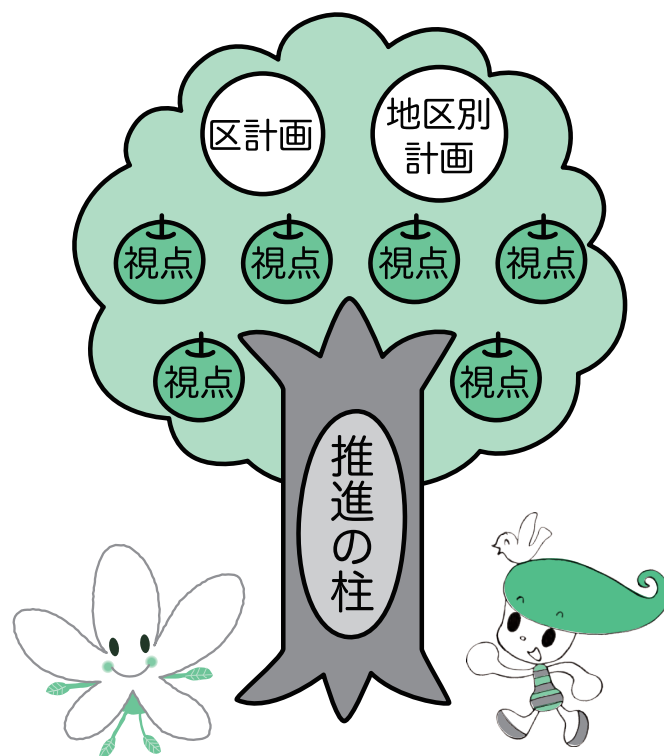
【居宅介護支援事業】

ケアマネジャーがケアプランの作成と介護保険サービスの調整を行います。

【デイサービス】

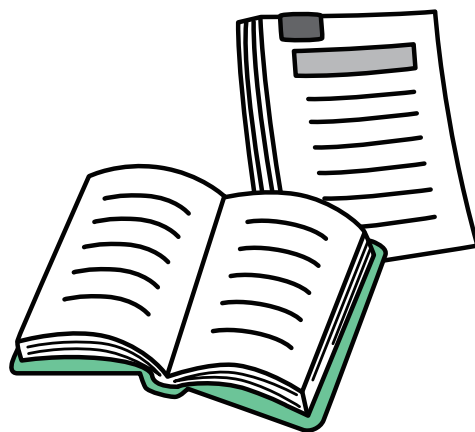
高齢者デイサービスなど、地域ニーズに合ったさまざまな福祉保健サービスを提供しています。

※平成28年度中に「すすき野地域ケアプラザ」が、すすき野一丁目に開所予定です。
※各施設の連絡先はP.91「関係機関一覧」をご覧ください。



第 5 章

資料編



● 団体別グループインタビュー・アンケート

青葉区民生委員児童委員協議会

身近な地域で活動されている民生委員児童委員の皆さんに、日頃の活動の中で感じていることについて、意見を伺いました。

回答者

青葉区民生委員児童委員（平成27年9月実施）

主な意見

つながりづくりに向けてあったら良いと思うことは・・・

- ・ 世代間交流ができるイベント。
- ・ 参加しやすい行事をとおして、顔見知りの関係をつくる。
- ・ 高齢の男性が集まれる場。
- ・ 地域の班単位のコミュニケーションを持つようにしたら、ごく身近な隣人達との関係も密度が高まり、共存意識が高まると思う。
- ・ 地域ケアプラザを身近な地域の拠点として、茶話会や体操教室等を開催していく。
- ・ “お助け隊” の様なちょっとした困りごとの手伝い。

一人ひとりが心がけると良いと思うことは・・・

- ・ いつでもどこでもあいさつからだと思ふ。
- ・ 声かけをし、地域の行事や集まりに誘うなど、日頃からの親しい間柄になっていくことが大切。
- ・ 子どもや登下校の小中学生、乳幼児を連れたママに積極的に声をかける。
- ・ 新聞や郵便物が溜まっていたら、声かけをしていく。

地域で見守りの目を増やしていくためには・・・

- ・ 班単位、隣近所で情報を伝えあい見守っていく。
- ・ 民生委員だけでなく、地域のボランティアとの関わりも必要。
- ・ 地域ケアプラザ、新聞配達所、郵便局、町内会、学校等の情報交換を密にして共有体制を推進する。
- ・ 見守りの目だけでなく、見守りできる接点を増やしていくことが大切。
- ・ 積極的に見守っているということではなく、さりげなく見守る。
- ・ 認知症、障がい等の理解を深めるため、自治会町内会、老人クラブ等、小さなグループで勉強や話し合う会を重ねる。
- ・ 個人情報保護について勉強していく必要がある。

地域の担い手を増やしていくためには・・・

- ・ 若い人達が参加しやすいように、活動日や活動場所等を工夫する。
- ・ 60代前半（定年前後）の方を対象に、ボランティアの説明会を開催。
- ・ 趣味等をいかし、地域活動ができるという方を募ってみる。
- ・ 学校やPTAと連携して、小さな頃から福祉活動に関わる機会を増やす。
- ・ 小中学校の総合学習で、地域を考える授業があると良い。

青葉区PTA連絡協議会

子育て世代の皆さんの意見を伺うため、青葉区PTA連絡協議会において、グループインタビューとアンケートを実施し、意見を伺いました。

回答者

区内各小中学校PTA会長（平成27年2月・9月実施）

主な意見

つながりづくりに向けてあったら良いと思うことは・・・

- ・夏祭り手伝い、清掃活動、防犯パトロール等の地域行事に参加する。
- ・若い世代が参加したくなるイベント。
- ・地域主催のイベントにPTAとしてもお手伝いできると良い。
- ・異世代の人とのつながりを大切にし、情報交換できる場があると良い。
- ・子ども達が高齢者とふれあえる場。
- ・中学生がいざという時、地域の力となれることがあると思うので、日頃から地域と関わりを持てると良い。
- ・合同避難訓練に子どもが参加。
- ・高齢者のゴミ出し等の手伝い。
- ・子どもの見守りを地域の皆さんと協力してやっていきたい。
- ・役員になって、地域の方々が子どもたちを見守る活動をしていることを知った。もっと多くの保護者に知ってもらうことが必要。

一人ひとりが心がけると良いと思うことは・・・

- ・無関心にならず、隣近所のお互いの顔を知ること。
- ・親が率先して、あいさつをする姿勢を子どもたちに見せていく。
- ・子どもや高齢者に気軽に声をかけ、関係を築く努力。
- ・深いつながりでなくとも、まずは「知っている人」がたくさんいることが大事。
- ・親の立場からできることは、自分の子どもだけでなく近所の子どもたちにもあいさつや声かけをして、地域で見守られている意識を持ってもらうこと。
- ・地域の構成員であることを一人ひとりが自覚すること。
- ・「夏祭り」「防災訓練」等、地域の大事な行事を継続していくためには、次の担い手を育てていかなければならないと思う。

地域につながりを持ち愛着を持つことができるようにするには・・・

- ・学校の総合学習時間を活用して、継続して地域との交流を持っていく。
- ・老人ホームが多いので、訪問する機会を増やす。
- ・地域の人から、昔のまちの様子や歴史について話を聞く。
- ・どんな人が住んでいるのか、どんな行事があるのかを知る。無理やり行事参加をさせるのではなく、子どもが自ら「やりたい!」と思って行動できるようなイベント。
- ・自分たちの住んでいる地域には、こんな素晴らしい人、もの、行事等があることを知る。
- ・大人が本気になって地域活動に参加し、その姿を子どもに見せる。将来子どもたちが他の地域に住むことになっても、心に残るのではないか。

子育て支援者等

日頃から、“地域子育て支援拠点”や“親と子のつどいの広場”などで、子育て世代を支援している皆さんに、意見を伺いました。

回答者

区内子育て支援者等（平成27年8月実施）

主な意見

つながりづくりに向けてあったら良いと思うことは・・・

- ・核家族が多いので、孤独にならない取組。
- ・高齢者と子ども達が触れ合うことができる機会。
- ・子育てを卒業した方が活躍できる場。
- ・マンションのお隣さんでさえ、名前を知らなかったりするので、仲間づくりのできる場が欲しい。
- ・子育て支援の場が増えたら良い。
- ・PTA、自治会町内会と連携した、登下校のパトロール。
- ・中高生が小さい子どもと接する場があると良い。
- ・世代が違うグループで、相互に交流したり、悩みを話し合ったりする機会。

一人ひとりが心がけると良いと思うことは・・・

- ・やはりあいさつ、声かけ、笑顔が大事。
- ・あいさつを大人だけでなく、子どもの習慣にするため、家庭や学校が見本となり、はたらきかけること。
- ・どんな人が住んでいるか気にかけること。
- ・とりあえず外に出て、色々な活動に積極的に参加すること。
- ・防災訓練、公園清掃等に参加する。
- ・少ない人数でも、支えあう関係を持つ事。
- ・自分も子どもの頃があったと、子どもたちをあたたかい目で見守ること。
- ・マンションでも知らない人が多いので、近くから関わりを深くすること。
- ・おせっかいの気持ち。

こんなご意見もありました・・・

- ・区外から転居してきた方が多く、知り合いもいない中で、出産、子育てをしているママは孤立しやすく、困った時にどこに助けを求めたらいいのか困っている方も多いです。親と子のつどい広場は、誰も知り合いがいなくても必ずスタッフがいるので、初めての親子でも利用しやすく、スタッフが間に入り、知り合いの輪を広げていく方も多いです。このような役割をもつ場が増えるといいなと思います。
- ・お互い様の気持ち。ご近所や友達に勇気を持って、甘えてみる。頼られると案外嬉しいもの…。頼み頼まれる関係を築けていけるとよい。
- ・孤立している高齢者と、育児でいっぱいになっているママとが関わる場所があるといいと思います。孫がすでに大きくなってしまっている高齢者は、小さい子と触れ合いたい気持ちでいっぱいの方です。
- ・子育て中のママは、近所の親世代の方々の存在が心強いはずで、地域の方々が気軽に話しかけたり、あいさつし合ったりする関係から、身近な相談相手になってくれるような温かい関係が築ける地域が理想です。

障がい当事者団体

障がい当事者団体の皆さんから、普段感じていることや、今後必要な取組などについて、意見を伺いました。

参加者

障がい者団体（青葉区社会福祉協議会会員団体）
（平成26年12月～平成27年2月実施）

主な意見

障がいへの理解について

- ・区民全体の障がい者への理解がまだまだ不十分。
- ・知ってもらうことが重要だと感じている。多くの人に障がいを知ってもらいたい。
- ・障がい者が住んでいる地域と関わりが少ない。近所の人とのコミュニケーションができていない。
- ・日常的な関わりの中で“障がい”について知ってもらう機会をつくる（小・中学校で行われる福祉教育、障害者週間キャンペーン等）。
- ・様々な媒体を活用した啓発活動を実施し、障がいに対する正しい理解を進める（“障がい”を知って・見て・聞いて・話をする機会をつくる）。
- ・障がいがあることについて、普段から関わっていれば、大変なことだけでなく、楽しいことも、できることも知ってもらえる。

災害対策について

- ・障がい者にとって、緊急時（災害時等）に情報入手に困難な場合があるため、情報は確実に伝えてほしい。
- ・災害時に自力避難が困難な障がい者、支援が必要な人の情報が把握されていない。「支えあいカード」の登録だけでなく、自分たちから知らせていくことも必要かもしれない。防災訓練に参加することで、地域に理解してもらう。
- ・災害時、障がいがある人にとって、より安心して過ごせる環境整備がされると良い（特別避難場所等）。
- ・災害時に備え、住んでいる地域との日常的な関わりを持つようにしたい。
- ・災害時に備えた地域の防災訓練などに障がい者が参加しやすくなるように、障がい者への対応方法などのマニュアルの整備等がされていると良い。
- ・避難所生活の様子が映像などで見られれば、防災訓練に参加できない障がい者であっても、発災に備えて必要なものを準備することができるし、避難所についても利用できるようになるのではないかと。
- ・発災時に障がい者が周囲からの手助けを受けやすくすることや情報不足に陥らないために、“障がいがある”ことを知らせる工夫をしたい。
- ・医療ケアが必要な障がい者などもある。発災時にはケアが必要な人に対して、迅速に対応してもらえるように、日頃から情報共有や連携ができるとよい。

地域活動の場と支える人材について

- ・障がい者は増えているのに、町でみかけない。
- ・外に出ていく場や機会を増やしていきたい。
- ・障がい者が参加する“場”や“機会”が足りない原因を分析・調査し、伝える方法の検討をしたい。
- ・障がい者に関わる人材が少ない（職員、ボランティア、ヘルパー等）。
- ・子どもの時から障がいのある人と一緒にいること、親しんでいることが障がい者を理解することにつながる。子どもだからこそ自然に受け入れられる。これから大人になる子どもたちに伝えていきたい。

中学生

中学校の福祉委員会の協力で生徒の皆さんからアンケートを取り、「こんなまちだといいな」ということについて、アイデアや意見を伺いました。

回答者

奈良中学校（平成27年1月実施）／谷本中学校（平成27年7月実施）

主な意見

こんなまちだといいな・・・

高齢者にやさしいまち

- ・ 地域の高齢者の方と積極的に話をする。
- ・ 重そうな荷物を持っていたら、助けてあげる。
- ・ 道路を渡るのを手伝ってあげる。
- ・ 学校で認知症について学ぶ。
- ・ 認知症の人が困っていたら、助けてあげる。
- ・ ポスター等を書く時は、大きく見やすい字で書く。

障がいのある人も住みやすいまち

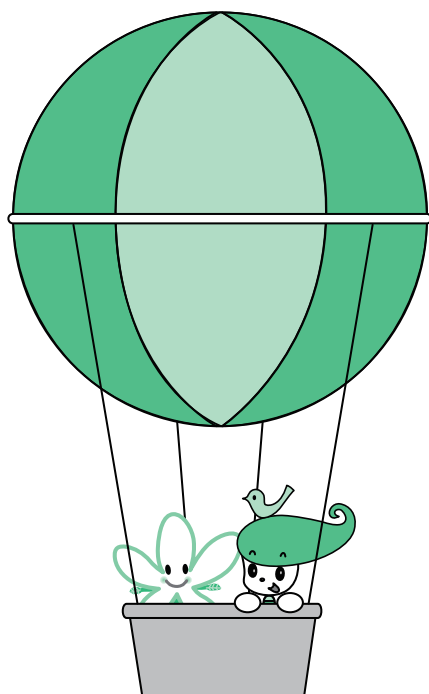
- ・ 困ってそうだったら、積極的に声をかける。
- ・ 車いすの方のバスの乗り降りを手伝ってあげる。
- ・ バスや電車では席を譲る。
- ・ 目が不自由な人、車椅子の人等がいたら、道を空ける。
- ・ ボランティア活動に協力して、役に立ちたい。

小さい子どもが安心して暮らせるまち

- ・ ベビーカーを持って階段を上っている人がいたら、手助けしたい。
- ・ 小さい子が公園に来たら、気をつけて遊ぶ。
- ・ 危険な遊びをしている子がいたら、注意をする。
- ・ 子どもたちの面倒をみたりする。
- ・ 交通ルールを教えてあげる。
- ・ 通学をしている子がいたら、声をかける。
- ・ 子ども向けのイベントを開いたりする。

みんなが助け合い、積極的に声かけできるまち

- ・ 年代が違う人でも互いに助け合えるまちになるといい。
- ・ 困っている人には声をかけ、手助けをする。でも自分ではできないことは無理をせず、大人に頼る。
- ・ 子どもや高齢者の役に立つことを自分で見つけ実行する。
- ・ 私たちみたいに若い世代の人が進んで助け合っていきたい。
- ・ みんなが顔見知りで、たくさん地域イベントがあるまちがいいと思う。
- ・ いろいろな人と連絡を取り合って、いざという時助けてもらったり、助けられたりできるようにする。



● 各種団体・委嘱委員等の紹介

自治会町内会

自治会町内会は、地域住民の連帯感を育み、地域の福祉・環境・防犯・防災等、さまざまな課題に取り組みながら、まちづくりを進めていく住民の自治組織です。

青葉区内には、平成28年3月現在166の単位自治会があり、この単位自治会が地域ごとに集まって、15の連合自治会町内会を形成しています。



救急救命講座

地区社会福祉協議会

地区社会福祉協議会（地区社協）は、地域住民が主体となり「誰もが安心して住みやすいまちづくり」のため連合自治会町内会エリアごとに組織された任意団体です。

それぞれの地区社協は、自治会町内会や民生委員児童委員など各種の地域団体が会員となり構成されています。

青葉区内には15の地区社協があり、それぞれの地区で食事会やサロン、福祉まつり、バス旅行、子育て広場等、区社協と連携を取りながら、地域の特性をいかした福祉保健活動を行っています。



子どもと高齢者の交流

民生委員児童委員

民生委員は、民生委員法に基づき、自治会町内会の推薦を受け、厚生労働大臣から委嘱され、市長が担当区域を定める非常勤特別職の地方公務員です。

青葉区では約300人の民生委員が、地域でさまざまな援助を必要としている人々の相談支援や、福祉サービスに関する情報提供を行っています。行政や関係機関へのつなぎ役として、また、身近な地域の相談役として、ひとり暮らし高齢者等の世帯を定期的に訪問し、見守りを行っているほか、食事会やサロンを開催している地域もあります。

また、児童委員は、児童福祉法に基づき児童委員を兼ねることとなっており、児童福祉を専門的に担当する主任児童委員もいます。児童健全育成のための多様な支援を関係機関等と連携して進めています。



食事会



子育て広場

※各委嘱委員等の人数は平成28年3月時点の数字です。

保健活動推進員

保健活動推進員は、地域の健康づくりの推進役で、行政の健康づくり施策のパートナーです。自治会町内会の推薦を受けて、市長から委嘱され、青葉区では16地区で約300人が活動しています。

保健活動推進員は、自身の健康づくりとともに、地域ケアプラザや公園等で「体操教室」「健康講座」「健康チェック」「ウォーキング」などの活動を行い、地域全体の健康づくりのための支援を行っています。



ウォーキング

食生活等改善推進員（ヘルスマイト）

青葉区食生活等改善推進員会（青葉区ヘルスマイト）は、食生活等改善推進員セミナーを受講した修了生で構成されるボランティアグループです。「私たちの健康は私たちの手で」を合言葉に食生活を中心とした健康づくりの啓発を進めています。地域ではライフステージに応じた食育講習会や、防災訓練などで災害時に役立つ健康づくりの講習会を行っています。



健康フェスティバル

老人クラブ

老人クラブは、趣味やスポーツ、高齢者・子どもの見守りやボランティア活動等の地域貢献をとおして仲間をつくり、生きがい・健康づくりの活動をしています。入会を希望する概ね60歳以上の高齢者を対象とし、自治会町内会などの歩いて集まることができる範囲で組織しています。平成28年3月現在、青葉区内には88のクラブがあり、5,000人以上の会員が所属しています。



公会堂でダンス披露

青少年指導員

青少年指導員は、自治会町内会等からの推薦に基づいて、市長が委嘱し、青少年の健全育成を図ることを目的に活動しており、青少年の自主活動とその育成活動を推進しています。青葉区では約170人が活動しており、主な活動として、地域でのパトロールや地域の特性に合わせたイベント等を実施しています。



紙ヒコーキ大会

スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法、横浜市スポーツ推進委員規則に基づき、自治会町内会から推薦され、市長から委嘱されます。青葉区では約180人が活動しており、主な活動として自治会町内会を中心とした各地域においてスポーツ・レクリエーションの普及活動や、市や区が実施する各種イベントの運営・協力を行っています。



カローリング研修会

● 第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会 名簿

第3期青葉区地域福祉保健計画策定委員会 名簿

(敬称略・順不同)

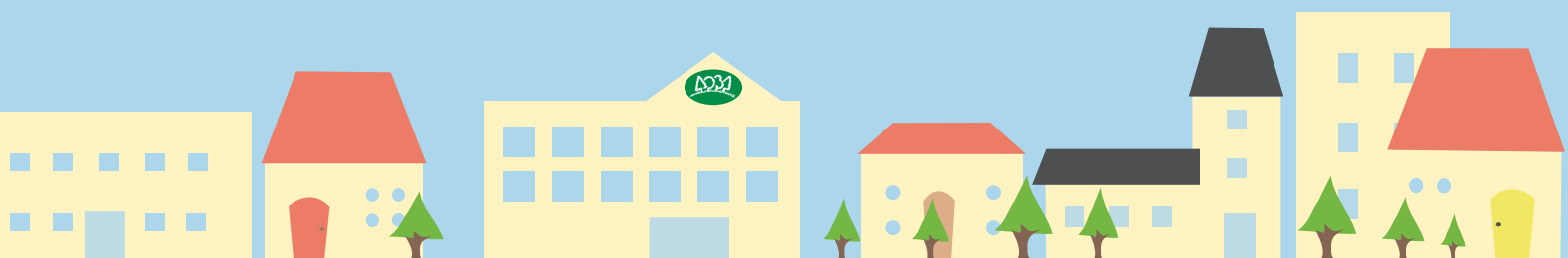
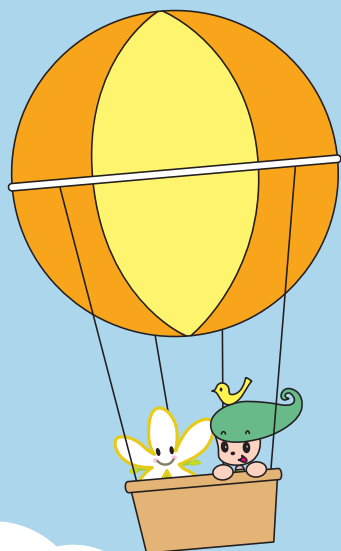
氏名	所属団体
山川 英子 (※)	青葉区連合自治会長会
山本 俊夫	青葉区医師会
下山 和夫	青葉区歯科医師会
渡辺 紀美枝	青葉区薬剤師会
安藤 吉昭	青葉区社会福祉協議会 地区社会福祉協議会分科会
吉村 春美	青葉区民生委員児童委員協議会
吉村 由美子	青葉区民生委員児童委員協議会 主任児童委員連絡会
保谷 節子	青葉区保健活動推進委員会
相原 照世	青葉区老人クラブ連合会
中西 晴之	青葉区地域自立支援協議会
戸塚 昌行	青葉区PTA連絡協議会
鈴木 和千代	青葉区スポーツ推進委員連絡協議会
志村 さつき	青葉区青少年指導員連絡協議会
三村 徳子	青葉区社会福祉協議会 ボランティア・市民活動分科会
村井 祐一	田園調布学園大学

(※) 策定委員長

● 関係機関一覧

(平成 28 年3月時点)

	名 称	電話番号	主な業務内容
青葉区役所	総務課	978-2213	防災・災害対策 等
	区政推進課	978-2216 ～ 7	区の主要事業の企画・調整 等
	地域振興課	978-2291 ～ 2	自治会町内会、区連合自治会、防犯 等
	福祉保健課	978-2436 ～ 7	地域福祉保健計画、地域ケアプラザ等の運営・管理、民生委員児童委員、保健活動推進員、感染症対策、健康増進 等
	高齢・障害支援課	978-2444 ～ 5	要介護高齢者支援、介護予防支援、身体障害者・知的障害者・精神保健福祉、難病患者支援、介護保険認定、老人クラブ 等
	こども家庭支援課	978-2457 ・2459	子育て支援、乳幼児から学齢期・思春期までの子育てに関する相談、保育園、障害児福祉、児童虐待対策、放課後児童育成事業、学校連携 等
	生活支援課	978-2446	生活保護の相談・申請、生活困窮者支援 等
地域ケアプラザ (地域包括支援センター)	横浜市荏田地域ケアプラザ	911-8001	【地域ケアプラザ】 自主事業の開催、地域活動の紹介・調整、ボランティア活動への支援・コーディネート、福祉保健活動の場の提供（貸室）等 【地域包括支援センター】 福祉保健に関する相談、高齢者の介護や権利擁護、介護予防事業、介護保険の相談 等
	横浜市もえぎ野地域ケアプラザ	974-5402	
	奈良地域ケアプラザ	962-8821	
	横浜市さつきが丘地域ケアプラザ	972-4769	
	横浜市美しが丘地域ケアプラザ	901-6665	
	横浜市大場地域ケアプラザ	975-0200	
	横浜市鴨志田地域ケアプラザ	961-6911	
	ビオラ市ケ尾地域ケアプラザ	308-7081	
	青葉台地域ケアプラザ	988-0222	
	横浜市恩田地域ケアプラザ	988-2010	
	横浜市たまプラザ地域ケアプラザ	910-5211	
特別養護老人ホーム 緑の郷	903-8500		
青葉区社協	青葉区社会福祉協議会	972-8836	地区社協活動支援、送迎サービス事業、あんしんセンター（権利擁護）事業、移動情報センター 等
	あおばボランティアセンター「福祉 110 番」	972-7018	ボランティアに関する相談、福祉教育 等
その他の拠点等	あおば地域活動ホーム すてっぷ	988-0222	障がい児・者に関する一般的な相談、障がいのある人の日中活動事業、余暇支援 等
	青葉区生活支援センター ほっとサロン青葉	910-1985	精神障がいのある人の日常生活相談、フリースペースでの仲間づくり 等
	青葉区中途障害者地域活動センター 青葉の風	972-6751	中途障がい者の活動についての相談、脳血管疾患の後遺症のある方のリハビリ教室、高次脳機能障がいの相談 等
	青葉区地域子育て支援拠点 ラフル	981-3306	親子の居場所、子育て相談、子育て情報の提供、ネットワーク作り、横浜子育てサポートシステム 等
	青葉区区民活動支援センター	989-5265	市民活動、生涯学習、ボランティア活動 等
	青葉国際交流ラウンジ	989-5266	国際交流、生活情報の提供や相談 等



第3期青葉区地域福祉保健計画

平成28年3月発行



横浜市青葉区役所福祉保健課

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町31-4

TEL : 045-978-2436 FAX : 045-978-2419

HP : <http://www.city.yokohama.lg.jp/aoba/>



社会福祉法人 横浜市青葉区社会福祉協議会

〒225-0024 横浜市青葉区市ケ尾町1169-22

TEL : 045-972-8836 FAX : 045-972-7519

HP : <http://www.aosha.jp/>